# 扇が丘ハワイゴク遺跡

扇が丘・住吉土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

2003

野　々　市　町
野々市町教育委員会

# 扇が丘ハワイゴク遺跡

扇が丘・住吉土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

2003

野　々　市　町
野々市町教育委員会

# 例　　言

1　本書は石川県石川郡野々市町扇が丘に所在する扇が丘ハワイゴク遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は野々市町扇が丘住吉土地区画整理事業に係るものであり、野々市町産業建設部都市計画課からの依頼を受けて野々市町教育委員会が実施した。各年度の調査期間、面積、担当者は以下のとおりである。

| 調査年度 | 調査期間 | 調査面積 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|
| 平成 9年度 | 5/ 9～10/21 | 4,700㎡ | 横山貴広（町教委主事）、永野勝章（同左） |
| 平成10年度 | 5/ 7～ 8/10 | 1,783㎡ | 横山貴広（同主査）<br>布尾和史（同主事・県教委文化財課派遣） |
| 平成12年度 | 5/11～ 6/20 | 260㎡ | 徳野裕子（同主事） |

3　発掘調査にあたっては、野々市町産業建設部都市計画課の協力を得た。

4　遺物の整理及び報告書作成に必要な記録資料の整理については竹田倫子・野村祥子がおこなった。その他図版作成・遺構図トレース・写真撮影を横山が担当した。

5　本書の執筆及び編集は各担当者と協議の上横山がおこなった。

6　図版の縮尺はすべて図上に標示し、水平基準線レベルは海抜高である。なお、方位はすべて磁北を指す。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。

7　調査によって得られた資料は、すべて野々市町教育委員会が一括して保存管理している。

8　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々や機関からご教示、ご協力をいただいた。以下にご芳名を記して深甚の謝意を表したい。（順不同、敬称略）

垣内光次郎・木立雅朗・北野　博・出越茂和・藤田邦雄・本田秀生・吉岡康暢

石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター・金沢市埋蔵文化財センター

# 目　　次

第１章　位置と環境 ……1

第１節　遺跡の位置と地理的環境 ……1
第２節　周辺の遺跡 ……1

第２章　調査に至る経緯と経過 ……5

第１節　調査に至る経緯 ……5
第２節　1997年度の調査 ……5
第３節　1998年度の調査 ……6
第４節　2000年度の調査 ……6

第３章　遺構と遺物 ……8

第１節　調査の概要 ……8
第２節　弥生時代以前の遺構と遺物 ……8
第３節　古代の遺構と遺物……15
第４節　中世以降の遺構と遺物……18
遺物観察表……74

第４章　まとめ……78

第１節　はじめに……78
第２節　出土遺物の組成……78
第３節　集落の変遷と構造……78

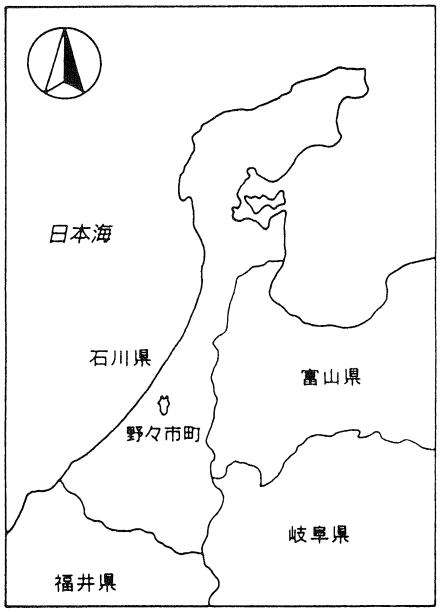
調査写真図版……85

遺物写真図版 ……104

# 第１章　　位置と環境

## 第１節　遺跡の位置と地理的環境

石川郡野々市町は、石川県のほぼ中央南寄りに位置し、町域のほとんどは手取川によって形成された広大な手取川扇状地の扇央部東北～北端に当たる。白山連邦を源とする手取川は、鶴来町付近より流路を北から西方向に転じ、石川郡美川町にて日本海へ注いでいる。手取川扇状地はこの県下最大の河川の堆積作用により扇径約12km、展開度約110度の規模を有し、往時の加賀百万石を支えた中核としてその威容を金沢平野に横たえている。町域の北側から東側にかけての一帯を金沢市に、西側から西南にかけての一帯を松任市に、また南側を鶴来町に接する当町は、古くから交通の要地、商都として開かれた。その伝統は今に伝えられ、面積約13.56km²、人口約43,000人を有する日本海側随一の雄町として発展を続けている。




**第1図**　野々市町位置図

扇が丘ハワイゴク遺跡は、この野々市町の東端に当たる扇が丘地区の通称「ハワイゴク」に存在しており、標高21～23mを測る手取川扇状地に特徴的に見られる痩せ尾根上に立地していた弥生時代後期後半と奈良時代～中世の集落跡と考えられる複合遺跡である。本遺跡の東側には伏見川によって形成された扇状地が間近に迫っており、一帯は両扇状地に挟まれた低湿地帯となっていたことが予想されており[1]、周辺に連なる遺跡群の生産基盤となっていたことが予測される。この扇が丘ハワイゴク遺跡を擁する野々市町扇が丘・住吉地区は、町施行による土地区画整理事業もいよいよ終盤を迎え、都市計画道路高尾・堀内線の開通や良好な住宅用地の供給等、周辺の景観は調査当時とは比べ物にならないほどの変貌を見せており、至近に広がる金沢工業大学を核とした文教地区の存在と併せ、健全な環境のもと急速な発展を続けている。

註　1　『扇が丘ゴショ遺跡』（1998　石川県立埋蔵文化財センター）掲載図版１による。

## 第２節 周辺の遺跡

本遺跡の所在する手取川扇状地扇端北東部周辺では、縄文時代から連綿と続く多くの遺跡が確認されており、とりわけ現高橋川流域では、本遺跡を含む上・下流域に弥生時代後期～末を中心とした良好な集落跡が連なるように営まれていたことが最近の調査結果から想定されるようになった。

本遺跡の周辺で最初に人々の足跡が確認されるのは、山間地の散布地を除けば富樫丘陵麓に立地する縄文時代中期中葉の額谷カネカヤブ遺跡である。その後、後・晩期になると、平野部における拠点的集落である米泉遺跡・御経塚遺跡・新保チカモリ遺跡といった、長期に亘り安定した様相を見せる遺跡が出現する。これら３遺跡については、確認された遺構・遺物の量の豊富さと質の高さからともに北陸の縄文時代を代表する遺跡として位置付けられている。

弥生時代に入ると、本遺跡の周辺でも前期柴山出村式期の資料が検出された遺跡が散見されるようになる。この内、高橋セボネ遺跡SK-46出土土器は該期の遺構出土土器として希少である。また、押野タチナカ遺跡・御経塚遺跡・御経塚シンデン遺跡では一定量確認されているもののすべて包含層資料であり、集落構造までを推し量るものではないが、出土状況については以降続く後期後半までに大きな断絶があり、むしろ縄文時代晩期後半～末的色彩が強いことが特筆される。中期についても希薄な状況はさほど変わらず、僅かに押野タチナカ遺跡８号住居跡に磯部式に比定される一群を認める程度である。また、押野大塚遺跡・御経塚遺跡ツカダ地区においては先行する矢木ジワリ式土器も僅かに確認されている。続く後期になると、法仏式期以降県内一円に見られる傾向に漏れず本遺跡周辺でも集落の数は急速に増加し、規模も拡大するようになる。至近な部分だけに目を向けても、高橋川の流路に沿うようにして南から大額キョウデン遺跡、額新町遺跡、扇台遺跡、扇が丘ハワイゴク遺跡、扇が丘ゴショ遺跡、高橋セボネ遺跡、横川・本町遺跡、押野ウマワタリ遺跡の８遺跡が連なるようにして営まれており、一帯が当時の中心的な地域であったことがわかる。この他、近隣では押野タチナカ遺跡を中核とした押野地区や、地下水の自噴地帯に位置する御経塚遺跡群なども当時の中心的な集落として知られている。

古墳時代に入ると、前代の増加・拡大傾向から一転して集落の確認は希薄になる。前述の高橋川流域では扇台遺跡以南の３遺跡で前期まで存続することが確認されているが、確実な遺構を伴うものは額新町遺跡の竪穴出土資料のみである。また、下流域については、横川・本町遺跡で弥生時代終末以降古墳時代初頭にかけて墓域に転換する[1]ことが確認されているが、調査面積が僅かであり全容は知り得ない。この時期、御経塚地区では４基の前方後方墳を盟主とし、その他を方墳で構成された全15基からなる御経塚シンデン古墳群が造営される。これらは直前まで営まれていた集落を移動させて造営されており、畿内・東海の影響を受けつつ在地首長層の再編がおこなわれたことを物語っている。なお、基盤となる集落については金沢市の上荒屋遺跡が想定されている。また、御経塚シンデン遺跡では前期古墳群の造営が終了した後、しばらくの空白期をおいて６世紀末～７世紀初頭のごく短い期間再び集落が営まれている。

奈良時代以降、平安時代にかけて周辺では野々市町の南部地区に遺跡が集中する傾向が見られる。７世紀第３四半期、白鳳期の建立とされる末松廃寺跡を中心として、末松から上林、新庄地区では７世紀前半代に集落の萌芽をみ、同後半から９世紀前半代にかけて爆発的と言ってもよい規模で拡大する。中でも上林新庄遺跡・下新庄アラチ遺跡は一帯の中心的な集落と思われ、当時の拝師郷の郷家と言ってもよいほどの内容を持つ。本遺跡周辺でも巡方を出土した額谷カネカヤブ遺跡や、扇が丘ハワイゴク遺跡（平成２・３年度石川県立埋蔵文化財センター調査）で見られた四面庇付の御堂を髣髴とさせる建物の存在など、特殊な機能を有する集落跡が確認されている。

中世期に入ると、周辺での遺跡の動向は加賀の守護富樫氏の本拠となった野々市町本町二丁目から扇が丘・住吉にかけての一帯に集中する傾向が見られる。平成６年度の調査で館内郭を巡ると思われる濠跡を確認した富樫館跡を始めとして、同蝮土居地区、扇が丘ヤグラダ遺跡などが連なり、南東約1.5kmに所在する高尾城跡を含め周辺が該期の一大中心地であったことを物語るものである。1488年（長享２）、加賀一向一揆での富樫正親の自刃により、加賀は広く百姓の持ちたる国として長い自治の時代に入り、野々市という地名も1546年（天文15）の金沢御堂創建によりしばらく歴史の舞台からその名を消すこととなる。近世に入って野々市町各地の地名が文献に登場するのは主に村御印によるところが多く、この頃にはほぼ現在の集落の基礎が出来上がっていたものと思われる。

註　１　金沢市埋蔵文化財センター　前田雪恵氏のご教示による。

金沢市
大額町
01107
01108
01109
01111
01110
01106
01104
01103
01142
01141
01139
01138
01136
01135
01134
01133
01132
01131
01130
01129
01128
01127
01126
01125
01124
01123
01122
01121
01120
01119
01118
01117
01116
01115
01114
01113
01112
01400
01399
01398
01397
01396
01395
01394
01393
01392
01391
01390
01389
01388
01387
01386

# 周 辺 遺 跡 一 覧

『石川県遺跡地図』石川県教育委員会1992より

| 野々市町 | | |
|---|---|---|
| 16002 | 上新庄ニシウラ遺跡 | (弥・古・奈) |
| 16004 | 上林新庄遺跡 | (縄・古～平) |
| 16005 | 上林古墳 | (古後) |
| 16007 | 下新庄タナカダ遺跡 | (奈・平) |
| 16008 | 粟田遺跡 | (縄・奈・平) |
| 16034 | 上宮寺跡 | (室) |
| 16035 | 押野館跡 | (室) |
| 16036 | 押野タチナカ遺跡 | (弥～古) |
| 16037 | 押野ウマワタリ遺跡 | (弥後) |
| 16038 | 押野大塚遺跡 | (縄・弥) |
| 16039 | 富樫館跡 | (中世) |
| 16040 | 高橋ウバガタ遺跡 | (弥末) |
| 16041 | 高橋セボネ遺跡 | (弥前・後・奈後) |
| 16042 | 扇が丘ゴショ遺跡 | (弥～中世) |
| 16043 | 扇が丘ヤグラダ遺跡 | (縄～中世) |
| 金　沢　市 | | |
| 01002 | 四十万Ｂ遺跡 | (平・中世) |
| 01005 | 四十万中世墓群 | (中世) |
| 01008 | 高尾城跡 | (室) |
| 01069 | 八日市サカイマツ遺跡 | (縄・奈・平) |
| 01070 | 八日市ヤスマル遺跡 | (弥・奈・平) |
| 01072 | 押野西遺跡 | (縄・弥・奈・平) |
| 01073 | 押野大塚古墳 | (古) |
| 01103 | 御廟谷墳墓群 | (中世) |
| 01104 | 額谷遺跡 | (古) |
| 01105 | 額谷ドウシンダ遺跡 | (縄～平) |
| 01106 | 額谷城跡 | (平) |
| 01107 | 高雄山寺遺跡 | (不詳) |
| 01108 | 狐青横穴群 | (古) |
| 01109 | 高尾古墳 | (古) |
| 01110 | 高尾Ｂ遺跡 | (奈) |
| 01111 | 高尾ジョウザブロウ横穴 | (古後) |
| 01112 | 高尾Ａ遺跡 | (奈・平) |
| 01113 | 高尾Ｃ遺跡 | (弥・古) |
| 01114 | 高尾天神堂遺跡 | (平) |
| 01115 | 高尾新町遺跡 | (奈・平) |
| 01116 | 高尾新マトバ遺跡 | (奈・平) |
| 01117 | 窪遺跡 | (古・中世) |
| 01118 | 高尾イシナ塚古墳 | (古) |
| 01119 | 高尾公園遺跡 | (平) |
| 01120 | 大額キョウデン遺跡 | (弥～古・平) |
| 01121 | 扇台遺跡 | (弥・平) |
| 01122 | 扇が丘ハワイゴク遺跡 | (縄～中世) |
| 01123 | 久安トノヤシキ遺跡 | (古) |
| 01124 | 久安さんまい川遺跡 | (平) |
| 01125 | 米泉遺跡 | (縄・弥・平) |
| 01126 | 有松Ｄ遺跡 | (古・平・室) |
| 01127 | 有松Ｂ遺跡 | (平) |
| 01128 | 有松Ｃ遺跡 | (縄～古) |
| 01129 | 有松Ａ遺跡 | (縄) |
| 01130 | 寺地シンドロ遺跡 | (古～平) |
| 01131 | 寺地向田遺跡 | (奈) |
| 01132 | 円光寺向田遺跡 | (奈・平) |
| 01133 | 円光寺Ｂ遺跡 | (縄) |
| 01134 | 寺地Ｂ遺跡 | (奈・平) |
| 01135 | 寺地Ａ遺跡 | (縄・奈・平) |
| 01139 | 円光寺Ａ遺跡 | (縄) |
| 01141 | 山科やなした遺跡 | (奈・平) |
| 01142 | 山科かなした遺跡 | (古) |
| 01398 | 四十万遺跡 | (縄) |
| 01399 | 三十刈遺跡 | (奈～平) |
| 01400 | 馬替遺跡 | (縄) |

# 第２章　調査に至る経緯と経過

## 第１節　調査に至る経緯

扇が丘ハワイゴク遺跡の発掘調査は野々市町扇が丘住吉土地区画整理事業の施行に伴い実施された緊急発掘調査であり、現地における実調査は平成９・10年度と同12年度の３次にわたった（第３図参照）。これに先立ち、本調査区の東側では高橋川の改修を原因として平成２・３年に石川県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しており、御堂を髣髴とさせる四面庇付掘立柱建物を確認するという成果を上げている。この結果を受け、町教育委員会としても野々市町側での扇が丘ハワイゴク遺跡の詳細な広がりを把握する必要を感じ、平成６年度に当該区画整理事業予定地区全域について埋蔵文化財分布確認調査を実施している。その結果、対象地内には西より富樫館跡鬼ヶ窪地区・同蝮土居地区・扇が丘ヤグラダ遺跡の新たな遺跡が存在することに加え、本遺跡の詳細な分布範囲が明確となり、町産業建設部都市計画課と協議をおこなった。その結果、本遺跡については都市計画道路高尾・堀内線の築造予定範囲を最優先に、順次都市公園予定地を除く遺跡推定地全域に対して発掘調査を実施することで合意を得た。

## 第２節　1997年度の調査

都市計画道路高尾・堀内線の築造予定地及びその南側に広がる民地部分の発掘調査であり、当初の計画では約5,000㎡の調査予定であったが、調査地を南北に延びる基幹農道と用水の撤去が不可能となったこともあり、最終的には4,700㎡の調査となった。平成９年４月25日付で町産業建設部都市計画課長より町教育長に宛てて埋蔵文化財調査依頼が提出され、同５月６日付で回答として実施計画書を提出している。現地での調査は５月９日より着手し、10月21日に埋め戻しを含めたすべての作業を終了している。調査期間は延べ166日間を要している。

**５月９日（金）**　重機オペレーターとの現地打ち合わせ終了後調査区設定。畑作の関係で２区及び３・４区北半を先行して表土除去することとする。
**５月12日（月）**　重機搬入、表土除去作業開始。
**５月16日（金）**　現場仮設小屋建て上げ、備品搬入。
**５月19日（月）**　調査開始。周辺草刈後遺構検出。
**５月20日（火）**　１次表土除去作業終了。重機を一旦搬出する。
**６月11日（水）**　３・４区南半及び５区表土除去作業開始。
**６月19日（木）**　２次表土除去作業終了。
**７月９日（水）～17日（木）**　現場排水作業。長雨のため調査休止。連日の排水作業をおこなう。
**８月26日（火）・27日（水）**　布水中学校２年生職場体験受け入れ。
**９月11日（木）**　２・３区航空測量実施。
**10月２日（木）**　４・５区航空測量実施。
**10月３日（金）**　機材等撤収。
**10月７日（火）**　調査区埋め戻し作業開始。
**10月21日（火）**　調査区埋め戻し作業終了。本日ですべての行程を終了する。

## 第３節　1998年度の調査

前年度調査区の北側及び高橋川の流路を挟んだ右岸南側にあたり、全域が民地部分での調査である。当初予定面積は約3,000㎡であったが、高橋川右岸南調査区（７区）については遺構密度が極端に薄く、覆土も暗灰色を呈し水分を多く含む強粘土であったため縄文時代の旧河道跡を検出した部分に絞り、他はトレンチによる確認調査とすることに方針を転換した。結果として最終調査面積は1,783㎡となっている。平成10年４月27日付で町産業建設部長より町教育長に宛てて埋蔵文化財調査依頼が提出され、これを受けて同５月６日付で実施計画書を提出している。現地での調査は５月７日より着手し、８月10日に埋め戻しを含めたすべての作業を終了した。調査期間は延べ96日間を要している。

**５月７日（木）**　重機オペレーターとの現地打ち合わせ終了後調査区設定。工事日程の関係で橋梁工事により破壊を受ける１区東側部分を最優先して調査をおこなうこととする。

**５月11日（月）**　重機搬入、表土除去作業開始。

**５月14日（木）**　１区東半表土除去作業終了。一旦重機を搬出する。

**５月15日（金）**　現場仮設小屋建て上げ、備品搬入。工事日程の関係で１区東半は緊急を要するため、航空測量をおこなう入札の日程が合わず遺構完掘後直ちに手実測で追いかけることとする。測量用杭打ち作業実施。

**５月20日（水）**　遺構検出作業開始。

**５月27日（水）**　遺構平面実測作業開始。

**６月５日（金）**　１区東側部分調査終了。

**６月10日（水）**　１区東半埋め戻しと共に西半部分の表土除去作業を開始。

**６月16日（火）**　１区西半遺構検出開始。

**６月30日（火）**　１区の調査と並行して７区の調査区を設定。

**７月１日（水）**　７区表土除去作業開始。

**７月２日（木）**　７区表土除去作業終了。

**７月６日（月）**　７区道具小屋（ユニットハウス）搬入。

**７月８日（水）**　１区西半航空測量実施。機材等を７区へ移動。

**７月28日（火）**　７区航空測量実施。

**８月10日（月）**　埋め戻し作業終了。本日ですべての行程を終了する。

## 第４節　2000年度の調査

５区の南側に造成予定の都市公園内に設けられる曲水部分の調査であり、事前の打ち合わせで工事掘削面が遺構面に達するとの判断から急遽調査をおこなうこととした。平成12年４月３日付で町産業建設部長より町教育長に宛てて埋蔵文化財調査依頼が提出され、同日付で実施計画書を提出している。該当面積は260㎡であり、現地での調査には５月11日から６月20日までの延べ41日間を要している。現地では調査着手前にすでに旧高橋川に注いでいた周辺用水の水を現高橋川に落とす仮設の排水路が掘削されており、一部遺跡を破壊していたことが悔やまれる。

**５月11日（火）**　重機オペレーターとの打ち合わせ終了後調査区設定。

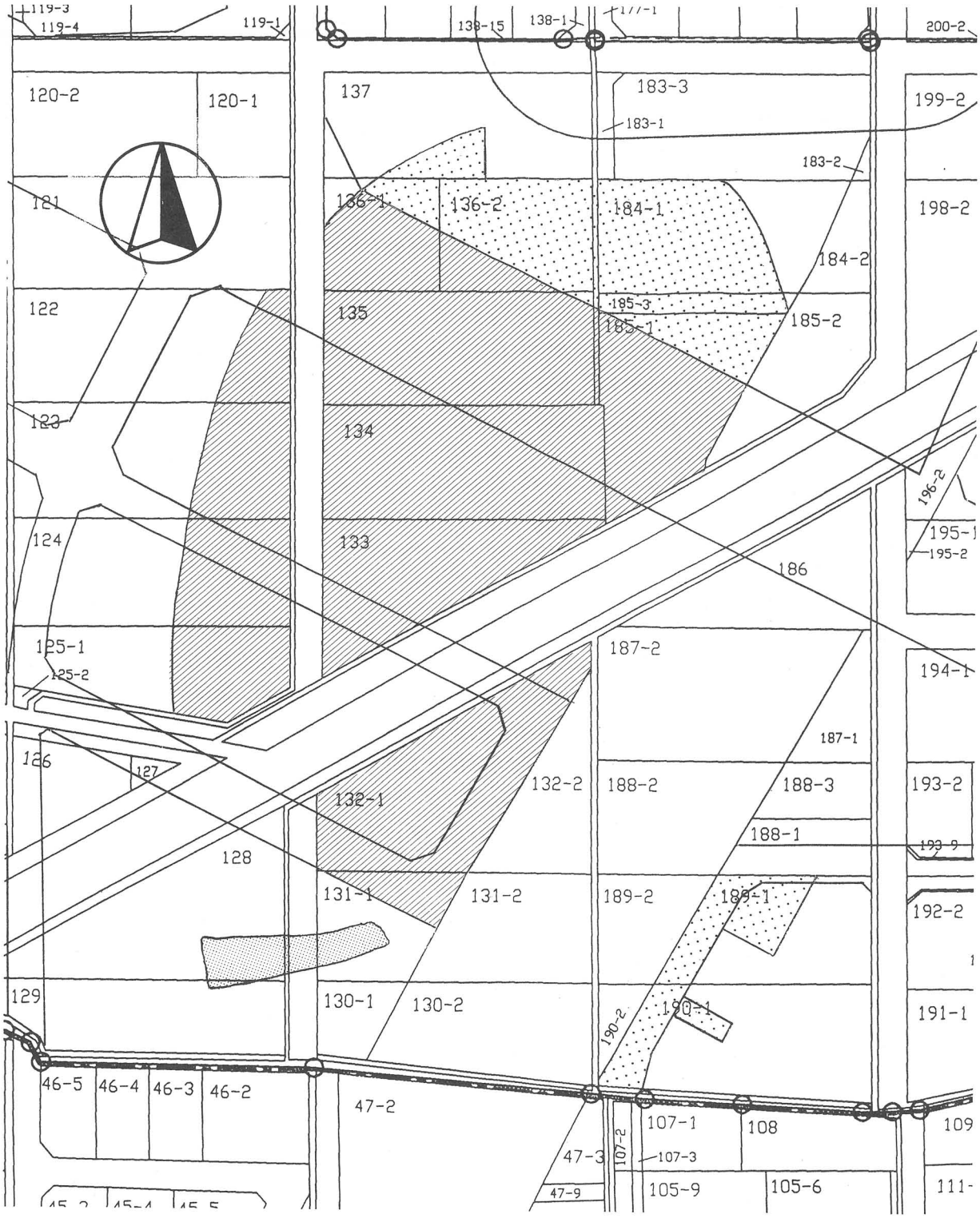
**５月15日（月）**　表土除去作業開始。同日で終了。

**５月18日（木）**　遺構検出作業開始。

**５月29日（月）**　実質的な遺構検出作業は本日で終了。

**５月30日（火）～６月16日（金）**　平面図、土層図作成作業。写真撮影。補足調査実施。

**６月20日（火）**　機材撤収。本日で現地作業を終了する。




平成9年度　平成10年度　平成12年度

0　50m

**第3図**　調査区図(S=1/1,000)

# 第３章　遺構と遺物

## 第１節　調査の概要

扇が丘ハワイゴク遺跡は標高21～22m程度を測る手取川扇状地の北東端部に位置する集落跡であり、縄文時代後期中葉から15世紀後半にかけて、長短の断絶を挟みながら人々の生活の舞台となった遺跡である。この内、遺構・遺物の出土状況より中心となるのは中世期であり、11世紀末の段階で古代とは一線を画した初現的な中世集落の萌芽を見る。その後12世紀末から13世紀初頭の段階では、開発領主的地位を窺わせる大型の掘立柱建物を中心に集落としての成熟期を迎える。以降14世紀代にかけて集落内の区画を移動しながら性格をも変えて営まれ続け、15世紀以降急速に衰退していく。周辺に分布する該期遺跡群の動向と併せ、時代的にも加賀の守護富樫氏の治世のルーツに関わるとも言える貴重な調査成果をもたらした。

## 第２節　弥生時代以前の遺構と遺物

１　縄文時代（遺物　第５図）

本遺跡からは若干の縄文土器と一定量の打製土掘具が出土しているが、ここで扱うのは単独で遺構に付随するものと包含層出土遺物に限った。その他後代の遺構に混入したものについては、報告書という体裁上、該期の遺物の広がりを示す目的から敢えて抽出をおこなわず、遺構の帰属時期を問わずに出土地点を優先して報告している。そのため、図版によってははなはだ煩雑な印象を受けるものもあるがご了承願いたい。なお、このことは縄文時代遺物に限らず、古代以前のものについても中世に帰属する遺構の中で同様な扱いをしている。それらについての詳細は、本章第４節末の遺物観察表を参照願いたい。また、ＳＤ－１７以外の遺構については実測図を割愛している。

**ＳＰ－０１**

１区東南隅に位置し、略楕円形を呈する２段掘りのピットである。長径50cm、短径42.2cm、深さ最深部で30.5cmを測る。遺物は打製土掘具が１点出土している。６は図の上半を欠損しているが、長さ現存で13.1cm、幅7.9cm、厚さ2.1cm、重さは268ｇであり、自然面を多く残している。石質は凝灰岩である。

**ＳＰ－０２**

１区東南角近くに位置し、略楕円形を呈する。長径30cm、深さ9.5cmの小さなピットであり、暗褐色土を基調とした単層のものである。遺物は１点出土している。１は口縁部が大きく外反して開く深鉢である。内外面共に強い横ナデを施し、端部は強い摘みナデで先細りに仕上げた後等間隔で外面より強く押圧を加え波状に見せる。黄褐色を呈し焼成は良い。

**ＳＰ－１８**

３区中央南端に位置し、楕円形を呈する。長径64.8cm、短径54.4cm、深さ20cmを測る大型のピットである。２は斜位に縄文を施す体部片である。褐灰色を呈し、施文原体はＬＲである。他に羽状縄文を施す同一個体と思われる体部小片が１点出土している。

**ＳＰ－１９**

ＳＰ－１８のすぐ北側に位置する略楕円形を呈するピットであり、長径30.4cm、深さ9cmを測る。３は灰黄褐色を呈する浅鉢の口縁部小片である。口唇端部に体部と同一の原体で縄文を施しており、

沈線と口縁端部の広がりより波状口縁となる可能性がある。

**ＳＰ－３０**

３区北東側、ＳＩ－０５の西に接する不定形のピットであり、内部にテラスを有する。長径46.4cm、深さ中央で35cmを測る。４は口縁端部が大きく外反して開く精製の深鉢である。端部に上面より等間隔で押圧を加え、小さな波状に見せる。外面に上位より３本－２本－３本のヘラ沈線を横位に施し、外周に対して約30度に１回の割合で（・）状の線刻を持つ。内面は４本のやや太いヘラ沈線をやはり横位に施し、外面に対応する位置で円形の刺突文を上下に２列持つ。全体に炭化物が付着しているが、胎土の素地はにぶい黄橙色を呈する。

**ＳＤ－１７**（遺構　第４図）

高橋川の右岸７区の北端に位置する自然河道である。環状を呈するように見えるが、検出時に黒色土を確認した部分のみの掘進であり、実際は黒色土が内側下層へ続いておりすべてが河道となる。内側については上面を黄褐色土が覆っており、後代の耕作に関係する畝間溝状の溝が確認されている。また、弥生時代後期後半の壷半個体分も確認されており、このころまでには機能を失い埋まったものと考えられる。遺物については水分を多く含んだ非常にもろい状態での出土であり、接合は適わなかった。平成２年度に石川県立埋蔵文化財センターが検出した流路と一致するものである。また、溝本体に帰属する遺物は出土していない。

**包含層出土遺物**

土器片が１点、打製土掘具が７点出土している。本遺跡からは後代の遺構に混入したものを含めほぼ全域より該期の遺物が出土しているが、包含層遺物に限っては現高橋川を挟んだ対岸の７区に集中する傾向が認められる。掲載したものの中では７・８が１区より、９が４区より出土している他はすべて７区よりの出土である。５は粗製深鉢の体部片と思われる。斜縄文を横位に施し、施文原体はＲＬを用いている。打製土掘具については以下の表に一括することとする。

表－１　包含層出土打製土掘具一覧

| No. | サイズ（cm） | 重量 | 石質 | No. | サイズ（cm） | 重量 | 石質 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 長12.2、幅8.5、厚1.9 | 231ｇ | 安山岩 | 11 | 長 9.1、幅5.9、厚2.6 | 171ｇ | 凝灰岩 |
| 8 | 長14.9、幅7.8、厚2.1 | 210ｇ | 凝灰岩 | 12 | 長12.3、幅7.7、厚3.4 | 414ｇ | 凝灰岩 |
| 9 | 長18.2、幅9.0、厚2.5 | 444ｇ | 凝灰岩 | 13 | 長 9.0、幅6.1、厚2.1 | 173ｇ | 凝灰岩 |
| 10 | 長 7.4、幅6.2、厚2.2 | 124ｇ | 安山岩 | | | | |

※ サイズにつてはすべて現存部分でのデータである。

これらの一群は概ね縄文時代後期中葉の酒見式（加曽利Ｂ２）に比定されるものであり、当町では押野大塚遺跡と並び最も古い部類に属する。高橋川流域の周辺遺跡では、若干ではあるが縄文時代晩期中屋式土器や弥生時代前期柴山出村式土器を伴う例が報告されているが本遺跡では確認されておらず、むしろ北西側に連なる富樫館跡蝮土居地区や同ノダ地区に該期のものが散見される。集落を構成する主要な遺構は確認されていないものの、縄文時代後期中葉には本遺跡から北西側約500m程度の範囲である一定の広がりを持っていたことは間違いないようである。

２　弥生時代（遺物　第７図）

確実に弥生時代に属すると思われるものに竪穴住居２棟、土坑１基がある。これらは本遺跡南側の５区及び７区に位置しており、その他実測し得なかった包含層出土の該期遺物も５区及び南端の７区に集中して見られる傾向を示している。周知のとおり本遺跡の南側至近には弥生時代後期後半の集落跡である扇台遺跡が存在しており、本遺跡で確認された一群はその北限を示しているものと捉えるの

が妥当であろう。

**ＳＩ－１０**（第６図）

５区中央北端の最も遺構が密集した地点に位置し、端正な隅丸方形を呈する住居である。南壁を中世の竪穴状遺構に破壊されているが、主要な部分の残りは良い。軸長5.21m、深さ10～15cm、床面積推定で約24.5㎡、軸方位N40°Ｗを測り、北半にのみ幅32～48cm、深さ13～16cmの壁溝を持つ。主柱は４本と思われるが、南側の１本は確認されていない。柱穴は径50～64cmの略円形を呈しており、深さは床面より32cm程度である。南東側の壁に接して炉跡かと思われる深さ10cmほどの四角い落ち込みを検出しているが、焼土等は確認されていない。内底部は平らに仕上げられており、２基のピットを持つ。遺物は５点図化しており、すべて覆土より出土したものである。14は丸く胴の張る小甕である。口径17.2cm、胴部径16.0cmを測り、にぶい黄橙色を呈する。頸部を除く外面に煤が付着しており、摩耗・剥離が見られる。15・16は壷の口縁である。15は口径12.0cm、16は9.6cmを測りいずれも灰白色を呈している。17はずんぐりとした作りの底部である。底径5.8cmを測り灰黄褐色を呈する。18は高坏受部である。口径22.1cmを測り黄橙色を呈する。本住居より出土した土器はいずれも小片であり、18は特に摩耗が激しい。

**ＳＩ－１５**（第６図）

５区南端に位置し、過半が調査区外へ延びているため全容は不明である。東側の壁部分に自然礫の噛み込みが激しくプランの確認は曖昧であるが、状態の良い西側の意匠を見る限り円形もしくは多角形となる可能性もある。深さ6～9cmを測り、西端から中央にかけて幅27cm、深さ5cmの壁溝が巡る。主柱穴及びその他の付随する遺構は確認されていない。遺物は２点図化している。19は高坏の脚部である。長さ現存部で11.7cm、幅最大で4.0cmを測る棒状脚であり、胎土に海綿骨片を少量含む。黄橙色を呈し、焼成は並である。20は台付鉢の鉢部底部であろう。大きく膨らんだ体部を持ち、橙色を呈する。胎土に海綿骨片を少量含み、焼成は並である。摩耗の激しい個体である。

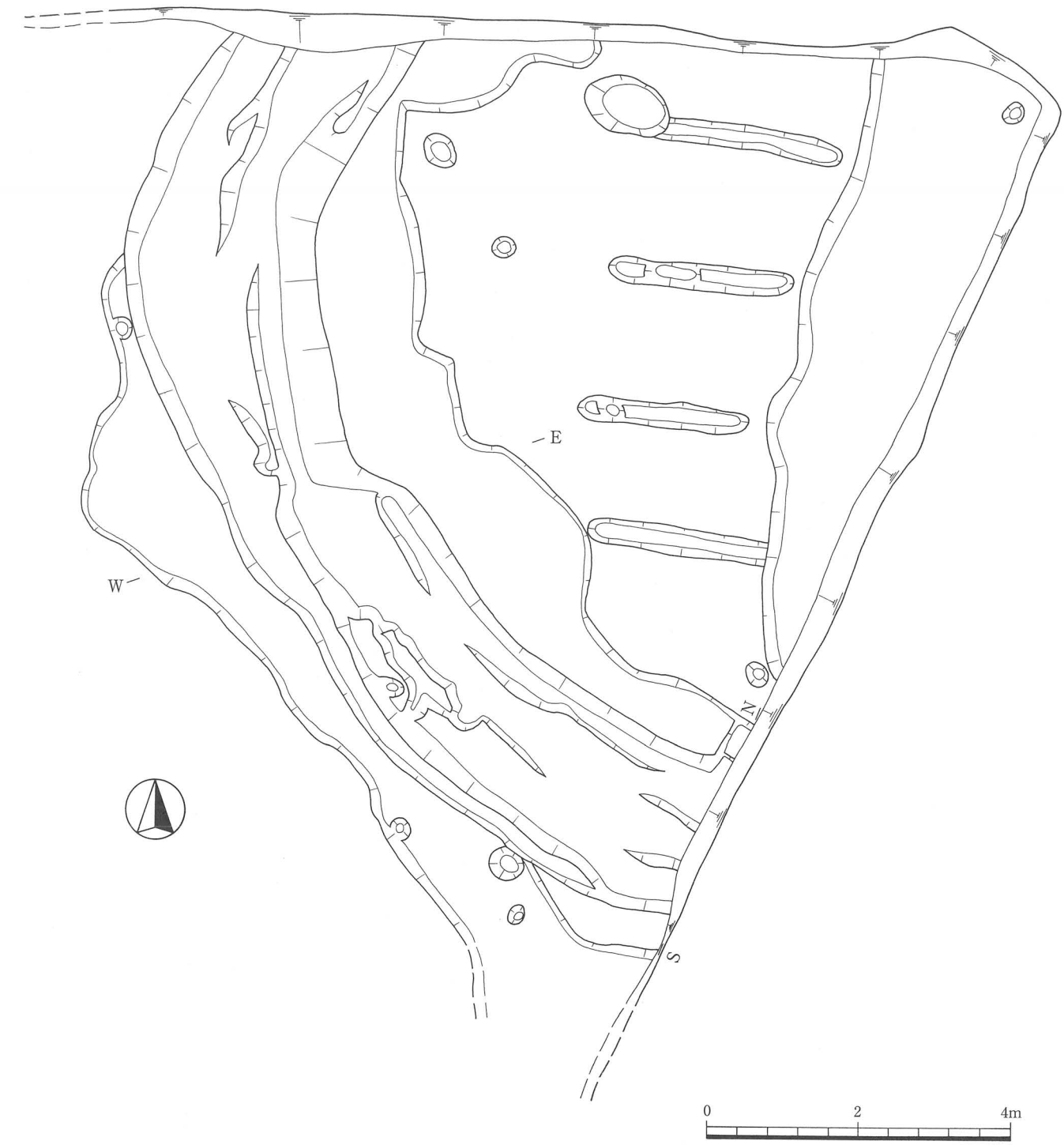
**ＳＫ－５０**（第35図）

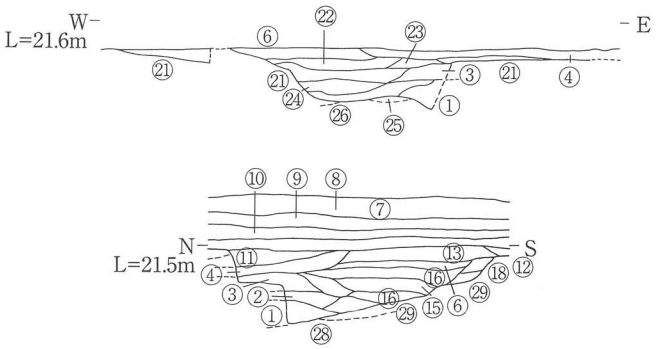
７区中央に位置する略方形を呈する土坑であり、軸長南北で128cm、深さ18cmを測る。地山、覆土共に水分を多く含んだ粘土質であり、高橋川左岸の１～６区とは大きく様子が異なる。遺物は５点図化している。23は口径20.0cmを測る有段口縁の甕である。段部がかなり弛緩しており、外面に擬凹線を持たない。胎土は荒く、器肌に小礫が多数表出しており、灰白色の色調を呈する。24は口径10.4cmを測る壷の口縁である。全体に摩耗が激しく、灰白色を呈する。25は台付装飾壷の壷底部であろう。底径16.2cmを測り、やはり灰白色を呈する。26・27は甕・壷類の底部である。26は底径推定で5.2cm、27は6.8cmを測る。共に胎土の粒子は粗いものの、色調は黄橙色を呈する。

**包含層出土土器**

21は４区南半より出土した有段口縁の甕である。段部外面が垂下し、やや外反ぎみに短く伸びる端部を丸縁に仕上げる。口径22.6cmを測り、にぶい黄橙色を呈する。ごく小片であり、摩耗が激しい。22は５区の竪穴状遺構が密集した地点の上面より出土している。くの字状口縁の端部を垂直に肥厚させ、断面三角状に仕上げた外面に擬凹線を施す。灰白色を呈しており、やはり摩耗が激しい。

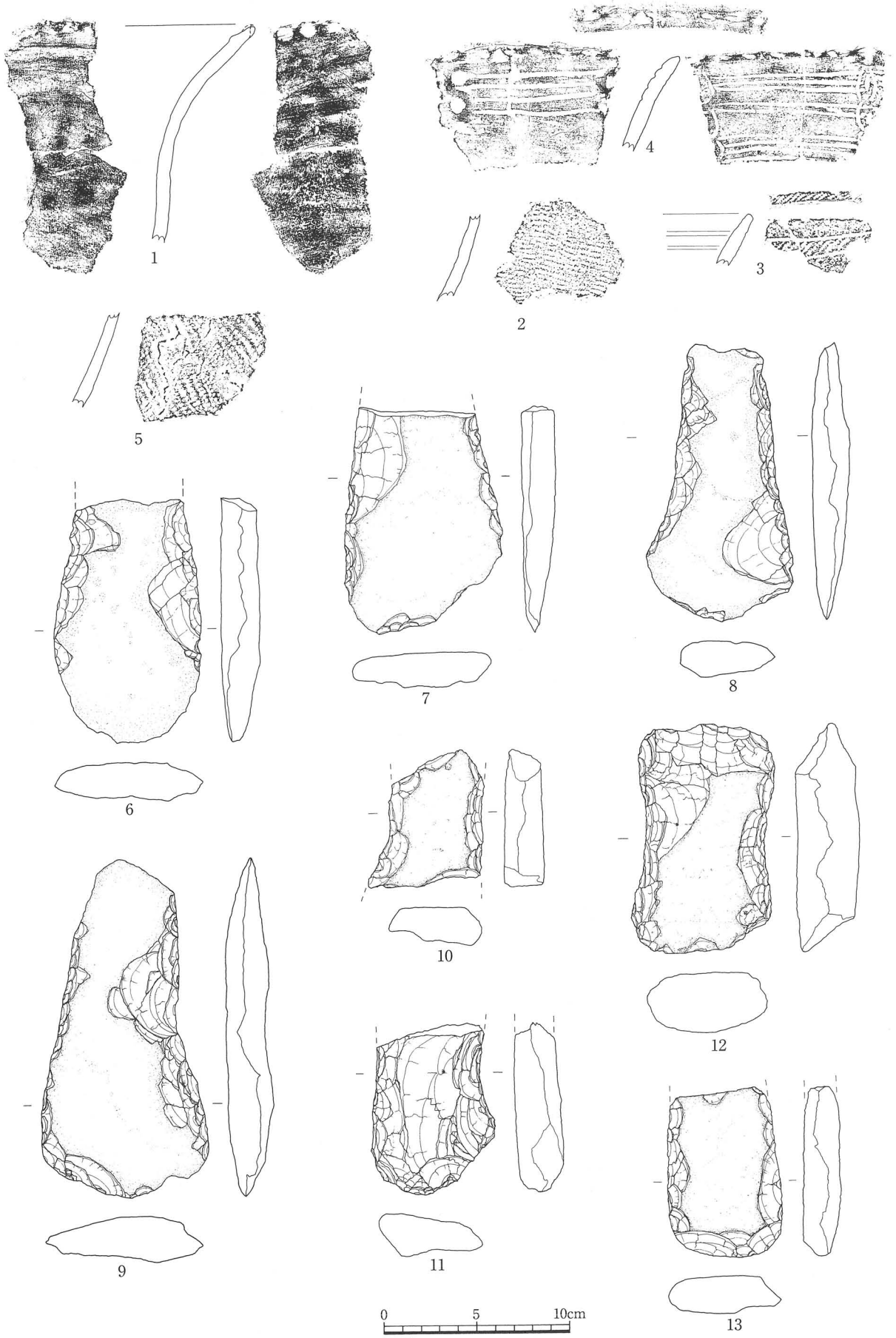
これらの土器は概ね法仏式期から月影Ⅰ・Ⅱ式にわたるものを含んでおり、遺構の錯綜した状況から同時に存在するものか、それとも混入したものか判断に苦慮するものがあるが、実測点数こそすくないもののＳＩ－15はその平面形態と併せ法仏式期としてよいものと思われる。また、ＳＫ－50に見られるやや新相を示す状況は隣接する扇台遺跡にも見られることであり、共に明確な外来系土器が確認されていないことから月影Ⅱ式期の範疇に収めておきたい。



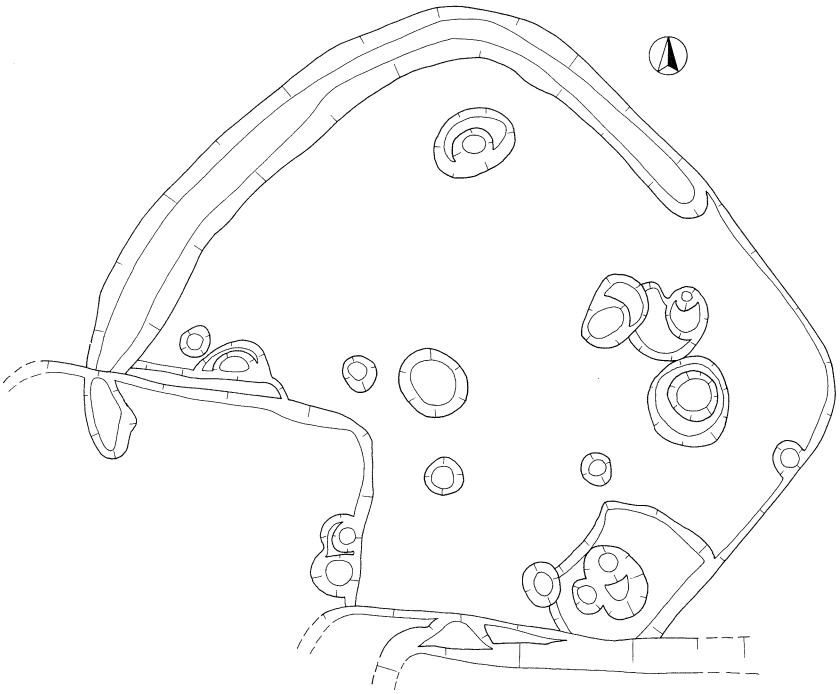




① 青灰色粘質土
② 青灰色シルト
③ 灰色シルト
④ 黒色粘質土
⑤ 暗灰色砂質土（細砂）
⑥ 暗灰褐色砂質土（粗砂）
⑦ 灰白色粘土
⑧ 暗青灰色粘土（古代包含層）
⑨ 灰褐色粘土
⑩ 黒色粘土（弥生包含層）
⑪ 淡褐灰色強粘質土
⑫ 暗褐灰色粘土
⑬ 黒色強粘質土（砂礫混入）
⑭ 茶褐色砂礫層
⑮ 灰色砂礫層
⑯ 褐灰色砂礫層
⑰ オリーブ灰色砂礫層
⑱ 灰褐色粘土
⑲ 濁灰色粘砂質土
⑳ 暗灰褐色粘質土
21 暗褐色粘質土
22 暗灰褐色砂質土
23 黒灰褐色シルト
24 暗灰色砂質土
25 暗褐色粘質土
26 砂礫層
27 黒色粘土
28 青灰色粘土

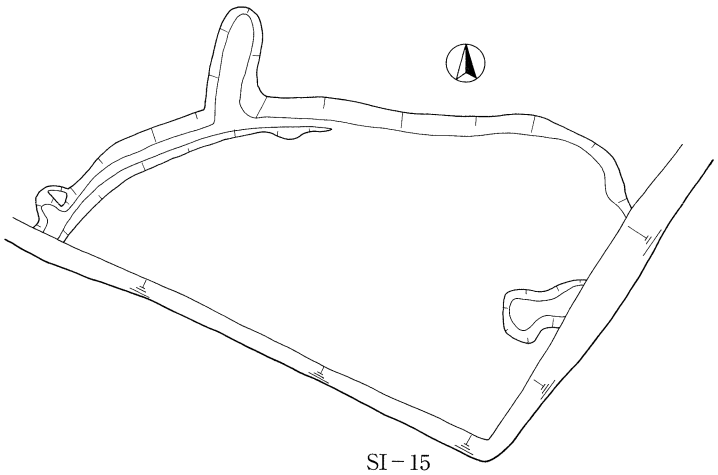
**第4図**　SD－17(S=1/80)




**第5図**　縄文時代遺物(S=1/3)　1(SP－02)・2(5P－18)・3(5P－19)・4(SP－30)・6(3P－01)・5.7～13(貝含層)



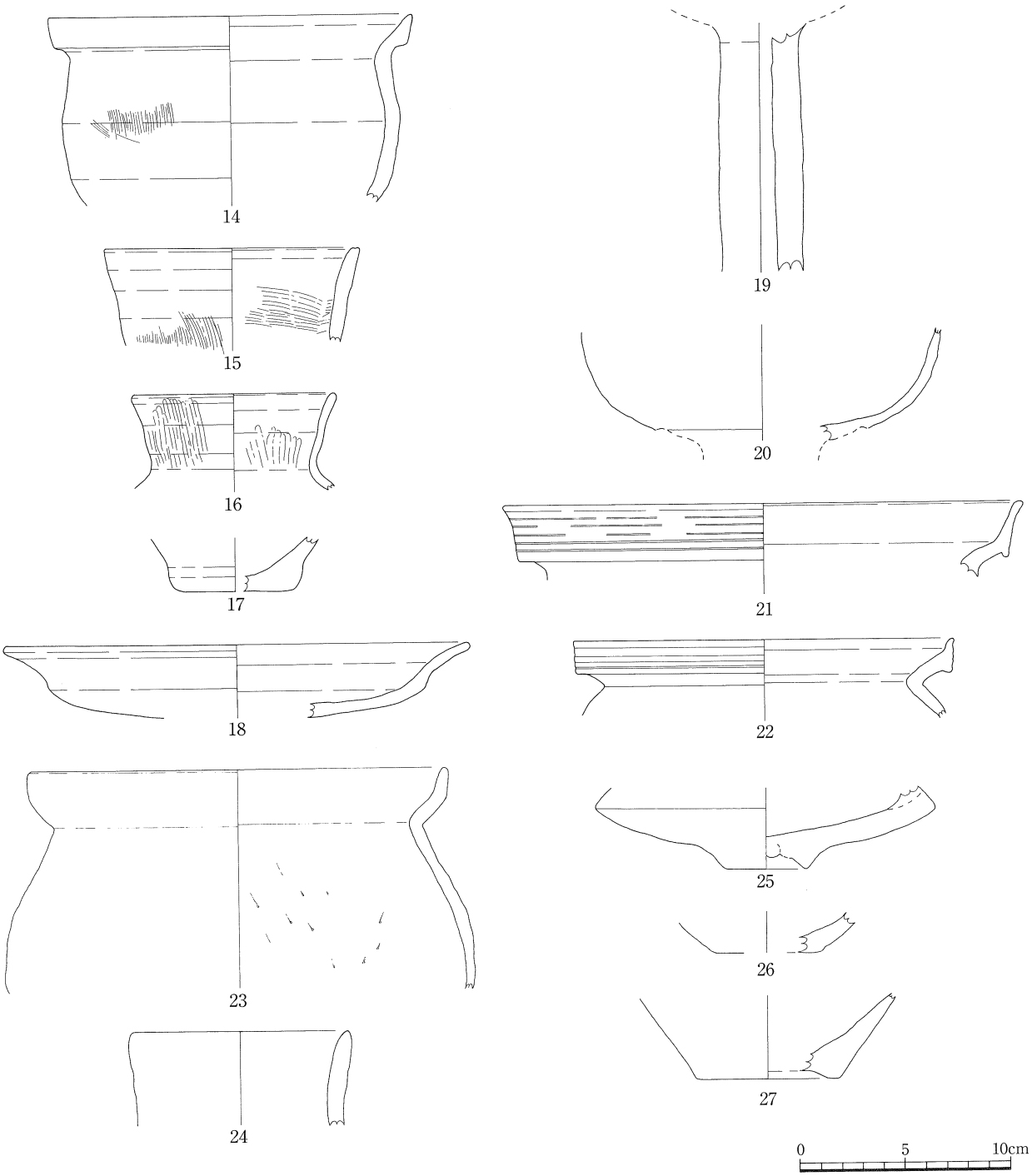
SI－10



SI－15

0　1　2m

**第6図**　弥生時代遺構（SI・3=1/60）




**第7図**　弥生時代遺物(S=1/3)　14～18(SI－10)・19・20(SI－15)・21・22(包含層)・23～27・(SK－50)

## 第３節　古代の遺構と遺物

遺物の様相より該期に帰属すると判断したものは竪穴住居（ＳＩ・竪穴状遺構含む）４棟、掘立柱建物（ＳＢ）２棟、柵列（ＳＡ）１基、土坑（ＳＫ）２基、ピット（ＳＰ）15基、溝（ＳＤ）２条、性格不明遺構（ＳＸ）１基である。これに遺構の形態及び立地の状況を加味し、更に竪穴住居２棟、掘立柱建物跡１棟、柵列１基を加えた上で古代という範疇で報告することとする。なお、出土遺物の詳細については次節末の遺物観察表を参照願いたい。

### １　竪穴住居

**ＳＩ－０１**（第８図）

１区のほぼ中央に位置し、略方形を呈する小さな住居である。長軸172cm、短軸166cm、深さ11cm、面積2.4㎡を測り、主軸はN2°Ｗを指す。床面積は小さいものの、径26～43cm、深さ床面より44～60cmのしっかりとした主柱穴を４基各コーナーに持つ。内部の有効面積を考慮した場合、とても居住施設とは考えられず、カマド等の痕跡も確認されていない。松任市北安田北遺跡[1]や野々市町粟田遺跡藤平地区[2]などでは一辺220～280cmと本例より二回りほど大きなものが確認されており、前者にあってはカマドの痕跡が確認されている。また、両者とも柱穴は確認されておらず、平面プランも本例に比べ歪雑である。これらの類例を検証する時、その対象とされるのは主に「厨房説」や「倉庫・作業小屋説」であったが、次のＳＩ－０２と併せ本遺跡のような「しっかりと作り込まれた」上に使用痕跡を残さないもの、また主柱間の有効床面積が僅か0.8㎡に満たないものについては従来の仮説を超えて検証しなければならないものであろう。その他、中央に見られる数基のピットと住居との先後関係は確認できていない。遺物は３点図化している（第11図28～30）。

**ＳＩ－０２**（第８図）

１区中央北端、ＳＩ－０１の北西7mの地点に位置する。長軸176cm、短軸158cm、深さ21cm、床面積2.6㎡、軸方位N7°Ｗを測りやや東西に長い方形を呈する。やはりしっかりとした４本主柱であり、径28～32cm、深さ床面より36cm前後の柱穴が四隅に配置されている。有効床面積（主柱芯 - 芯間）はやはり0.7㎡程度である。ＳＩ－０１ともども該期の同種のものに比べ作りが丁寧であり、プランもしっかりしている。遺物は２点図化している（第11図31・32）。

**ＳＩ－０６**（第８図）

３区中央やや北寄りに位置し、略長方形を呈する。長軸263cm、短軸183cm、深さ24cm、床面積4.4㎡を測り、軸方位はN8°Ｅを指す。北東側コーナーの意匠がやや崩れており、壁の立ち上がりも弛緩した状況を示す。柱穴となる可能性を持つものは北西側で確認された径32cm、深さ床面より25cmを測るピット１基のみであり、カマド等他の施設の痕跡は確認されなかった。遺物は３点図化している（第11図33～35）。

**ＳＩ－０７**（第８図）

３区南東角に位置し、過半が調査区外へ延びているため全容は不明であるが、壁のライン及びコーナー部の意匠より端正な方形を呈するものと思われる。深さ15cm程度を測り、軸方位はN16°Ｅを指すものと推定される。内部に見られる小ピット群は本住居とは直接関係のないものである。遺物の出土はなかったが、前述の推定されるプランより本期に含めたものである。

**ＳＩ－０８**（第８図）

４区北端に位置し、北壁部が僅かに調査区外へ続く住居である。長軸推定で345cm程度、短軸304cm、深さ40cm、床面積推定で10.4㎡を測り、軸方位はN3°Ｗを指す。南東角に深さ床面より４cm程の不定

形な浅い窪みが確認されており、明確な焼土痕等の確認はなかったがカマドの痕跡と考えられる。また、中央に見られる土坑状の遺構については、設定したセクションベルトが降雨で倒壊してしまい住居との先後関係を確認することはできなかったが、底面レベルが床面より更に50cm近く掘り込まれていることと併せ、掘り進む段階で上面よりプランを確認することができなかったことより本住居に付随する施設と考えてよいものであろう。その他、ピット状の遺構が数基確認されているが、主柱穴となるものではない。遺物は８点図化している（第11図36～43）。

**ＳＩ－０９**（第８図）

ＳＩ－０８に隣接し、西側半分を切られている。規模を示すことは不可能であるが、ＳＩ－０８よりも一回り大きな住居であろう。深さは36cmを測り、やや浅い。南西角に小さなピットを確認しているが、床面に対して１～２cm程度の窪みとも言えるものであり、積極的に柱穴と言えるものではない。ただ、該期の竪穴を数多く調査して得た経験からむしろこのような在り方を示す事例の方が圧倒的に多く、一考を要すものであろう。なお、本住居から遺物は確認されなかった。

註　1　松任市北安田北遺跡Ⅰ　松任市教育委員会　1994　第４章　考察

　　2　粟田遺跡藤平地区・清金アガトウ遺跡　野々市町教育委員会　2000　第４章第３節　まとめ

２　掘立柱建物

**ＳＢ－０１**（第９図）

１区ほぼ中央に位置する３×２間の南北棟の建物であり、北梁側に庇状の施設を持つ。桁行758cm（庇部を含むと1,004cm）、梁行464cm、平均柱間距離は桁行で246cm、梁行で229cm、床面積は身舎で35.3㎡を測り、軸方位はN1.5°Ｗである。柱穴プランは略（楕）円形若しくは方形で構成され、径42～64cm、深さ14～64cmを測る。南側梁の中柱は確認されていない。遺物はＰ－１～４までで７点図化している（第11図44～50）。

**ＳＢ－０２**（第10図）

１区ほぼ中央北端に位置し、ＳＢ－０１との距離は1.5mの至近距離にあたる。北半が調査区外へ延びており全体の規模は不明であるが、梁行３間、桁行現状で３間を確認しており、南北棟の建物と思われる。梁行580cm、柱間距離は西より220－166－194cm、西桁北より182－138－142cmを測り、軸方位はN2°Ｗを指す。柱穴プランは略円形又は略方形を呈し、径54cm前後、深さ13～67cmを測るが、西桁南より３・４本目の柱穴掘方が一回り小さく径34cm、深さ17cm程度となる。遺物は出土していないが、主体となる柱穴の形状・規模及び遺跡内での位置と併せ該期に属するものとして判断した。

**ＳＢ－０３**（第10図）

１区中央やや西寄りに位置する３×２間の南北棟の建物であり、西側に庇状の施設を持つ。桁行738cm、梁行538cm（庇部を含むと764cm）、床面積身舎で39.7㎡、柱間距離は桁行で平均290cm、梁行西より230－238－296cmを測り、軸方位はN3°Ｅを指す。柱穴プランは略（楕）円形若しくは略方形を呈し、径40cm前後、深さ９～47cmを測るが、身舎南西角だけは径約80cmととび抜けて大きい。また、北側梁の中柱はＳＤ－０１に破壊されているものと思われる。遺物はＰ－１～４までで各１点ずつ出土している（第11図51～54）。新しい様相の遺物は出土していないが、プラン及び柱穴の意匠より中世に位置付けられる可能性もある。

３　柵列

**ＳＡ－０１**（第９図）

１区中央東側、ＳＢ－０１の東桁に重なるようにして南北に延びる３間の柵列である。長さ876cm

を測り、中央の柱穴２基をＳＢ－０１と重複する。柱間距離は北より352‐242‐282cmを測り、軸方位はN1.5°Eを指す。柱穴プランは略方形又は略円形を呈し、径42～62cm、深さ22～34cmを測る。ＳＢ－０２に付随するものであろう。遺物はＰ－１より４点出土している（第11図55～58）。

**ＳＡ－０２**（第10図）

１区中央北側、ＳＢ－０３の東側に位置する南北に延びる柵列である。現状で３間を確認しており、長さは856cmを、柱間距離は北より240‐318‐298cmを測り、軸方位はN1°Wを指す。柱穴プランはほぼ略円形を呈し、径36～42cm、深さ35cm程度を測る。遺物の出土は見られなかった。

４　土坑

**ＳＫ－０１**（第８図）

１区中央やや東側のＳＢ－０１南西側に重複して存在する端正な円形を呈する土坑である。径102cm、深さ122cmを測る円筒形であり、当初は井戸となる可能性も考えて掘り進んだが底面はきれいなシルト系の地山質土であり、湧水の可能性を認めることなく完掘したものである。遺物は埋土中層より１点のみ出土したものである（第12図59）。

**ＳＫ－４９**（第35図）

６区東端近くに位置する長径229cm、短径69cm、深さ35～41cmを測る略長方形を呈する土坑である。他の古代に属する遺構がほぼ本遺跡の北半に集中するのに対して、やや異質な分布を見せる。遺物は出土していないが、西方４m余りに位置する同種の土坑も同時代のものである可能性がある。遺物は２点図化している（第12図60・61）。

５　ピット

当該期に属するピットは15基確認されており、５区に位置するＳＰ－33以外はすべて１区及び３区に集中している。このことは、前述の６区に存在する土坑と併せ南半にも該期の広がりが若干残ることを窺わせるが、中心となるのはやはり３区中央以北であることを物語っているものである。以下、ピットについては個別に記述することを避け、下記の表により一括することでご容赦願いたい。また、遺構図についてははなはだ歪小ではあるが巻末遺構全体図を参照いただきたい。

表－２　古代ピット一覧

| No. | 形状 | 径(cm) | 深さ(cm) | 土器No. | No. | 形状 | 径(cm) | 深さ(cm) | 土器No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 03 | 楕円 | (56) | 33 | 第12図62 | 16 | 楕円 | 41 | 45 | 第12図72 |
| 04 | 楕円 | 32 | 23 | 63 | 17 | 略円 | 39 | 18 | 73 |
| 05 | 方 | 58 | 42 | 64・65 | 22 | 楕円 | 32 | 9 | 74 |
| 06 | 楕円 | 56 | 21 | 66 | 24 | 楕円 | 42 | 49 | 75 |
| 07 | 略円 | 36 | 28 | 67 | 26 | 楕円 | 50 | 48 | 76 |
| 09 | 楕円 | 36 | 21 | 68 | 28 | 楕円 | 56 | 38 | 77 |
| 10 | 楕円 | 44 | 32 | 69・70 | 33 | 略円 | 38 | 48 | 78 |
| 11 | 円 | 28 | 31 | 71 | | | | | |

６　その他の遺構

ここでは性格不明遺構と溝状遺構を一括して報告することとする。遺構図についてはピットと同様巻末の遺構全体図を参照いただきたい。なお、包含層出土遺物については割愛する。

ＳＸ－０３（遺物　第12図79）

３区北東側に位置する不定形な落ち込み状の遺構であるが、東壁の掘り方が比較的しっかりしているため竪穴住居となるかもしれない。長軸308cm、深さ15cm程度を測るが、南西側では底面と遺構検出面との比高が僅かに１～２cm程度であり、床面が削平されていることも考えられる。なお、内部のピットは本遺構に伴うものではない。遺物は１点のみ図化している。

ＳＤ－０４（遺物　第13図80）

１区中央に位置し、後出のＳＤ－０１東側に沿うように伸びる南北溝である。南側は削平されており終焉は確認できないが、ＳＤ－０２と接する部分で完結するのであろうか。幅約42cm、深さ北端で６cm、南端で２cm、検出長10.9mを測る。遺物は１点のみの図化である。

ＳＤ－０８（遺物　第13図81）

１～３区の南東端を湾曲して伸びる溝である。幅48～104cm、深さ北側で40cm、南側で35cm程度を測り、検出長は約55mである。遺物は１点のみの図化である。

この他にも１区東半から２区、３区東南隅にかけては遺物の確認はないものの同様な溝状遺構が集中して見られる。ＳＤ－０８とほぼ同じ規模のＳＤ－０７をはじめとして、これらはＳＤ－０５を除けば南西→北東の流路を志向しており、中世期に見られるほぼ東西南北を志向する溝群とは明らかに意識の異なるものと考えられる。ここでは遺跡の中での占地の傾向も含め、ＳＤ－５～７及び１２を該期のものとして扱いたい。

古代の遺物が出土した遺構は全体として見れば調査区の北半を中心に分布しており、本遺跡の北に位置する扇が丘ゴショ遺跡との関連が想起されるが、高橋川の南上流に連なる扇台遺跡や大額キョウデン遺跡、北西に位置する扇が丘ヤグラダ遺跡においても濃淡の差はあるものの該期の遺構・遺物がある程度確認されている。本遺跡については概ね８世紀後半～９世紀代とやや幅のあるものであるが、周辺では細かな移動を伴いながら古代末を中心として人々の暮らしが連綿と営まれていたのであろう。

## 第４節　中世以降の遺構と遺物

掘立柱建物29棟、柵列５基、竪穴状遺構７基、土坑47基、方形溝遺構１基、その他ピット、溝、性格不明（落ち込み状）遺構を確認しており、遺構・遺物の量と内容より本遺跡において中心となる時期である。中央を東西に延びるＳＤ－０９と、調査区東側の南北溝ＳＤ－０１・１１により四分割された地割りを窺うことが可能であり、それぞれに一定の建物群が配され竪穴状遺構・土坑群が付随する。１区西端から３区へ続き、南半で西折する南北方向の帯状ピット群は該期の道遺構に伴うものと考えられ、小路で区割りされた集落像が浮かび上がる。出土した遺物の様相より、12世紀末から15世紀後半までは細かな移動を繰り返し存続していたことが知られるが、15世紀以降は急速に衰退していったものと思われる。

### １　竪穴状遺構

通常の土坑状のものと区別し、床面の意匠が窺われ建物機能を有する可能性のあるものをＳＩとして分離した。

ＳＩ－０３（第14図）

１区西南に位置し、略台形を呈する。長軸2.7m（中央部分。以下同様）、短軸2.1m、深さ11cm、面積5.3㎡を測り、軸方位はN3°Ｗを指す。明確な柱跡らしきものは確認されていない。また、遺物の出土も見られなかった。

**ＳＩ－０４**（第14図）

３区北東側に位置する不定形な遺構である。長軸2.1m、短軸1.8m、深さ11cm、面積4.4㎡を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。プランの上からはＳＢ－０７との明確な先後関係は把握されていない。遺物は１点図化している（第39図88）。

**ＳＩ－０５**（第14図）

ＳＩ－０４の南1.2mの至近に位置し、略長方形を呈する。長軸4.0m、短軸2.2m、深さ21cm、面積8.1㎡を測り、軸方位はN5°Eを指す。底面には目立った遺構を持たず、上記同様ＳＢ－０７との関係は不明である。遺物は10点図化している（第39図89～98）。

**ＳＩ－１１**（第14図）

５区中央北側に位置し、比較的端正な方形を呈する。長軸3.1m、短軸3.0m、深さ20cm、面積推定で9.7㎡を測り、軸方位N13°Eを指す。プランの確認より後述のＳＩ－12に先行するものと思われるが、遺構が錯綜しておりＳＢ－３０との先後関係は確認できていない。遺物は３点図化している（第39図99～101）。

**ＳＩ－１２**（第14図）

ＳＩ－１１の南東に接しており端正な方形を呈する。長軸3.9m、短軸3.4m、深さ42cm、面積13.6㎡を測り、軸方位はN3°Eを指す。西辺にテラス状の段部を持ち、比高は23～30cmである。やはりＳＢ－３０との先後関係は不明である。遺物は27点図化している（第39・40図102～128）。

**ＳＩ－１３**（第15図）

ＳＩ－１１の南西にコーナー部を接しており、略長方形を呈する。長軸推定で4.3m、短軸2.6m、深さ15cm程度、面積推定で11.5㎡を測り、軸方位N6°Eを指す。底面の仕上げが粗く深さが一定していない。また、他ピットとの干渉が激しく付随する内部遺構を特定することは不可能であり、遺物は10点図化しているが（第40図129～138）、確実に伴うと思われるものは抽出が困難である。調査時の所見から、遺構としてはここ（中世）での最古段階のものと考えている。

**ＳＩ－１４**（第15図）

ＳＩ－１２の南1.2mに位置し、略方形を呈する。長軸推定で4.0m、短軸3.8m、深さ23cm、面積14.2㎡を測り、軸方位はN4°Eを指す。中央をＳＢ－３０の桁筋が貫通するが、柱穴の痕跡は確認されていない。上記のＳＩ－１１・１２と併せ古代の竪穴住居と意匠面での共通点が多く、中世初頭段階での付属屋的建物と考えられる。遺物は３点図化している（第40図139～141）

２　掘立柱建物

遺物を伴うものが少なく、大半はプラン及び柱穴の意匠、柱間距離等より中世段階と判断したものである。

**ＳＢ－０４**（第16図）

２区東半に位置する２×２間南北棟の側柱建物であり、東側に庇を持つ。桁行4.4m、梁行3.9m（庇1.3m）、床面積身舎で17.2㎡を測り、軸方位はN6°Eを指す。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈し、径25～46cm、深さ8～44cmである。遺物は出土していない。

**ＳＢ－０５**（第16図）

２区西半北側に位置する２×２間南北棟の側柱建物である。桁行4.4m、梁行3.9m、床面積17.2㎡を測り、軸方位はN6°Eを指す。柱穴は略楕円形若しくは方形を呈し、径37～54cm、深さ10～31cmである。南側で干渉するＳＤ－０９は近世段階でその流路を再利用されており、柱穴は底面近くでの検出である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－０６**（第16図）

ＳＢ－０５の南１ｍの至近に位置する東西棟の建物である。中央に間仕切り状の柱穴を有し、桁は北側２間、南側３間となる。桁行4.2m、梁行3.4m、床面積14.3㎡を測り、軸方位はN4°Eを指す。柱穴は略楕円形を呈し、径29～49㎝、深さ13～40㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－０７**（第17図）

３区北東隅に位置する５×３間南北棟の総柱建物である。桁行12.3m、梁行7.6m、床面積93.5㎡を測り、軸方位はN7°Wを指す。建物南半で間仕切りにより柱間距離を違えており、北から東桁（2.1）－2.2－2.6－3.0－2.4m、西桁（2.2）－（2.2）－4.1－2.7－1.1mとなる。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈し、径28～53㎝、深さ9～36㎝である。遺物はＰ－１・２よりそれぞれ１点ずつ出土している（第40図142・143）。

**ＳＢ－０８**（第16図）

３区中央北側に位置する２×２間南北棟の建物である。桁行5.2m、梁行3.9m、床面積20.3㎡を測り、軸方位はN2°Wを指す。南側で間仕切りされ、柱間距離は桁行で北から3.5－1.7mとなる。柱穴は略楕円形を呈し、径33～52㎝、深さ16～39㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－０９**（第18図）

ＳＢ－０８の南方2.2mに位置する２×２間東西棟の総柱建物である。桁行6.1m、梁行4.1m、床面積25.0㎡を測り、軸方位はN10°Eを指す。柱穴は略楕円形を呈し、径27～52㎝、深さ17～32㎝となるが西梁の柱穴は確認されていない。また、遺物は出土していない。

**ＳＢ－１０**（第18図）

ＳＢ－０９の西１ｍの至近に位置する３×２間南北棟の建物である。桁行5.2m、梁行4.4m、床面積22.9㎡を測り、軸方位はN10°Eを指す。柱穴は略楕円形を呈し、径27～50㎝、深さ10～45㎝となり北側で間仕切りされる。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１１**（第19図）

３区北西端に位置する３×３間南北棟の総柱建物であり、後述するＳＢ－１２と重複するが柱穴は直接干渉しない。桁行7.9m、梁行7.3m、床面積57.7㎡を測り、軸方位はN4°Eを指す。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈し、径30～50㎝、深さ20～40㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１２**（第19図）

ＳＢ－１１に重複する４×３間東西棟の総柱建物であり、北東角及び南西角の柱穴を欠いている。北側梁の柱間距離が極端に狭く北面庇付きの建物となろう。桁行9.3m、梁行身舎で6.2m、庇を含むと8.0mとなり床面積は身舎57.7㎡、庇を含めると74.4㎡となる。軸方位はN3°Eを指している。柱穴は略楕円形を呈し、径30～52㎝、深さ16～40㎝である。遺物はＰ－１より１点、Ｐ－２より２点の計３点図化している（第40図144～146）。

**ＳＢ－１３**（第20図）

３区南半東側に位置する２×２間の総柱建物であるが、柱間距離が桁4.5m（3.6m）、梁3.5mと極端に広く、中間に礎石を持つ可能性も考えられるが調査では確認されていない。桁行8.1m、梁行7.0m、床面積56.7㎡を測り、軸方位はN27°Wと他の建物群に比べ大きく西に振れる。柱穴は略楕円形を呈し、径33～68㎝、深さ15～34㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１４**（第20図）

３区南半中央に位置する２×２間東西棟の総柱建物であり、南東角の柱穴を欠く。ＳＢ－１５と重複するが、柱穴の直接干渉はない。桁行6.1m、梁行4.3m、床面積26.2㎡を測り、軸方位はN4°Eを指す。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈し、径32～54㎝、深さ10～21㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１５**（第18図）

ＳＢ－１４の南に一部重複する２×２間南北棟の総柱建物である。桁行6.3m、梁行4.7m、床面積

29.6㎡を測り、軸方位N10°Eを指す。柱穴は略楕円形を呈し、径31～48㎝、深さ22～40㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１６**（第18図）

ＳＢ－１５の南方7.2mに位置する２×１間南北棟の側柱建物である。桁行5.4m、梁行2.3m、床面積12.4㎡を測り、軸方位はN10°Eを指す。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈し、径25～50㎝、深さ8～47㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１７**（第21図）

３区中央西側に位置する４×２間東西棟の総柱建物であり、南西角と東から２番目の中柱を欠いている。桁行9.3m、梁行4.6m、床面積42.8㎡を測り、軸方位N12°Eを指す。桁行西端の柱間距離が若干狭く、庇状の施設となる可能性もある。柱穴は略楕円形を呈し、径26～47㎝、深さ10～36㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１８**（第21図）

ＳＢ－１７の南至近に位置し、間隙は1.2mたらずである。３×２間南北棟の総柱建物であり、桁行7.8m、梁行4.6m、床面積35.9㎡を測る。南西角の柱穴を欠いており、軸方位はN4°Eを指す。柱穴は略楕円形を呈し、径29～47㎝、深さ17～48㎝と平均して小振りである。遺物は出土していない。

**ＳＢ－１９**（第20図）

ＳＢ－１８に重複しており、若干南側へずれる。３×２間南北棟の総柱建物であり、桁行5.6m、梁行3.6m、床面積20.2㎡を測る。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈し、径30～36㎝、深さ12～28㎝である。軸方位はN8°Eを指し、遺物は出土していない。

**ＳＢ－２０**（第22図）

ＳＢ－１８の西1.2mに位置する変則的な建物であり、３×１間南北棟の側柱建物の南西部分が西に２間分張り出す。桁行東側で8.4m、西側で4.6m、梁行北側で3.0m、南側で6.4メートルを測り、床面積は40.8㎡となる。南から２本目に中柱を、３本目手前に西側張り出し部分の受け柱を持ち、軸方位はN2°Eを指す。柱穴は円形若しくは略楕円形を呈し、径28～58㎝、深さ8～23㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－２１**（第22図）

４区ほぼ中央に位置する３×１間の側柱建物であり、南西面に庇を持つ。桁行5.6m、梁行3.4m（庇部2.0m）床面積身舎で19.0㎡を測り、軸方位はN39°WとＳＢ－１３と同様大きく西へ振れる。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈し、径27～44㎝、深さ9～32㎝である。遺物は出土していない。

**ＳＢ－２２**（第23図）

ＳＢ－２１の西側に位置する６×１間南北棟の細長い側柱建物であり、その間隙は2.3mである。桁行15.0m、梁行2.2m、床面積33.0㎡を測り、軸方位N1°Eを指すが柱間距離は一定しない。柱穴は略楕円形を呈し、径30～45㎝、深さ9～28㎝である。後述する柵列ＳＡ－０５とセットになるものと考えられ、土間打ちの納屋のような機能が考えられる。遺物は出土していない。

**ＳＢ－２３**（第24図）

ＳＢ－２２の南東側に接する５×４間南北棟の総柱建物である。桁行12.8m、梁行9.0m、床面積115.2㎡を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。西端梁の柱間距離がやや狭く、西面庇となるかも知れない。柱穴は略円形若しくは円形を呈し、径32～70㎝、深さ15～38㎝である。遺物はＰ－１・２より各１点ずつ図化している（第40図147・148）。

**ＳＢ－２４**（第25図）

ＳＢ－２３の北側に重複する３×１間東西棟の建物であり、柱穴の直接干渉はない。桁行6.6m、梁行2.3m、床面積15.2㎡を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。柱穴は略楕円形を呈し、径41～65㎝、深さ

15～35cmであり、後述のＳＢ－２５と同一の建物である可能性も考慮したが、主軸方位が若干ことなることからここでは別の建物として扱っている。遺物はＰ－１より１点出土している（第40図149）。

**ＳＢ－２５**（第25図）

ＳＢ－２４の南方2.8mに位置し、やはりＳＢ－２３と重複する３×３間南北棟の総柱建物であり、西面に庇を持つが北西角の柱を欠いている。桁行7.6m、梁行7.6m（庇部2.0m）、床面積身舎で57.8㎡を測り、軸方位はN3°Eを指す。柱穴は略楕円形を呈し、径41～73cm、深さ18～32cmである。遺物は出土していない。

**ＳＢ－２６**（第26図）

ＳＢ－２５の北東角に重複する３×２間南北棟の総柱建物であり、北西角の柱穴をＳＢ－２７と共有する。桁行7.1m、梁行5.0m、床面積35.5㎡を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。柱穴は略楕円形を呈し、径29～56cm、深さ9～24cmである。遺物は出土していない。

**ＳＢ－２７**（第22図）

４区南端に位置する３×２間南北棟の総柱建物である。桁行7.0m、梁行3.4m、床面積23.8㎡を測り、軸方位N8°Eを指す。通有のものに比べ梁の柱間距離が狭く、ＳＢ－１９と同程度であるが本例の方が桁柱間距離は長い。柱穴は略楕円形若しくは不定形であり、径38～57cm、深さ10～20cmである。遺物は出土していない。

**ＳＢ－２８**（第26図）

５区北東端に位置する３×１間南北棟の側柱建物であり、南西部分で西に１間四方張り出す。桁行6.2m、梁行北側で3.5m、南側で6.0m、床面積27.0㎡を測り、軸方位はN1°Wを指す。柱穴は略楕円形若しくは方形を呈し、径28～52cm、深さ11～27cmである。遺物は出土していない。

**ＳＢ－２９**（第26図）

ＳＢ－２８の南方2.7mに位置する３×２間南北棟の総柱建物であり、南東側は一部調査区外へ伸びる。桁行推定で6.6m、梁行4.6m、床面積30.4㎡を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。柱穴は略円形を呈し、径37～51cm、深さ12～32cmであり南端桁の柱間距離が若干短い。遺物はＰ－１より１点出土している（第41図150）。

**ＳＢ－３０**（第27図）

５区ほぼ中央に位置する６×３間南北棟の総柱建物であり、西面に庇を持つが南西角の柱穴を欠いている。桁行12.0m、梁行6.4m（庇部1.1m）、床面積身舎で76.8㎡を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。柱穴は略楕円形を呈し、径35～64cm、深さ11～50cmである。数多く重複する竪穴状遺構や土坑との先後関係はまったく検証できていない。遺物はＰ－１・２より各１点ずつ図化している（第41図151・152）。

**ＳＢ－３１**（第28図）

５区西半中央に位置する５×４間南北棟の総柱建物であり、後述のＳＢ－３２と完全に重複する。本遺跡中最も遺構密度の高い区域であり、錯綜した状況から抽出に窮したが、西面を除く三面庇の建物になる可能性もある。桁行11.8m、梁行9.0m、床面積106.2㎡を測り、軸方位はN4°Eを指す。柱穴は略楕円形を呈し、径30～56cm、深さ11～63cmである。遺物はＰ－１～３より各１点ずつ図化しているが、検出状況より混入品がかなり含まれていた（第41図153～155）。

**ＳＢ－３２**（第29図）

ＳＢ－３１を覆うようにして５区西半のほとんどを占める本遺跡で最大の建物である。身舎６×４間南北棟の総柱建物であり、四面に庇を持つ。桁行19.0m（身舎14.2m）、梁行14.4m（身舎9.2m）、床面積273.6㎡（身舎130.6㎡）を測り、軸方位はN2°Eを指す。柱穴は略楕円形若しくは円形を呈しており、径37～74cm、深さ28～43cmである。柱穴の切り合いよりＳＢ－３１に先行することは確実であ

る。遺物はＰ－１～10で15点図化している（第41図156～170）。

３　柵列

中世に属するものとして５基の柵列を抽出したが、ＳＢ－０３を中世段階の建物と見た場合付属するＳＡ－０２も中世のものとするのが妥当であろう。

**ＳＡ－０３**（第23図）

３区北端に位置し、ＳＢ－０８の東面及び北面を囲むようにＬ字形を呈する。南北柵は長さ9.8mを測り、柱数は６本と思われるが北から２本目にあたる柱が欠落している。東西柵は長さ8.2mを測り、柱数はコーナー部の共有柱を含めて５本である。東西柵は柱間距離が一定しない。遺物は出土していないが、配置状況よりＳＢ－０８に付随するものであろう。

**ＳＡ－０４**（第30図）

３区中央に東西に延びる柵列である。ＳＤ－０９に沿うようにして設けられており、長さ14.8m、柱数６本を数える。遺物は出土していないが、ＳＢ－０９・１０あたりに付随するものであろう。

**ＳＡ－０５**（第23図）

４区中央に位置するＳＢ－２２に並行して延びる南北柵である。長さ9.2m、柱数５本を数え、ＳＢ－２２と並存する可能性が高い。遺物は出土していない。

**ＳＡ－０６**（第30図）

５区北東端に位置する東西柵である。調査区外へ延びるため全容は不明であるが、現状で長さ６m、柱数５本を検出している。ＳＤ－１１との先後関係は定かでない。遺物は出土していない。

**ＳＡ－０７**（第23図）

３区南半中央、道状遺構の東側に沿うように延びる南北柵であり、長さ10.4m、柱数５本を数える。ＳＢ－１５あたりに付属するものであろうか。遺物は出土していない。

４　土坑（遺物　第41図171～第45図271）

中世段階のものとして47基の土坑を検出している。これらは形態により大まかに４種類に分類できる可能性を持っている。すなわち、

①　平面プラン円形若しくはやや崩れた楕円形を呈し、深さ10～60cm前後のものがある。

②　平面プランは比較的コーナー部の明瞭な略方形を呈し、深さ10～80cm前後のものがある。底面にテラス及び段差を有するものがある。いわゆる竪穴状遺構に似るが規模は総じて小さい。

③　やや大型の長方形を呈するもの。コーナー部の意匠は比較的明瞭であり深さは総じて浅い。

④　上記以外のもの。大型で深いものや略円形を呈するもの、不定形なもの等がある。

となる。ここでは、紙幅の関係もあり表－３で一括することでご容赦願いたい。なお、遺物については出土した遺稿No.を遺物観察表に明記している。

遺跡内でのこれらの配置を見る限り、中央に位置するＳＤ－０９を境としてその北方道状遺構の東側に沿う部分と、５区の２箇所に分布の中心があることが読み取れる。この内前者は更に南北に分割される可能性を持つ。その他の部分では非常に散発的な状況であり、４区と古代の遺構が中心となる１区東半には存在しない。また、③タイプの５区への集中も指摘される。

表－３　　中世土坑一覧表（単位：cm）

| No. | 長軸 | 短軸 | 深さ | タイプ | No. | 長軸 | 短軸 | 深さ | タイプ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **02** | 113 | 106 | 15 | ① | **27** | 115 | 107 | 13 | ① |
| **03** | 112 | 110 | 23 | ① | **28** | 117 | 86 | 36 | ① |
| **04** | 104 | 96 | 28 | ① | **29** | 123 | 102 | 14 | ① |
| **05** | 104 | (98) | 8 | ① | **30** | 145 | 103 | 13 | ② |
| **06** | 220 | 125 | 10 | ② | **31** | 147 | 117 | 8 | ② |
| **07** | 165 | 122 | 59 | ④ | **32** | 110 | 86 | 12 | ② |
| **08** | 90 | 52 | 59 | ④ | **33** | 166 | 128 | 64 | ① |
| **09** | 102 | 59 | 48 | ④ | **34** | 190 | 182 | 26 | ② |
| **10** | (104) | － | 29 | ④ | **35** | 161 | 128 | 78 | ② |
| **11** | 94 | 90 | 63 | ① | **36** | 270 | 146 | 16 | ③ |
| **12** | 238 | 144 | 14 | ③ | **37** | 275 | 216 | 61 | ② |
| **13** | 262 | 145 | 16 | ③ | **38** | 264 | 202 | 40 | ② |
| **14** | 163 | 93 | 15 | ④ | **39** | 243 | 143 | 36 | ③ |
| **15** | 184 | 184 | 44 | ② | **40** | 393 | 152 | 11 | ③ |
| **16** | 110 | 90 | 17 | ① | **41** | 393 | 221 | 12 | ③ |
| **17** | 140 | 98 | 25 | ① | **42** | 214 | 133 | 30 | ③ |
| **18** | 186 | 154 | 33 | ② | **43** | (250) | 167 | 15 | ③ |
| **19** | 134 | 126 | 12 | ② | **44** | － | － | 57 | ④ |
| **20** | 147 | 120 | 26 | ② | **45** | 363 | － | 105 | ④ |
| **21** | 143 | 143 | 12 | ① | **46** | 128 | 116 | 12 | ① |
| **22** | 120 | 99 | 52 | ① | **47** | 206 | 171 | 58 | ② |
| **23** | (183) | 143 | 44 | ② | **48** | 148 | 100 | 34 | ② |
| **24** | 180 | 153 | 44 | ① | **49** | 229 | 70 | 40 | ④ |
| **25** | 130 | 99 | 16 | ① | **50** | 128 | － | 18 | ② |
| **26** | 112 | 109 | 26 | ① | | | | | |

この他、ピット・ＳＸについては遺構に対する細かな説明は割愛させていただくことでご了承願いたい。ＳＸについてはほとんどが掘り方の把握もままならない緩い落ち込み状の遺構を一括したものであるが、３区中央北側に位置するＳＸ－０４（長径200cm、深さ現状で85cm）は地山を掘り抜いて礫層にまで達しており、完掘していないものの井戸の可能性も捨てきれない。

５　溝（遺構全体図参照）

本遺跡から出土した遺物総量の半数近くが溝出土品であり、その内ＳＤ－０１・０９・１１からのものが大半を占める。これらは集落を区画する基幹となる溝であり、重要な役割を担っていたことがわかる。その他、３区南東隅から２区を経て１区で放射状に展開するＳＤ－０５・０６・０７・０８・１２は前述のとおり古代のものであり、５区南隅の直交する畝間溝状の遺構は近世以降のものであろう。

**ＳＤ－０１**（遺物　第48図361～428）

１区中央から３区北東角を経てＳＤ－０９に交差する南北溝である。検出長約34mを測り、幅１ｍ程度、深さは北端で42cm、南端で20cm程度である。標高差でも約20cm北端が低くなっている。南側に

位置するＳＤ－１１とは流路がずれており、約14°西に振れる。

**ＳＤ－０２**

１区中央南側に位置する東西溝であり、ＳＤ－０９との距離は23mである。ＳＤ－０１を挟んで１度途切れており、検出長は東側3.5m、西側7.0mを測る。幅約45cm、深さ２～５cm程度であり、ほぼ磁北に対して直交する。遺物は出土していない。

**ＳＤ－０３**

１区西側から３区にかけて道状遺構の東辺に沿って延びる細い溝である。検出長31.2mを測り１区中程で一旦途切れている。幅は20～60cmの間で一定せず、深さは４～７cm程度のものである。方向はほぼ磁北を向く。遺物は出土していない。

**ＳＤ－０４**

１区中程北半に位置し、ＳＤ－０１の東に沿って北へ延びる。検出長約11m、幅40cm前後であり、深さ３～４cmと浅くところどころ削平されて掘り方を失っている部分がある。遺物は出土していない。

**ＳＤ－０９**（遺物　第51図429～460）

２～４区にかけて延びる東西溝であり、本遺跡の区割りの基本となる遺構である。近世以降に流路を再利用されたらしく、上層に明灰色を呈する粘土層が堆積していたが、下層には本来の灰褐色を基調とする土が残されていた。検出長は約81mであり、幅１～1.8m、深さ東端で22cm、中程で28cm、西端で11cmを測るが底面の標高差はほとんどない。流路はほぼ東西方向であるが、３区と４区の間でやや乱れ、若干湾曲するようである。

**ＳＤ－１０**

３区北東端に位置し、ＳＤ－０９の至近から北へ向きを変え、更に東へ湾曲して終了する。４区では確認されておらずＳＤ－０９との関係は不明である。検出長約25m、幅は40cm程度で均一であり、深さ10～12cmであり、北へ立ち上がった直線部分の方位はほぼ磁北を向く。遺物は出土していない。

**ＳＤ－１１**（遺物　第53図461～495）

３区東端から５区北東端にかけて延びる南北溝であり、検出長は旧高橋川の流路部分を含め51mを測る。幅0.6～1.4m、深さ北端で21cm、南端で36cmであるが底面の標高差では８cm北端が低い。流路は約９度東に振れている。

**ＳＤ－１３**

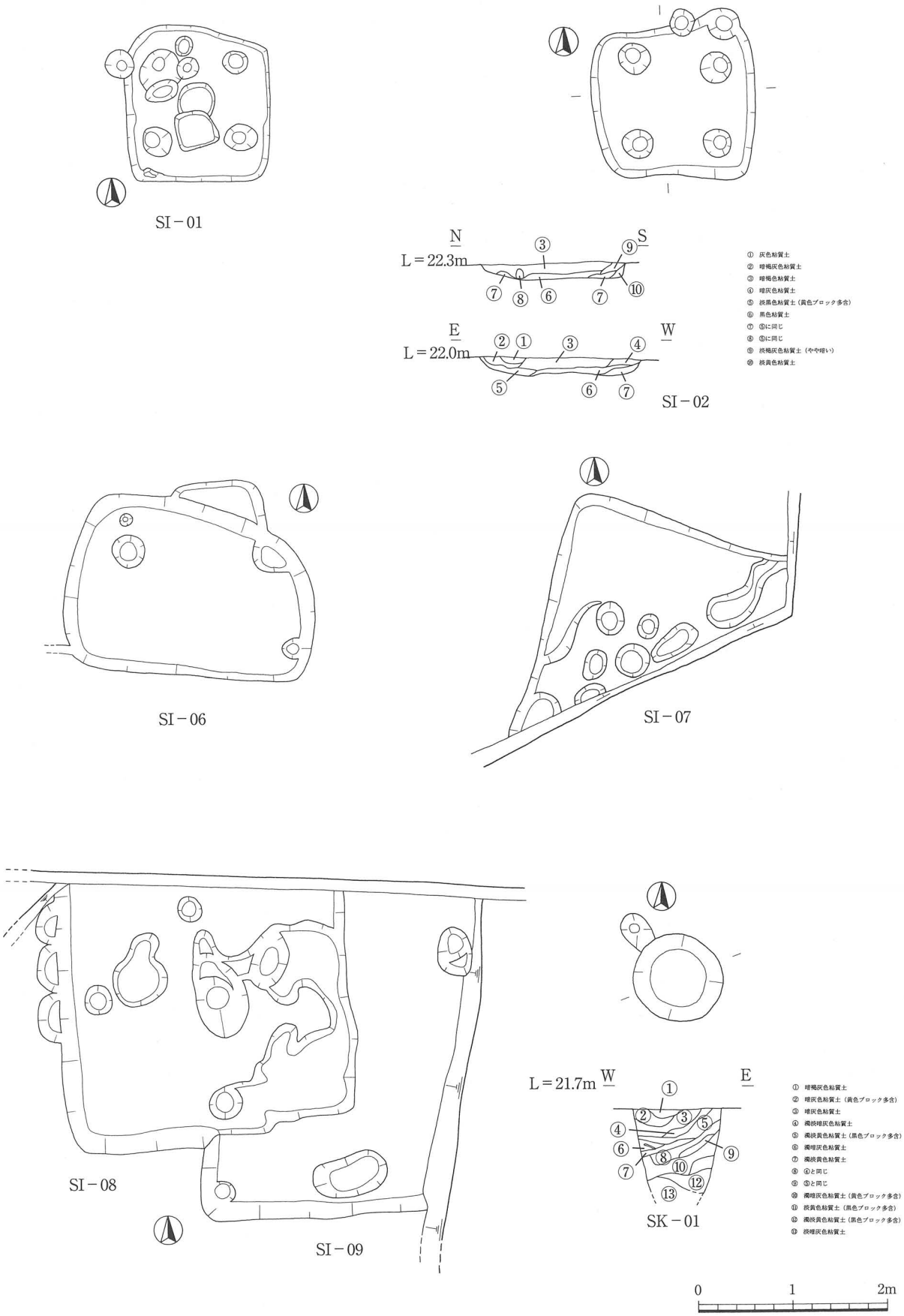
３区南半に位置する東西溝であり、ＳＤ－０９に沿うように延びる。両者の距離は約５mであり、４区では確認されていない。検出長38m、幅40～60cm、深さ東端で20cm、西端で７cmであるが、底面の標高差はない。東端では他遺構の干渉が激しく判然といないが、ＳＤ－１１とは連絡しないようである。遺物は出土していない。

**ＳＤ－１５**（第37図　遺物　第54・55図496～518）

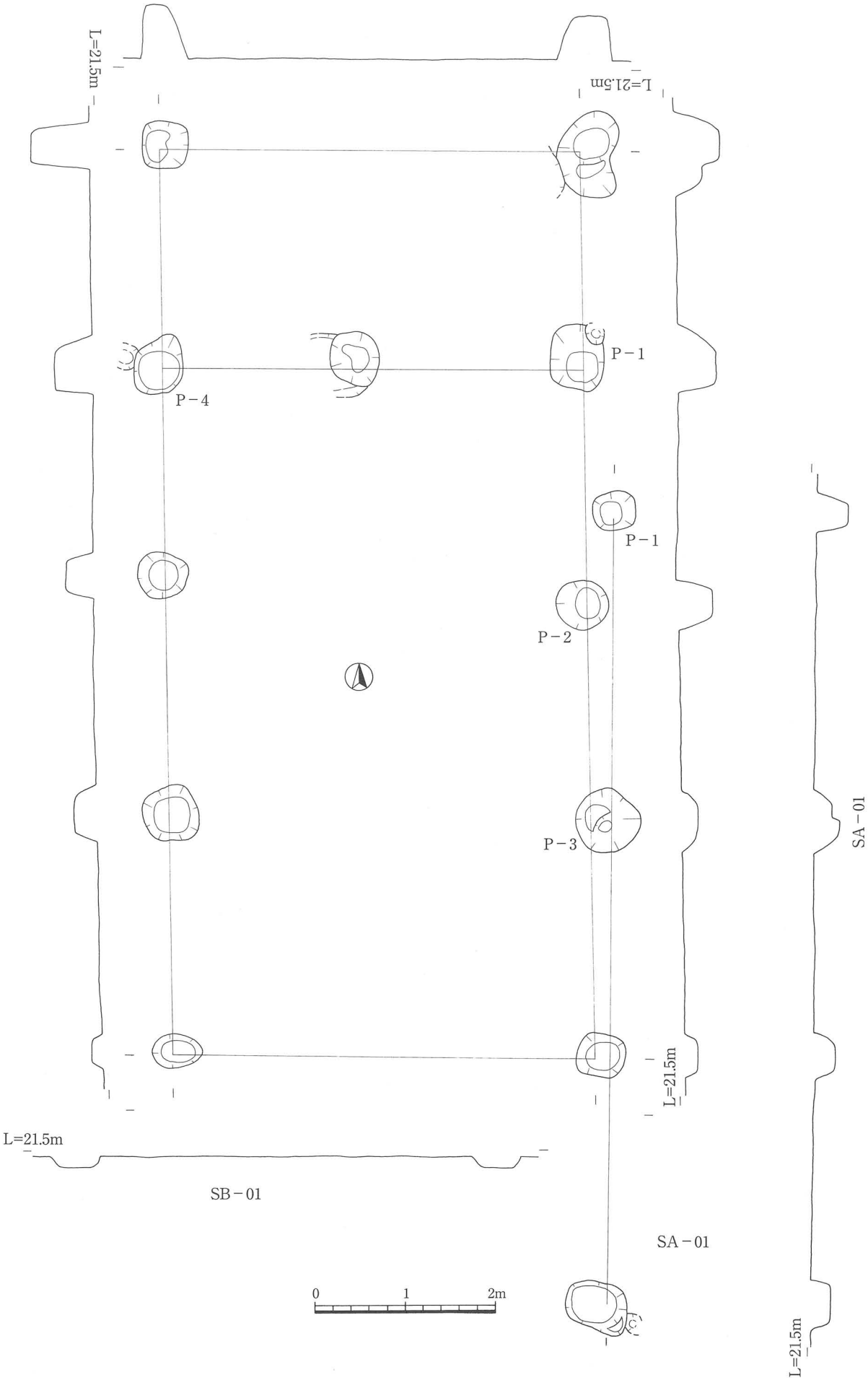
３区北東側に位置する方形に巡ると思われる溝である。一辺の長さは不明であるが、幅北辺で1.8m、西辺で1.3mを測り、深さは10～20cmである。底面には川原石とともに砕かれたような断面の鋭い礫が多数やや浮いた状態で確認されている。全容は窺い知れないが、墓である可能性が高いと考えている。

**ＳＤ－１６**（遺物　第55図519～521）

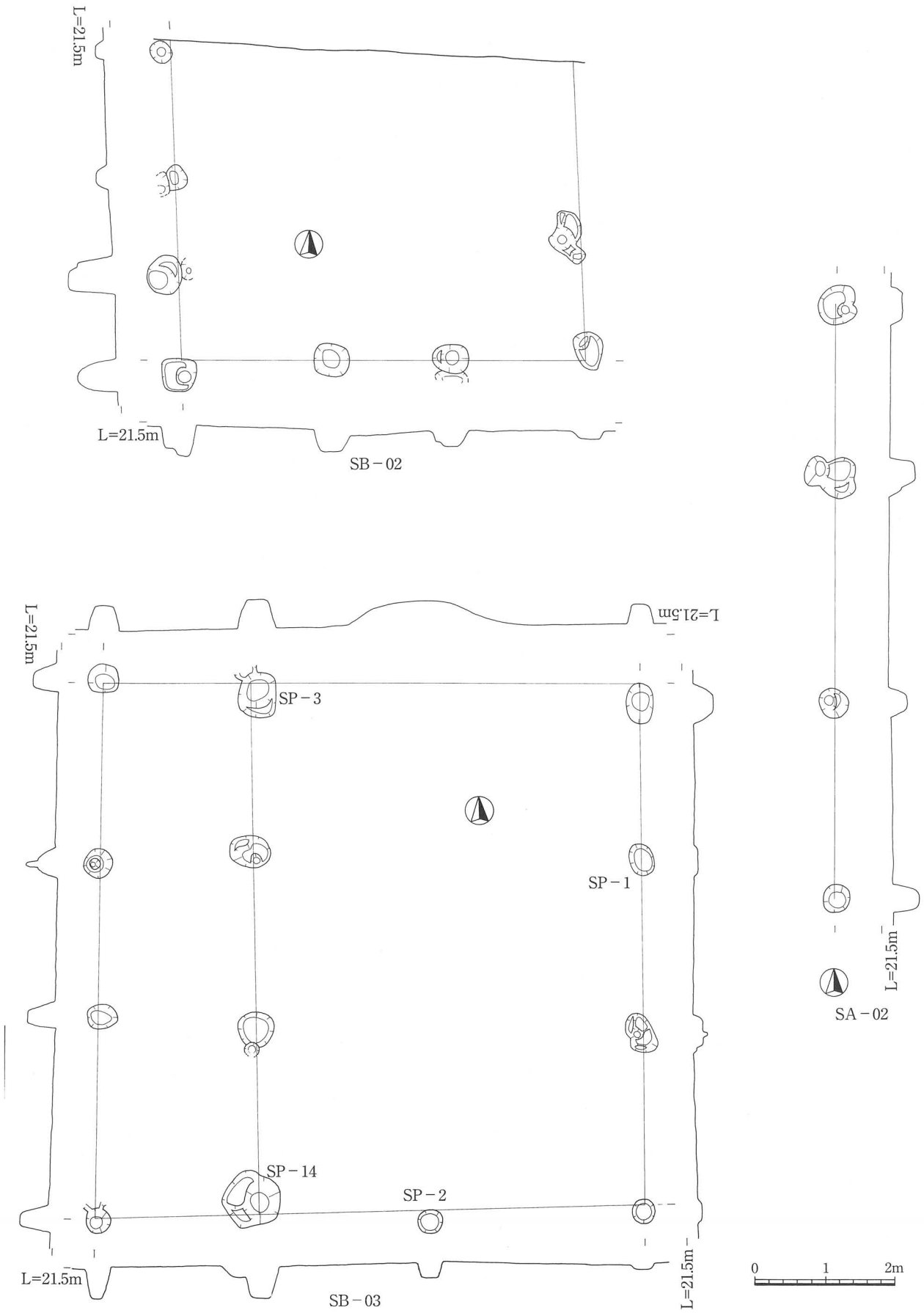
５区西半に位置する小規模な溝であり、周辺に存在する近世段階の畝間溝のひとつと思われる。長さ3.8m、幅32cm、深さ６～８cmを測る。遺物は後の混入であろう。



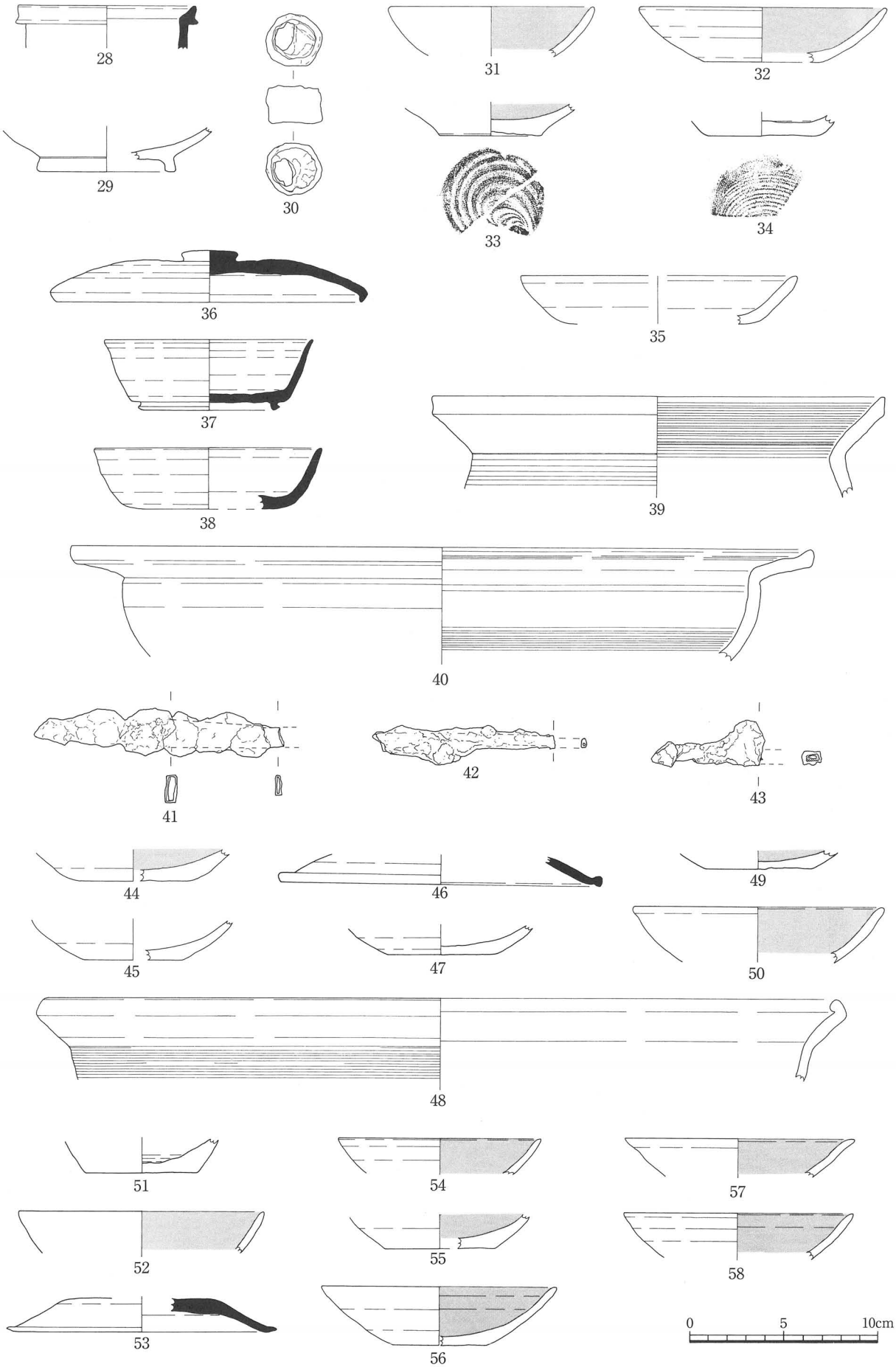

**第8図**　古代遺構（SI－SK, S=1/60）



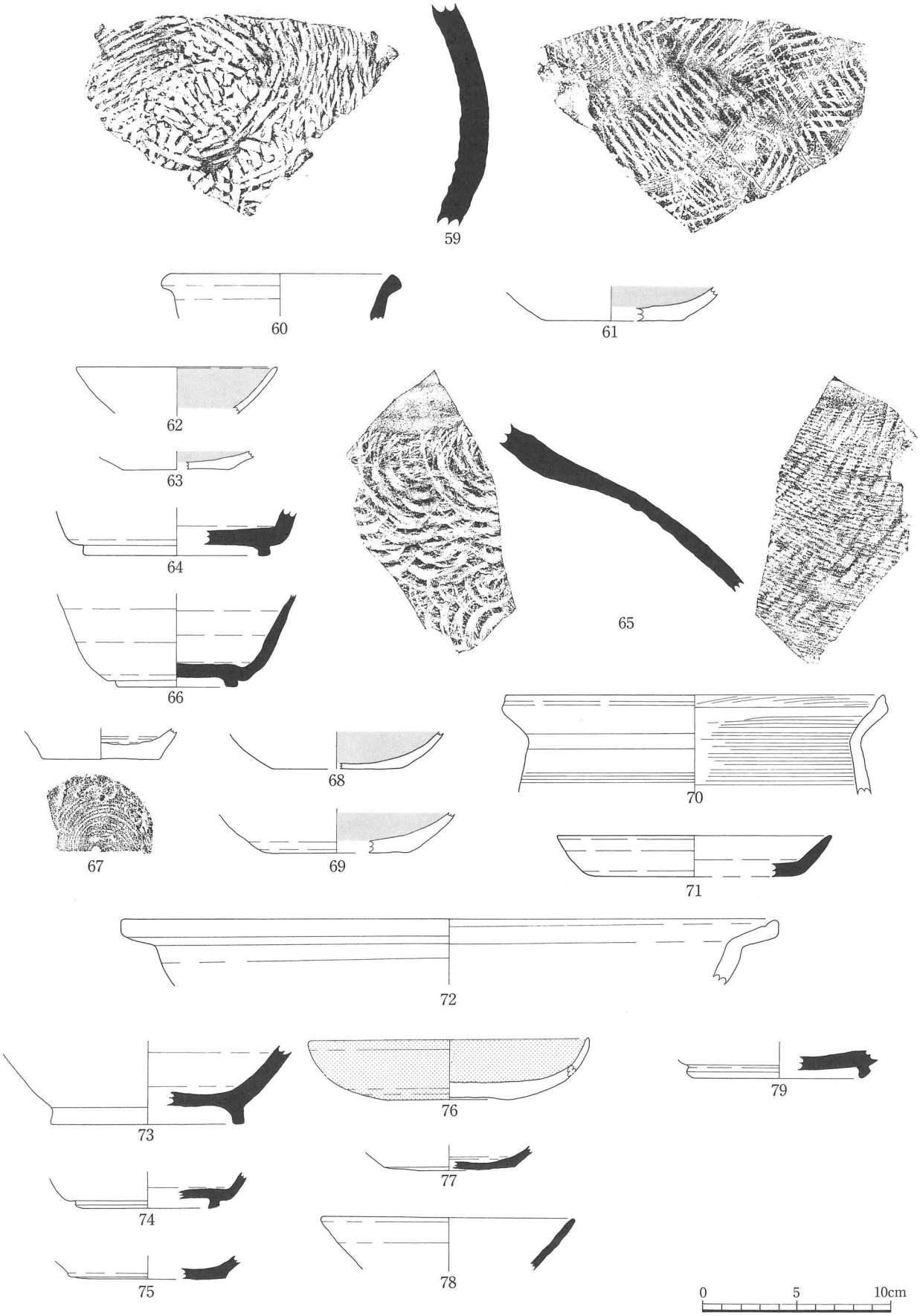

**第9図**　SB－01・SA－01(S=1/60)



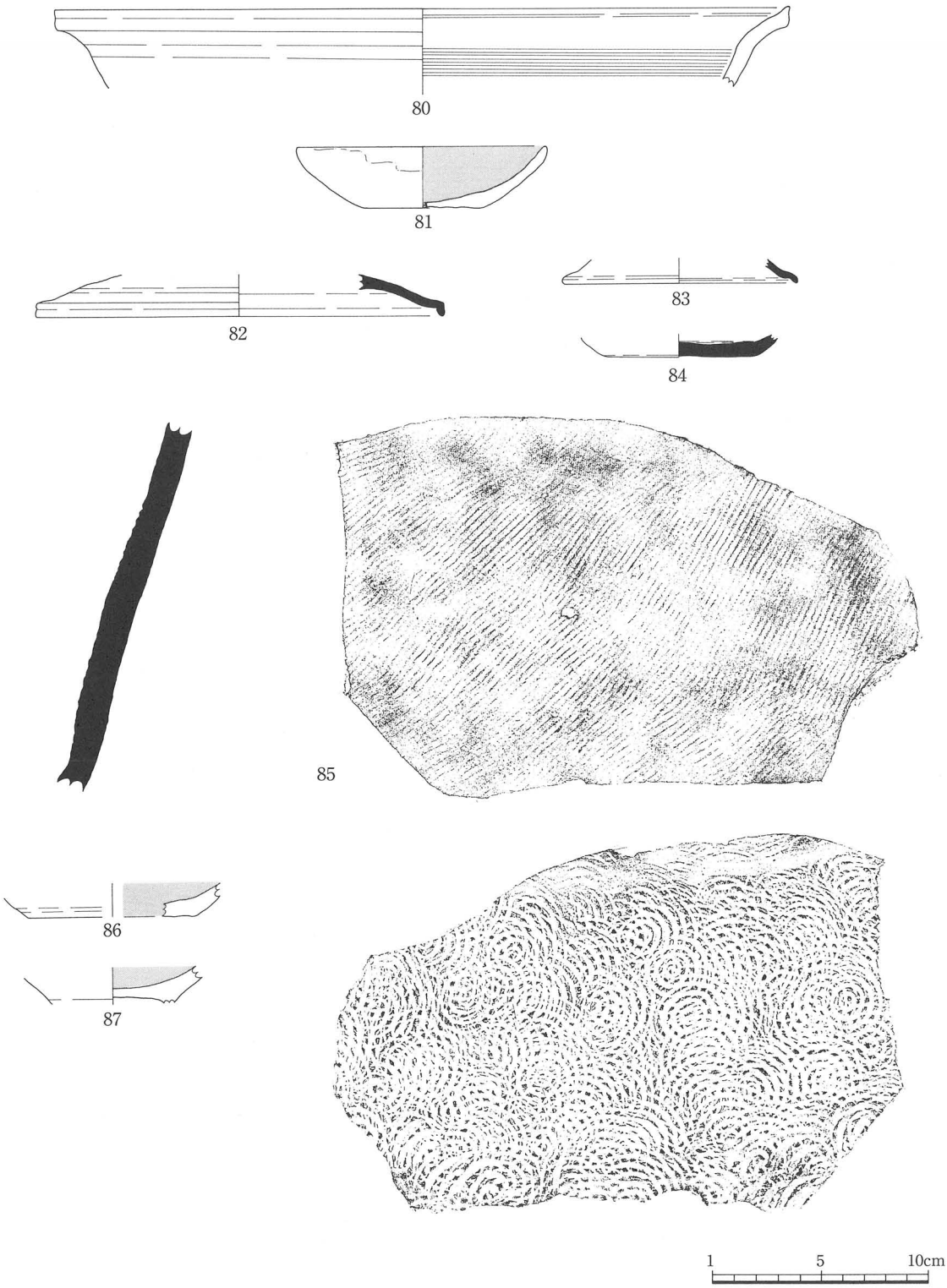

**第10図**　SB－02・03, SA－02(S=1-80)



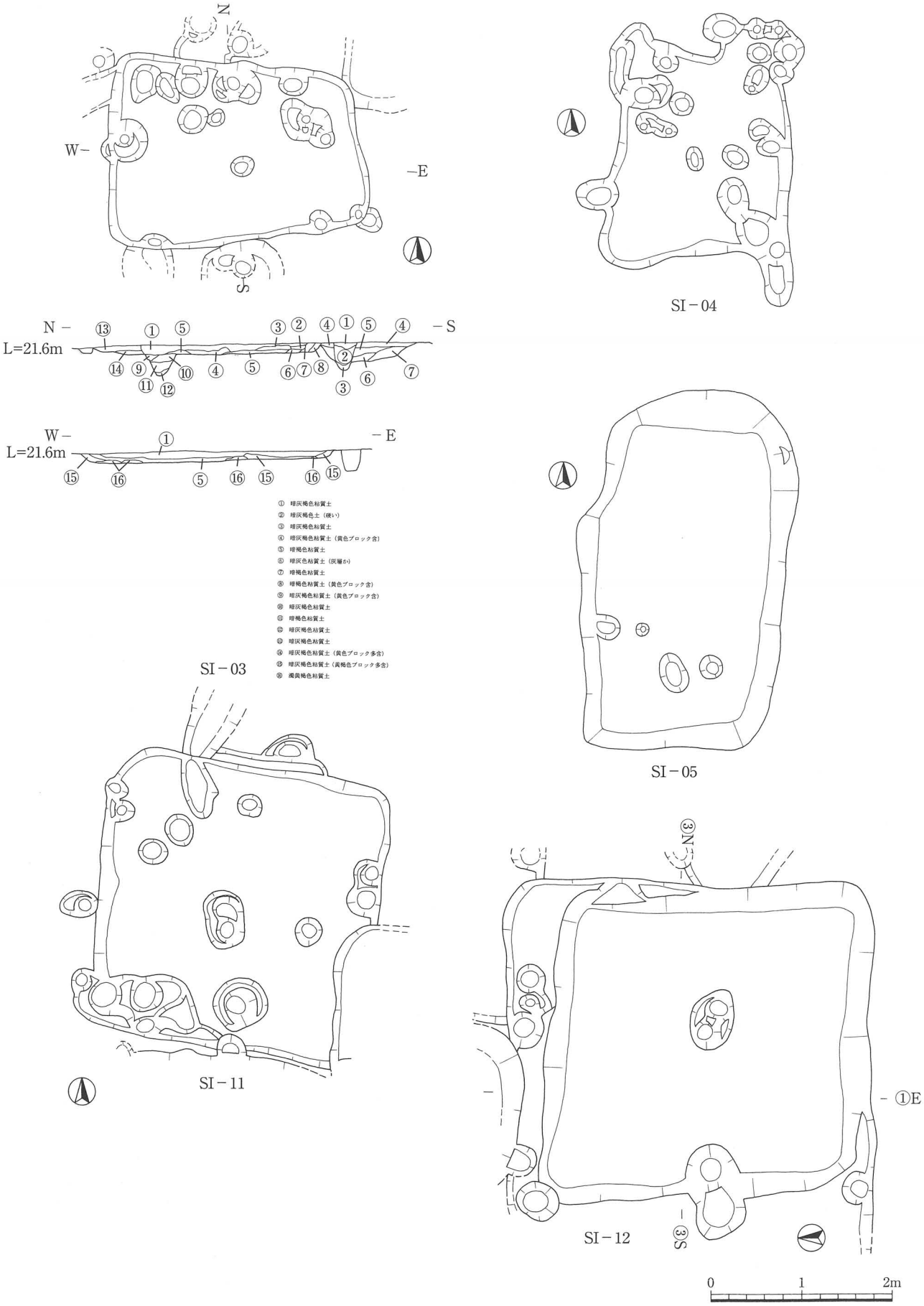

**第11図**　古代遺物(S=1/3)　28～30(SI－01),31・32(SI－02),33～35(SI－06),36～43(SI－08),44～50(SB－21),51～54(SB－03),55～58(SA－01)



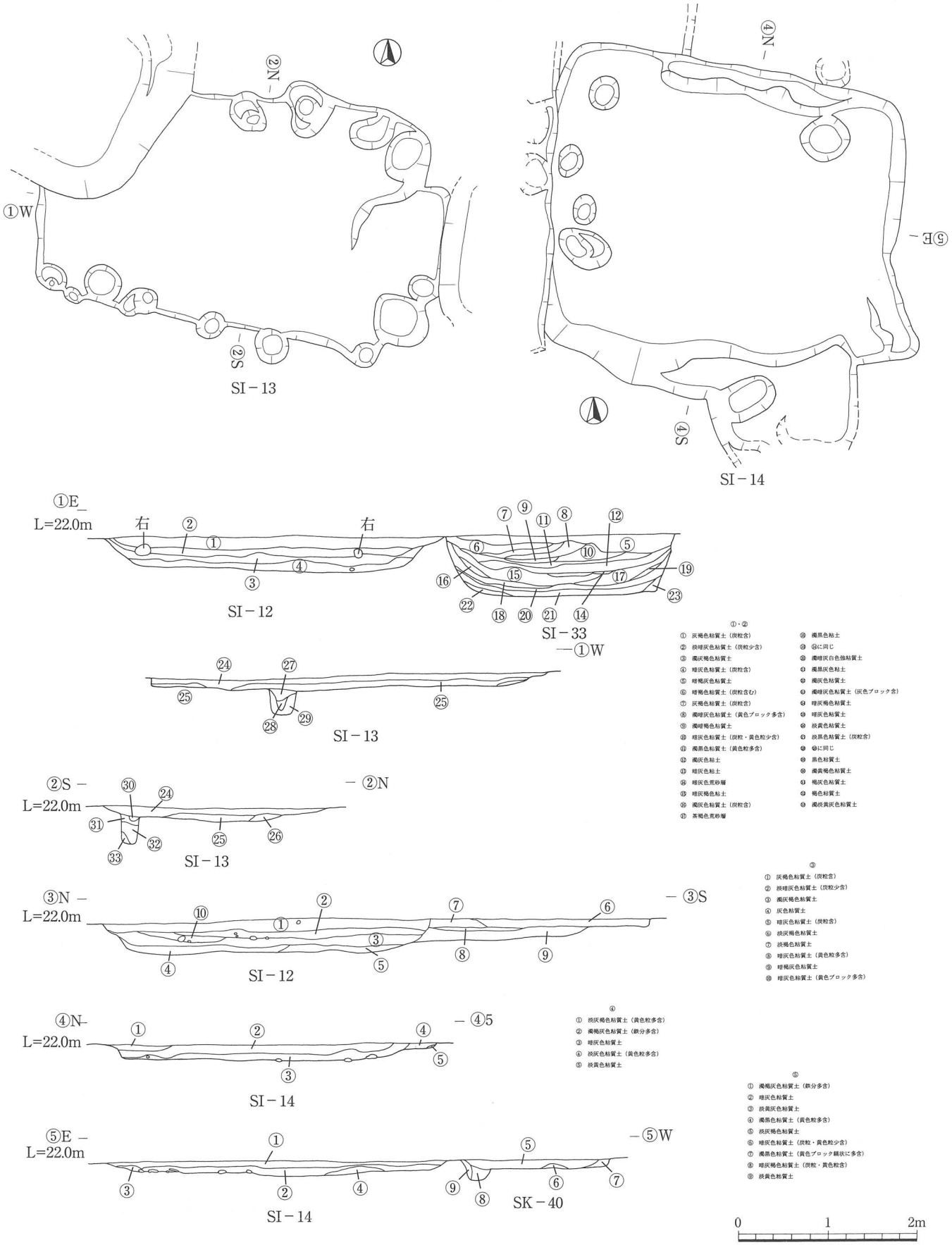

**第12図**　古代遺物(S=1/3)　59(SK－49),62(SP－03),63(SP－04),64・65(SP－05),66(SP－06),67(SP－07),68(SP－09),69・70(SP－10),71(SP－11),72(SP－16),73(SP－17),74(SP－22),75(SP－24),76(SP－26),77(SP－28),79(SX－03)



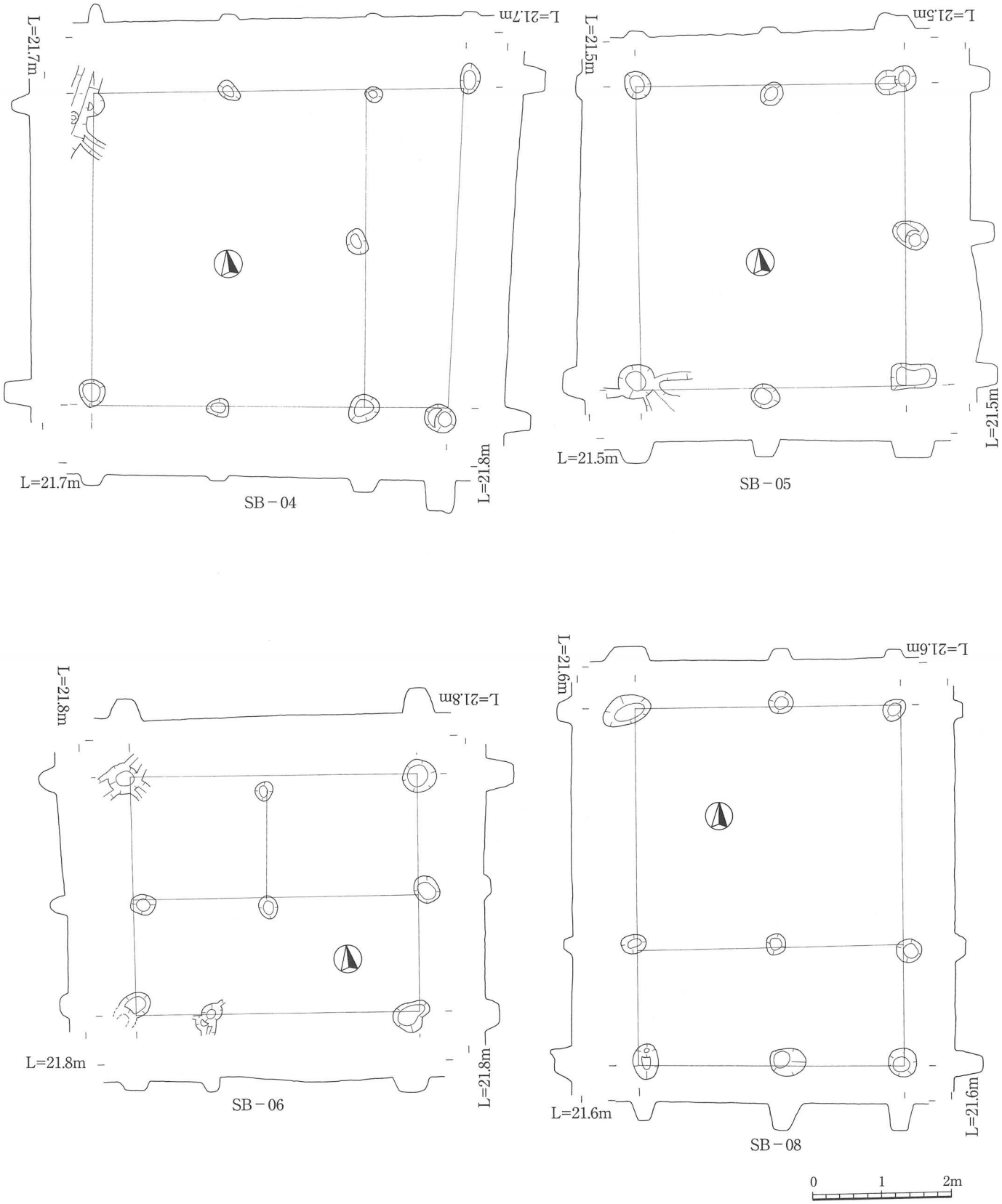

**第13図**　古代遺物(S=1/3)　80(SP－04),81(SP－08),82～87(包含層)



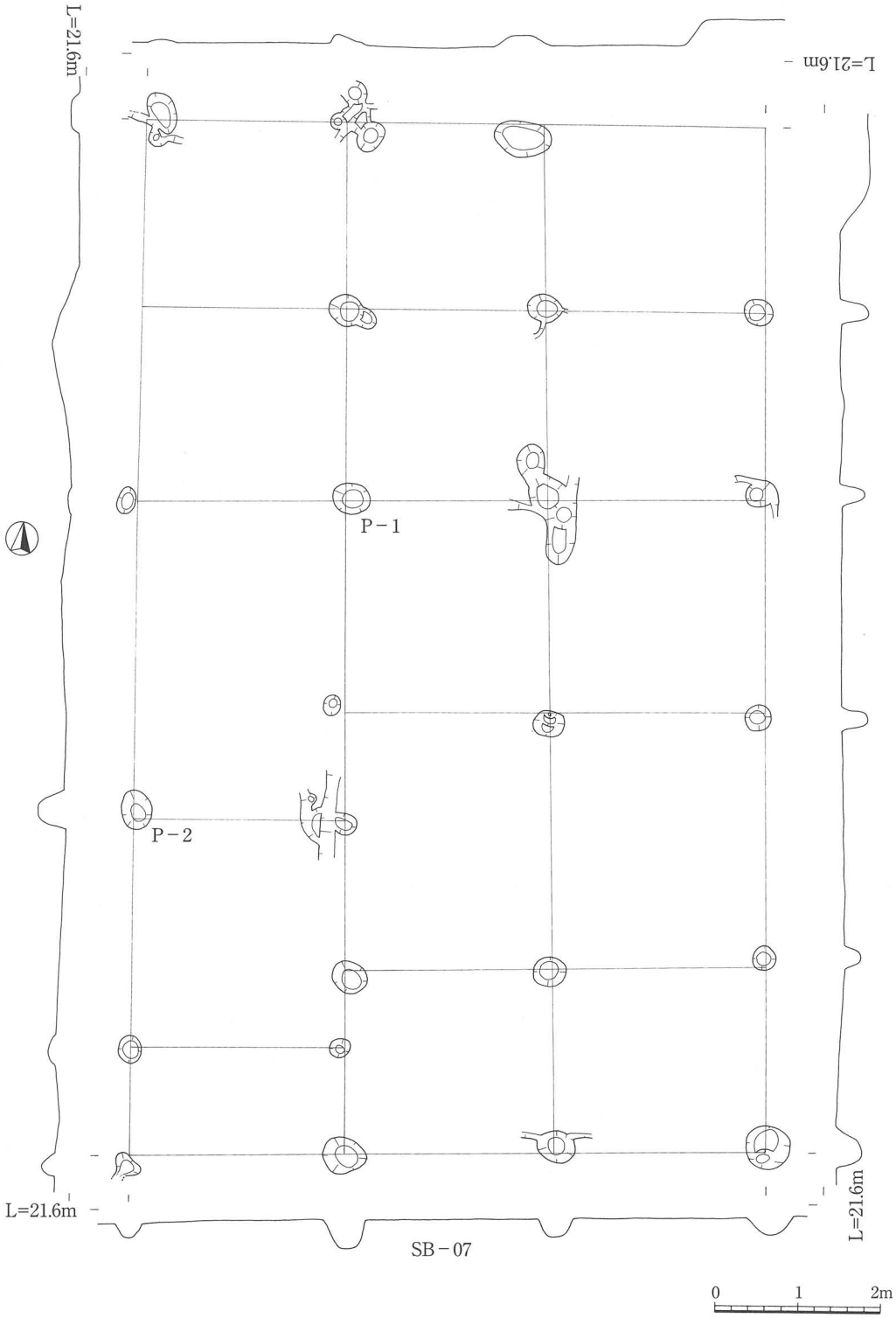

**第14図**　竪穴状遺構(S=1/60)



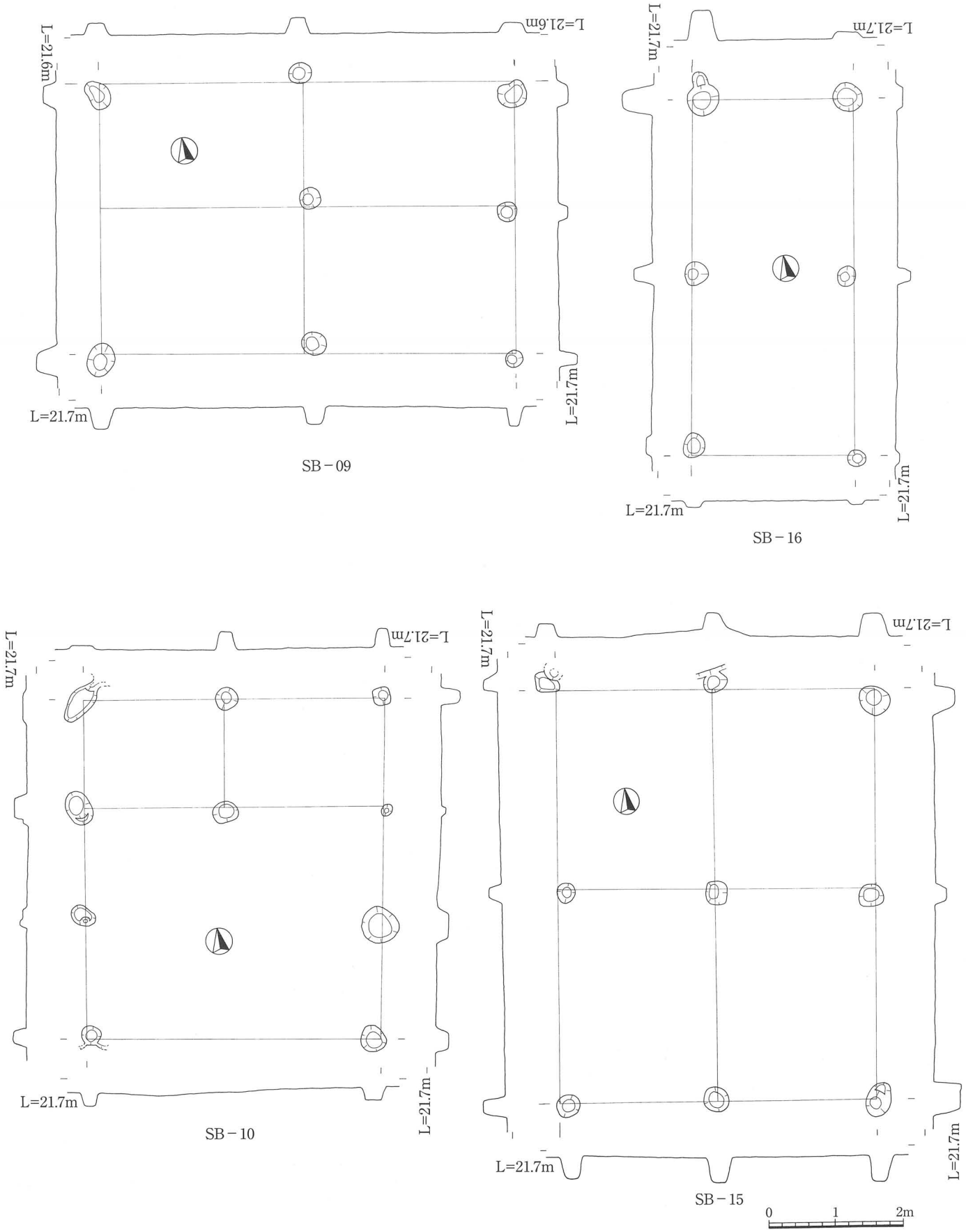

**第15図**　竪穴状遺構(S=1/60)



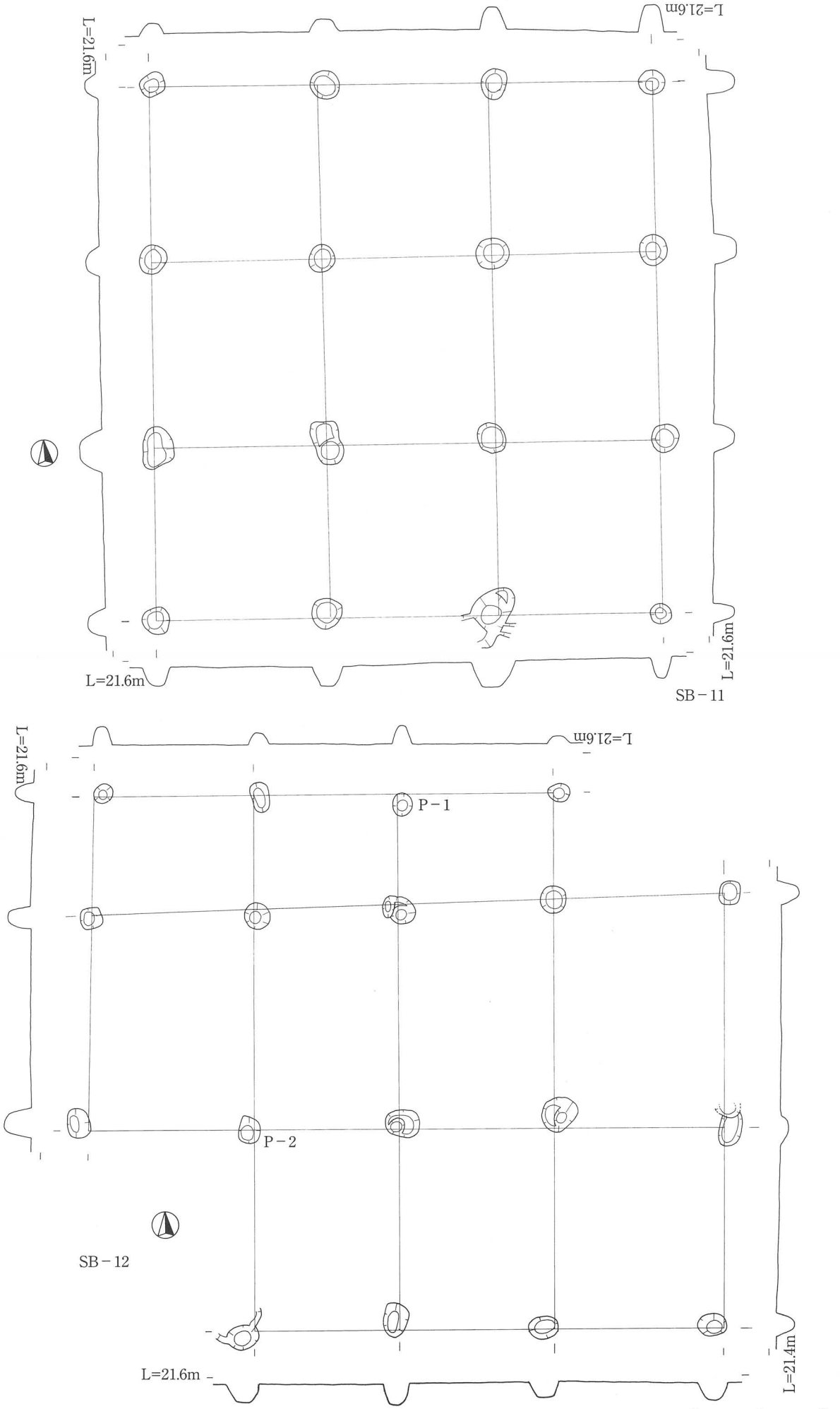

**第16図**　SB－04～06・08(S=1/80)



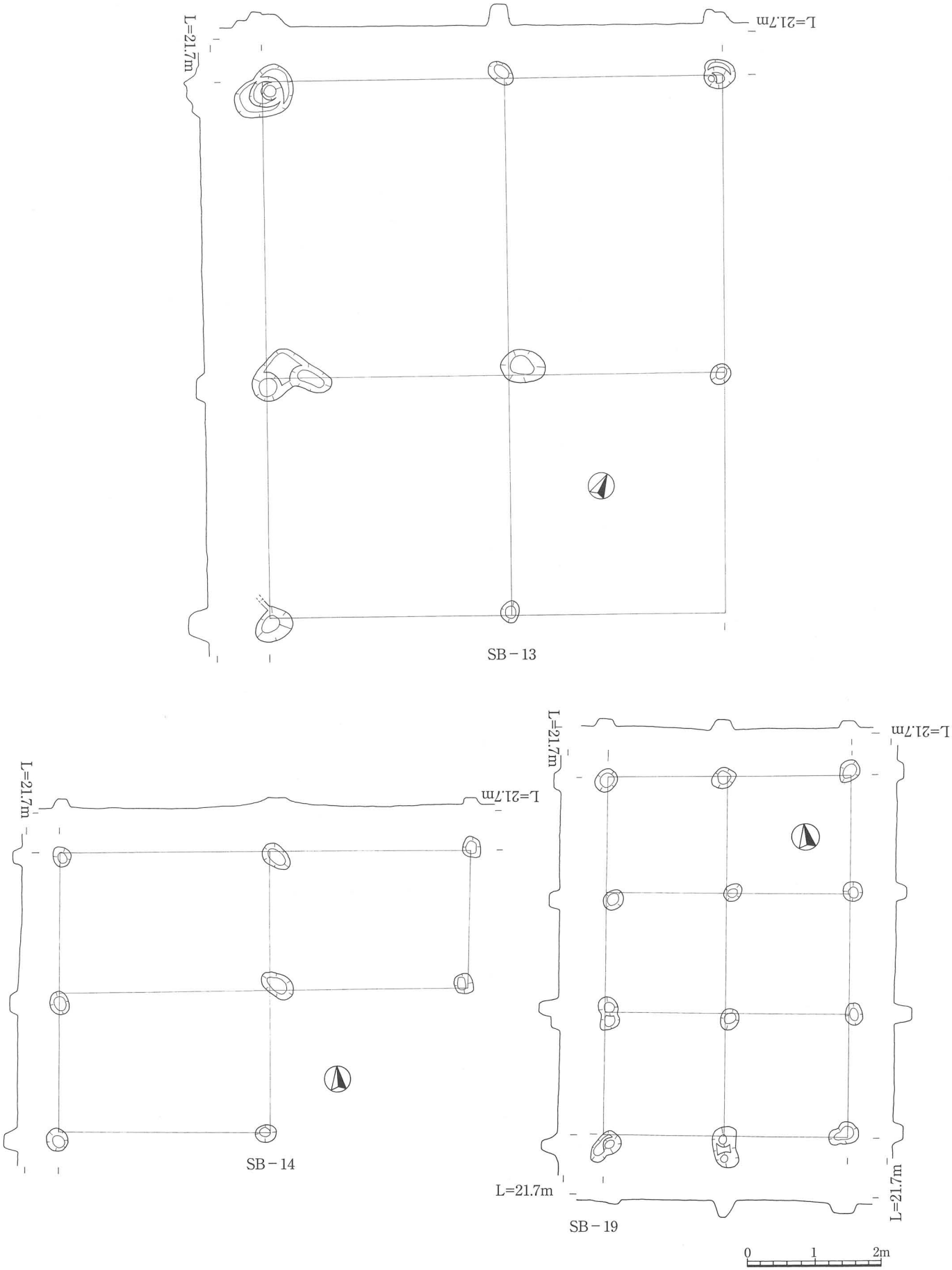

**第17図**　SB－07(S=1/80)



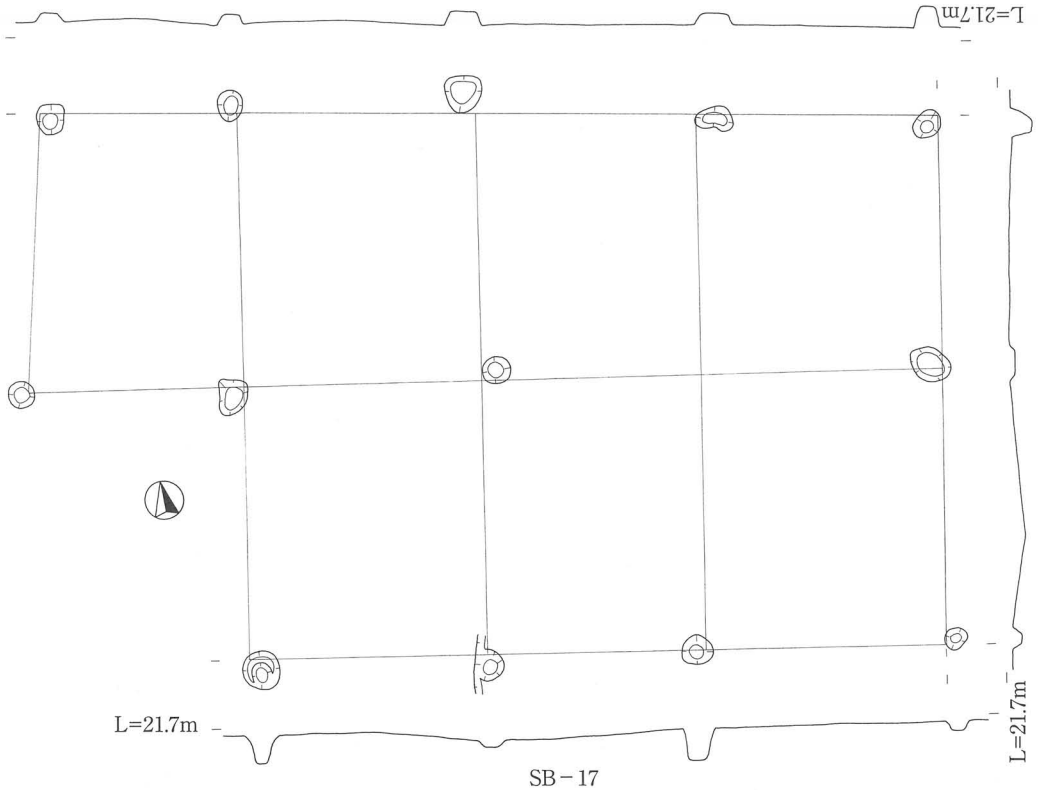

**第18図**　SB－09・10・15・16(S=1/80)

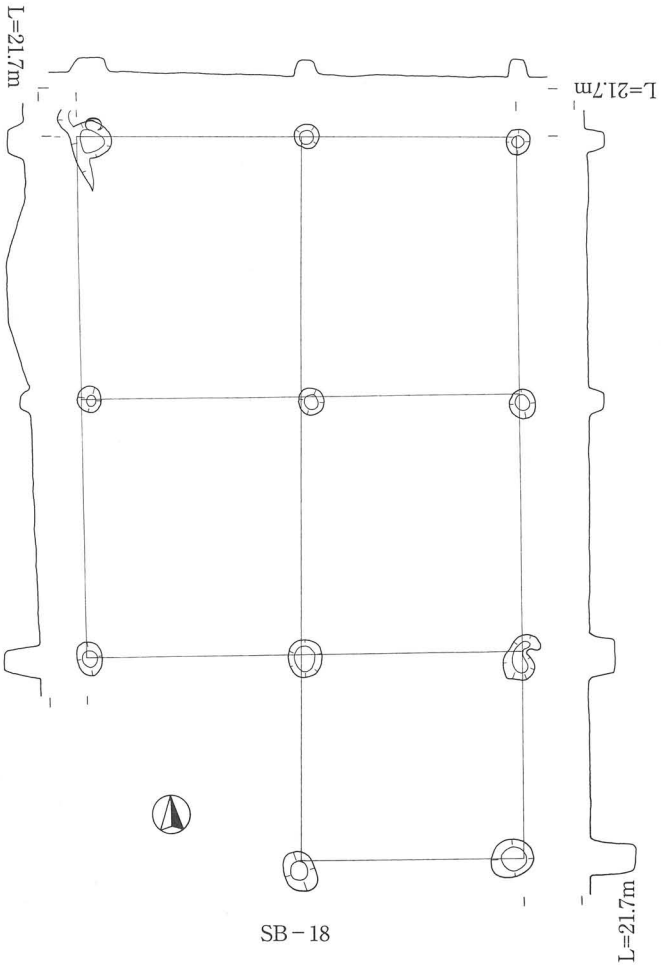



**第19図**　SB－11・12(S=1/80)

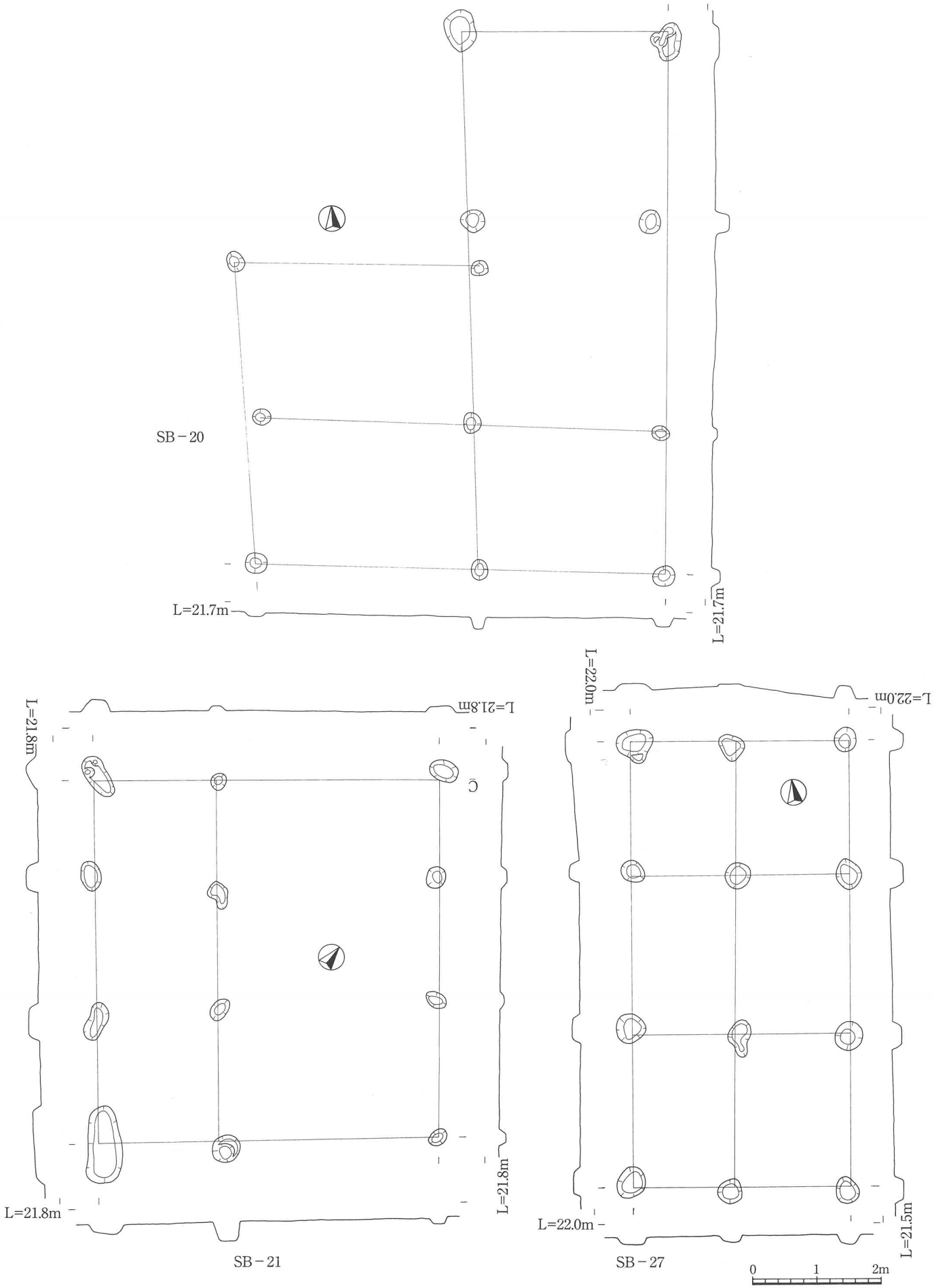



**第20図**　SB－13・14・19(S=1/80)

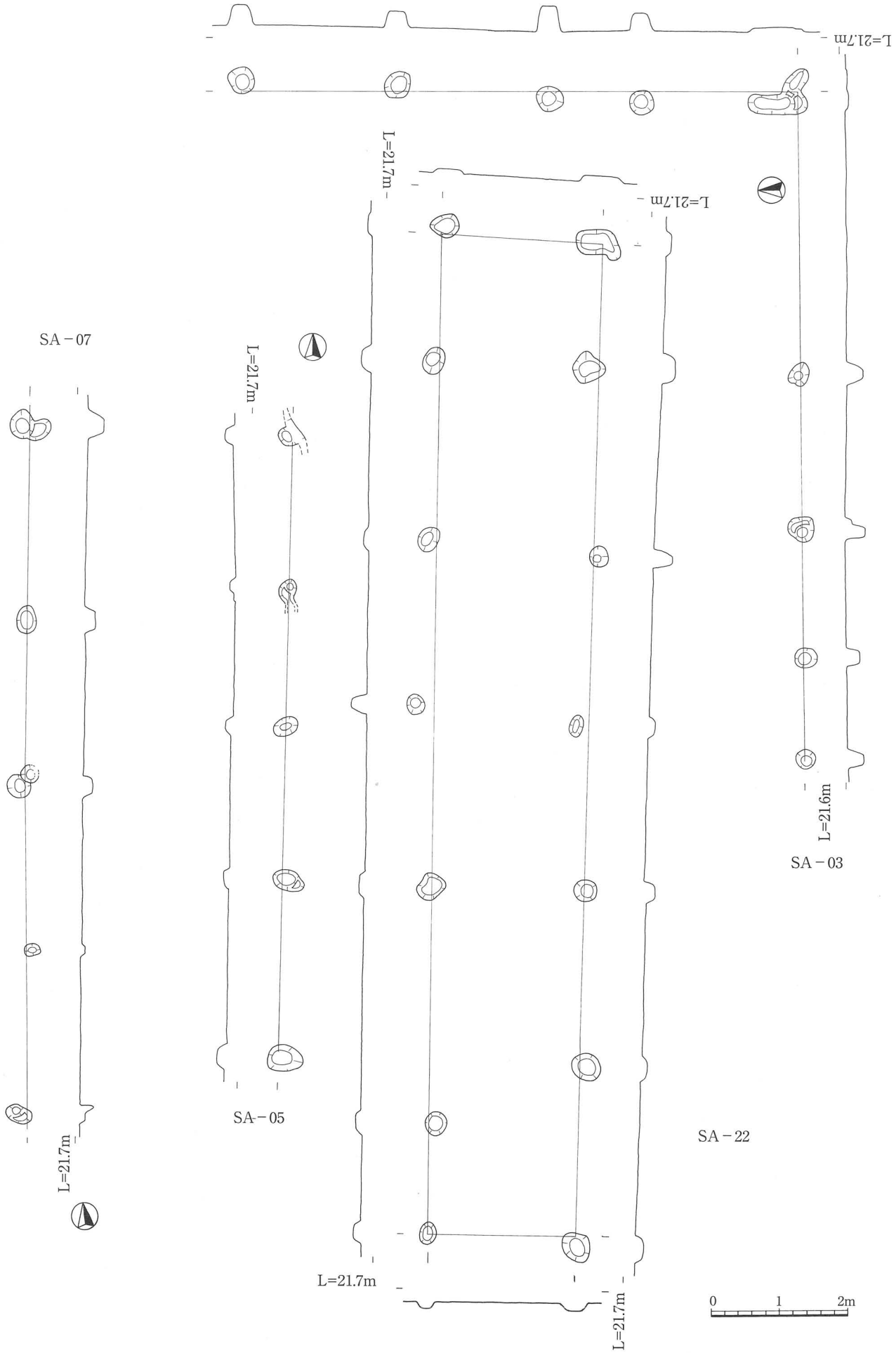


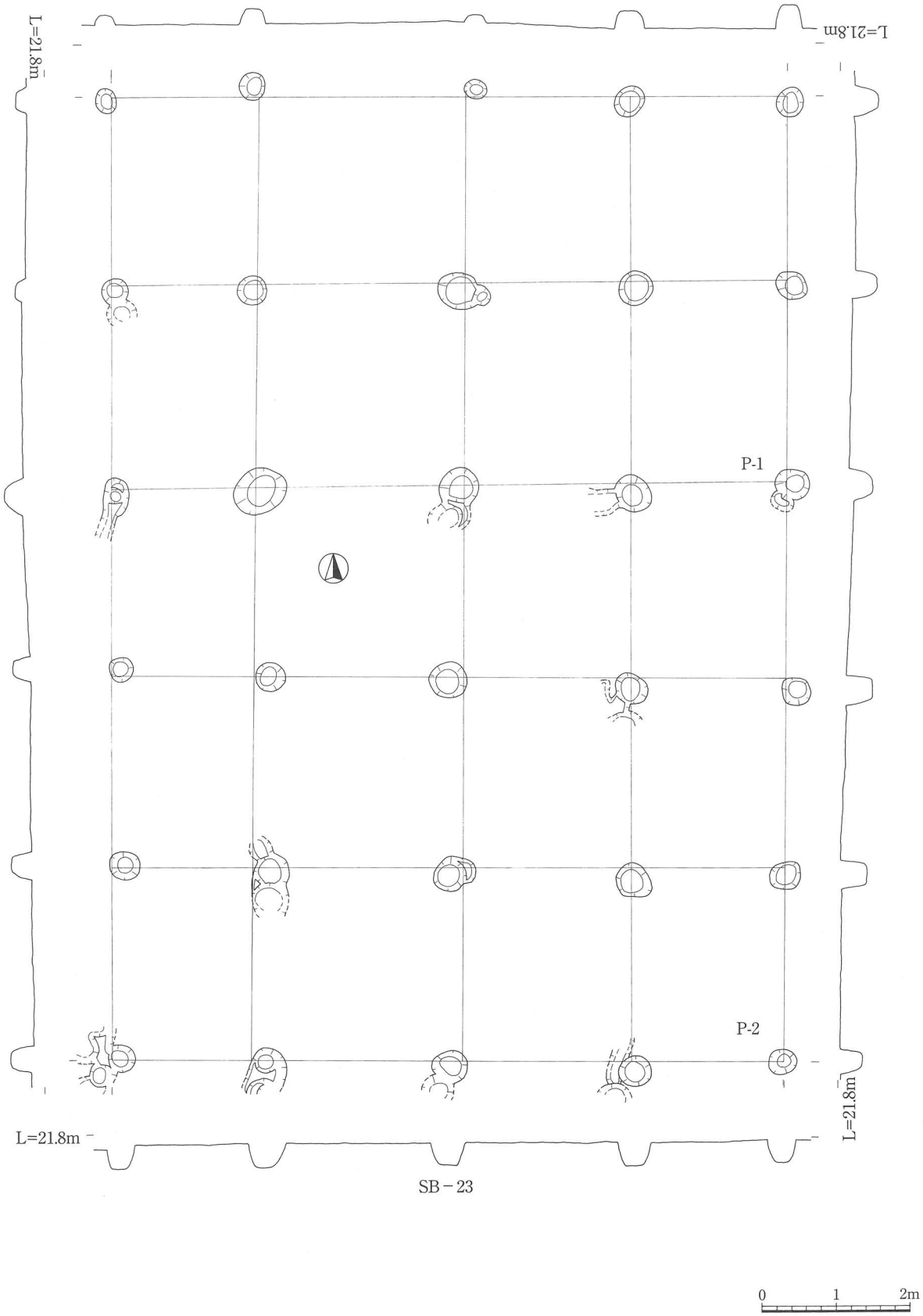
**第21図**　SB－17・18(S=1/80)



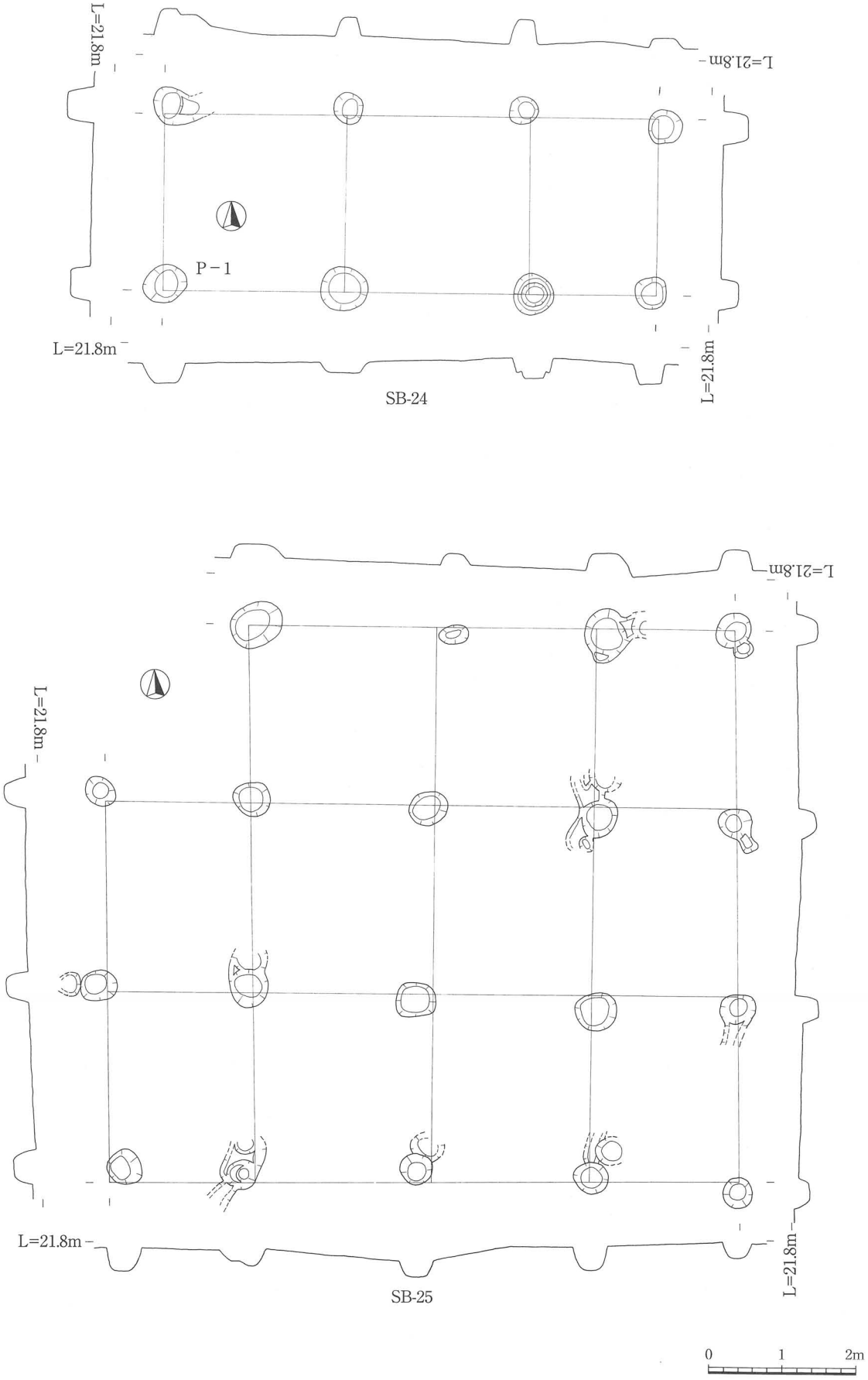

**第22図**　SB－20・21・27(S=1/80)



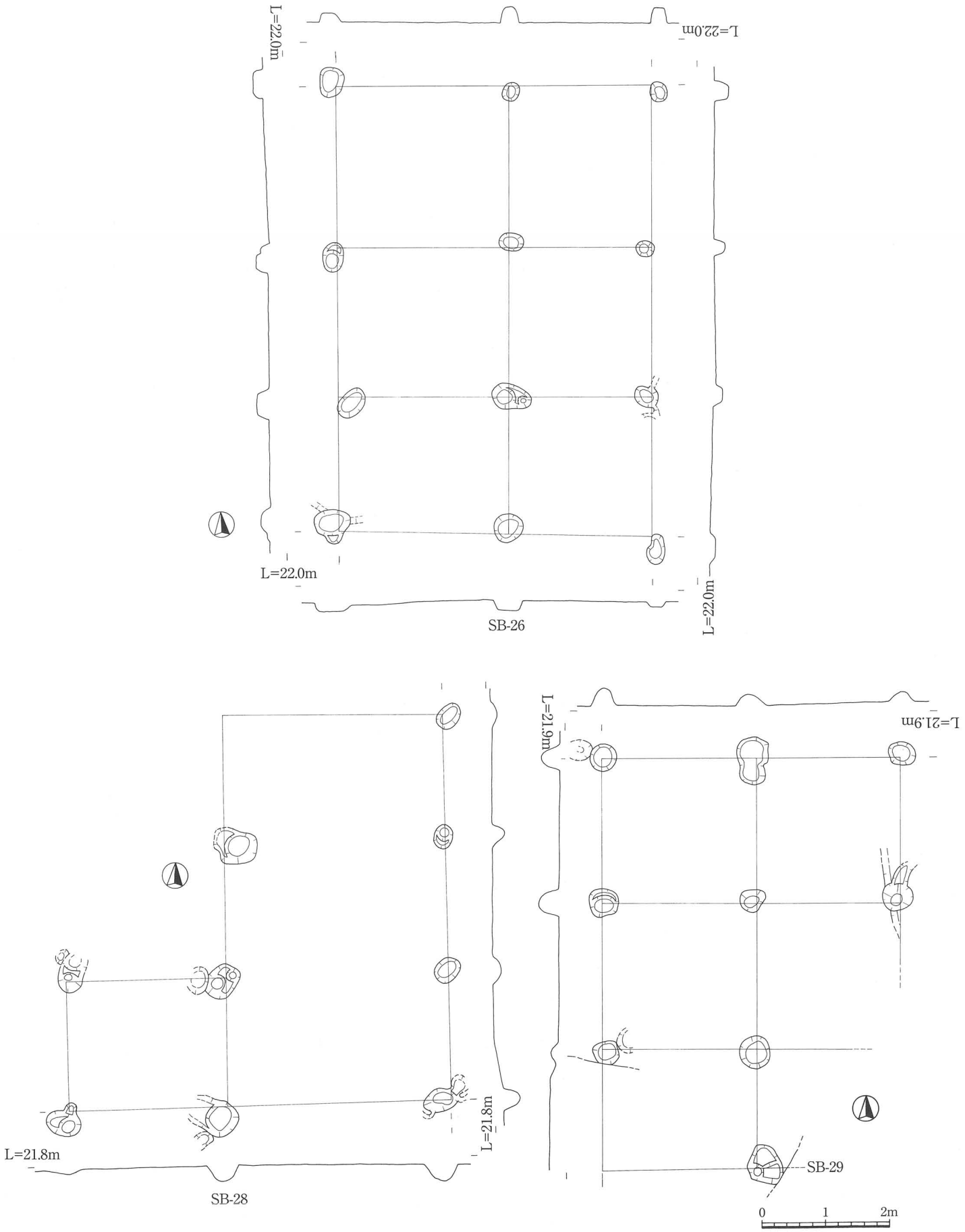

**第23図**　SB－22・SA－03・05・07（S=1/80）



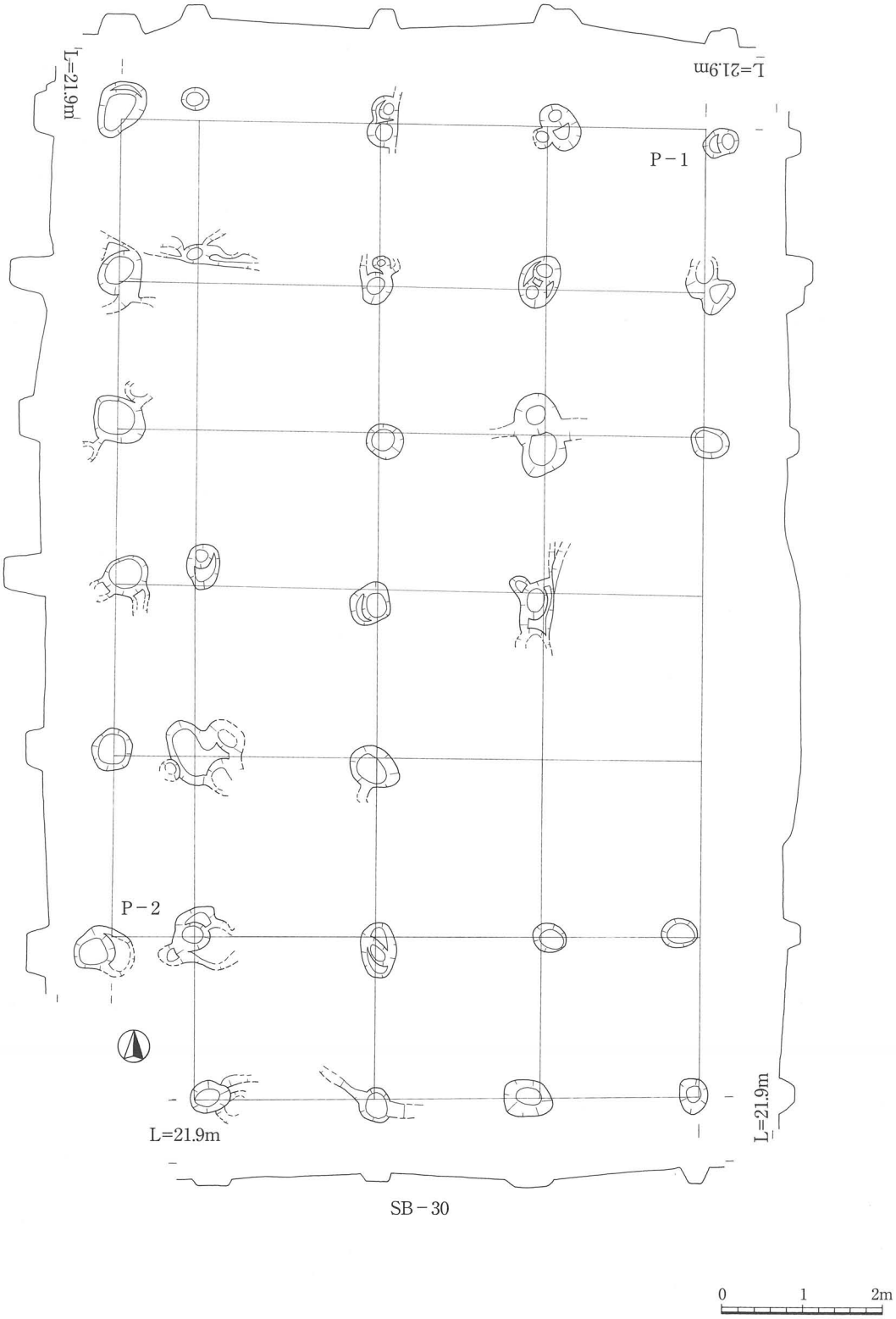

**第24図**　SB－23(S=1/80)



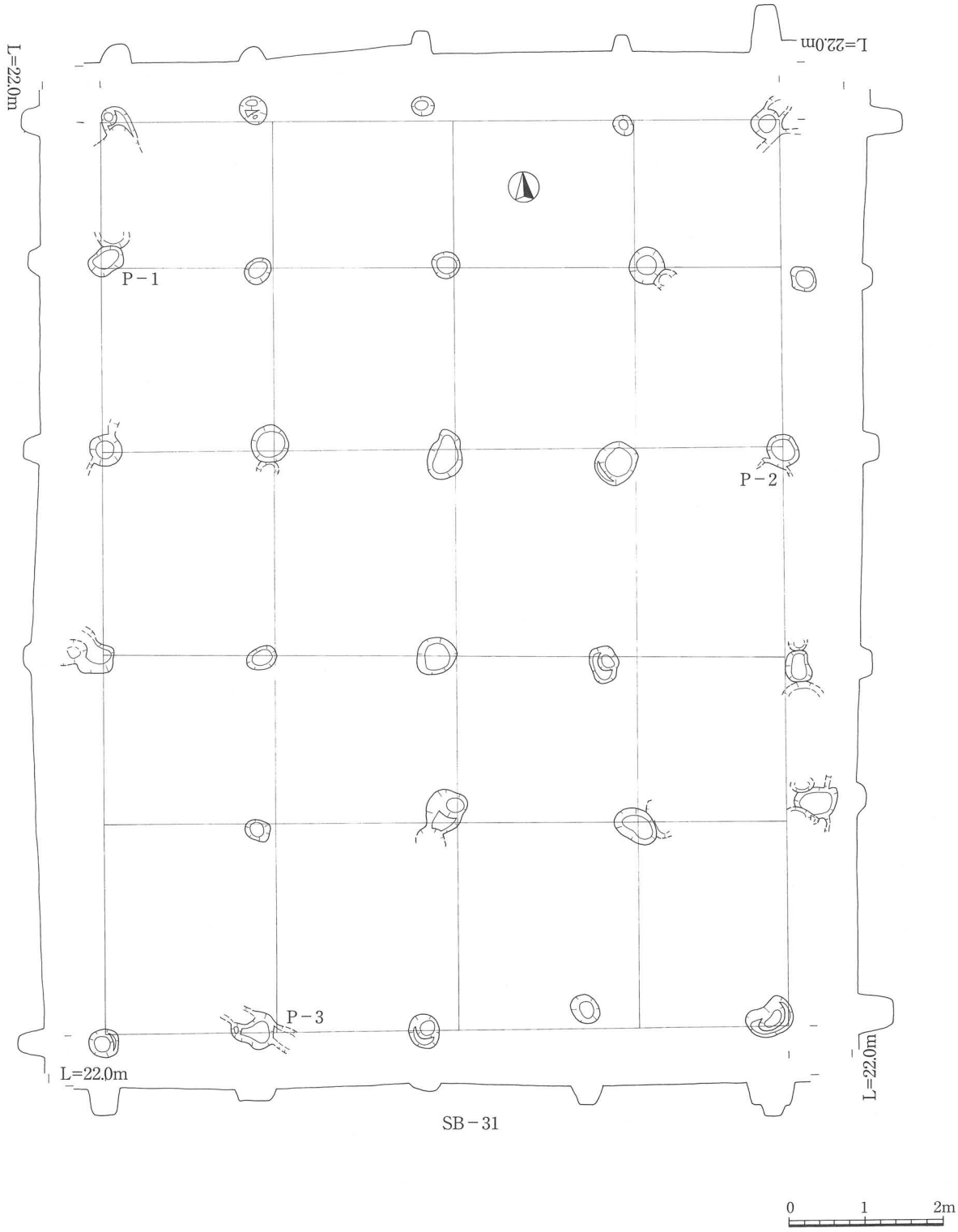

**第25図**　SB－24・25(S=1/80)



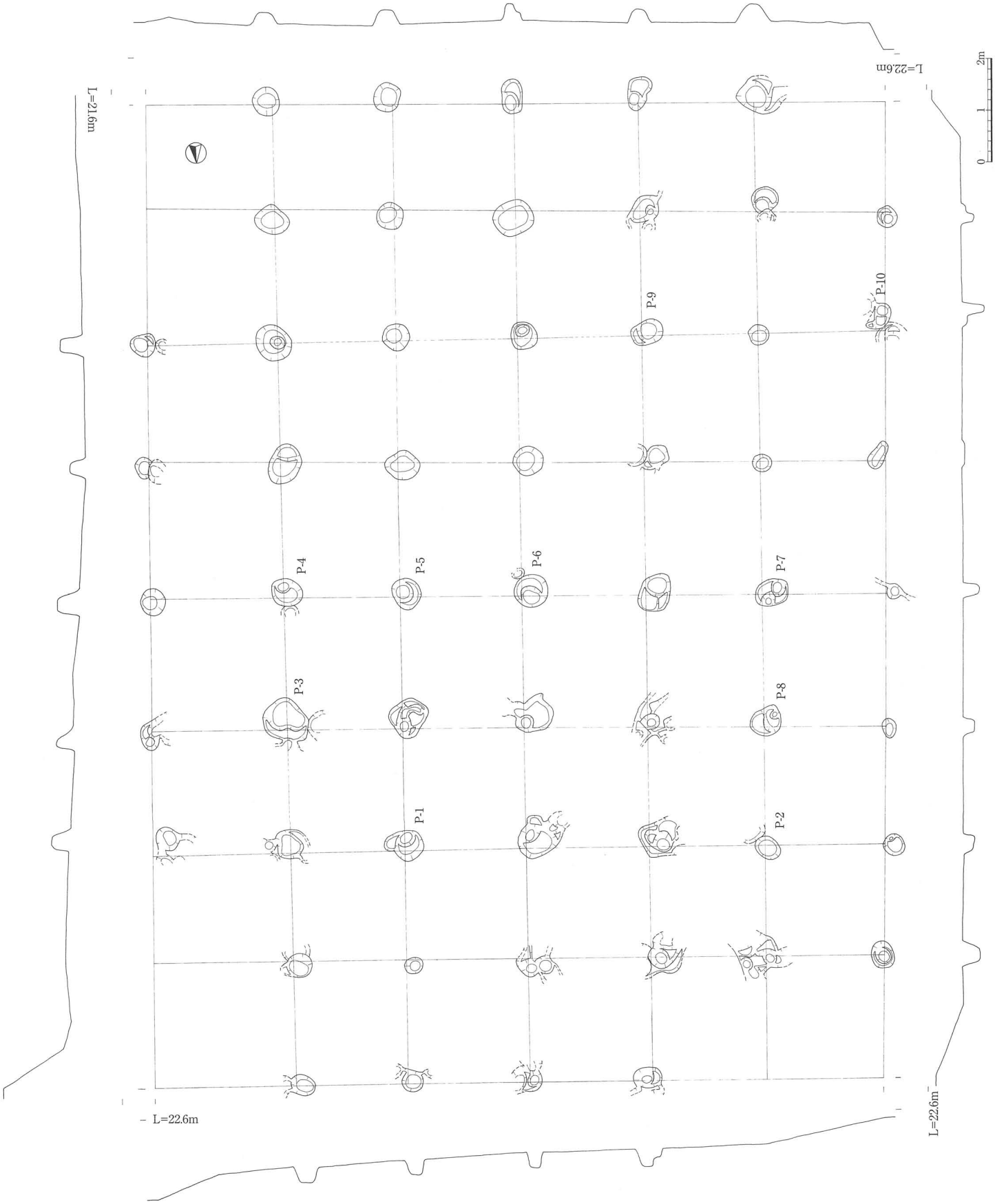

**第26図**　SB－26・28・29(S=1/80)



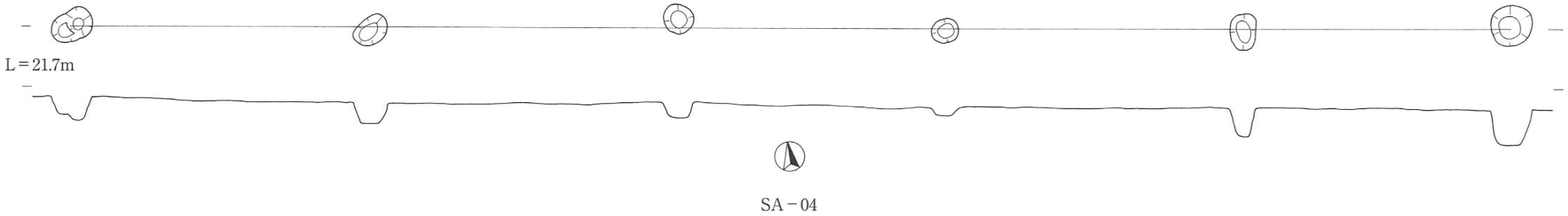

**第27図**　SB－30(S=1/8)

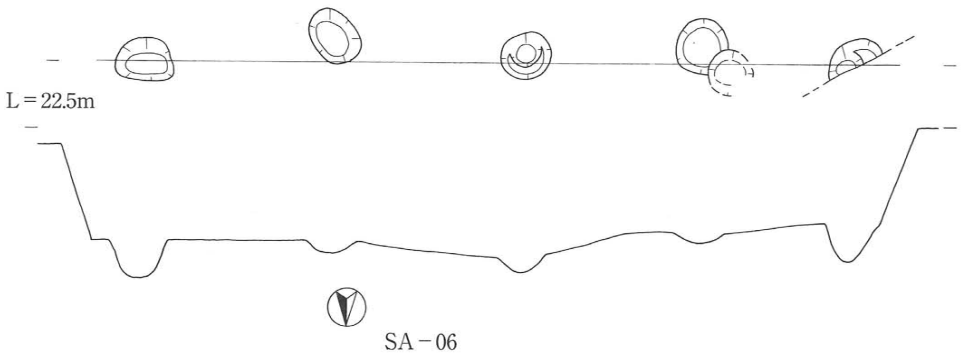


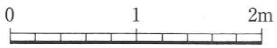

**第28図**　SB－31(S=1/80)



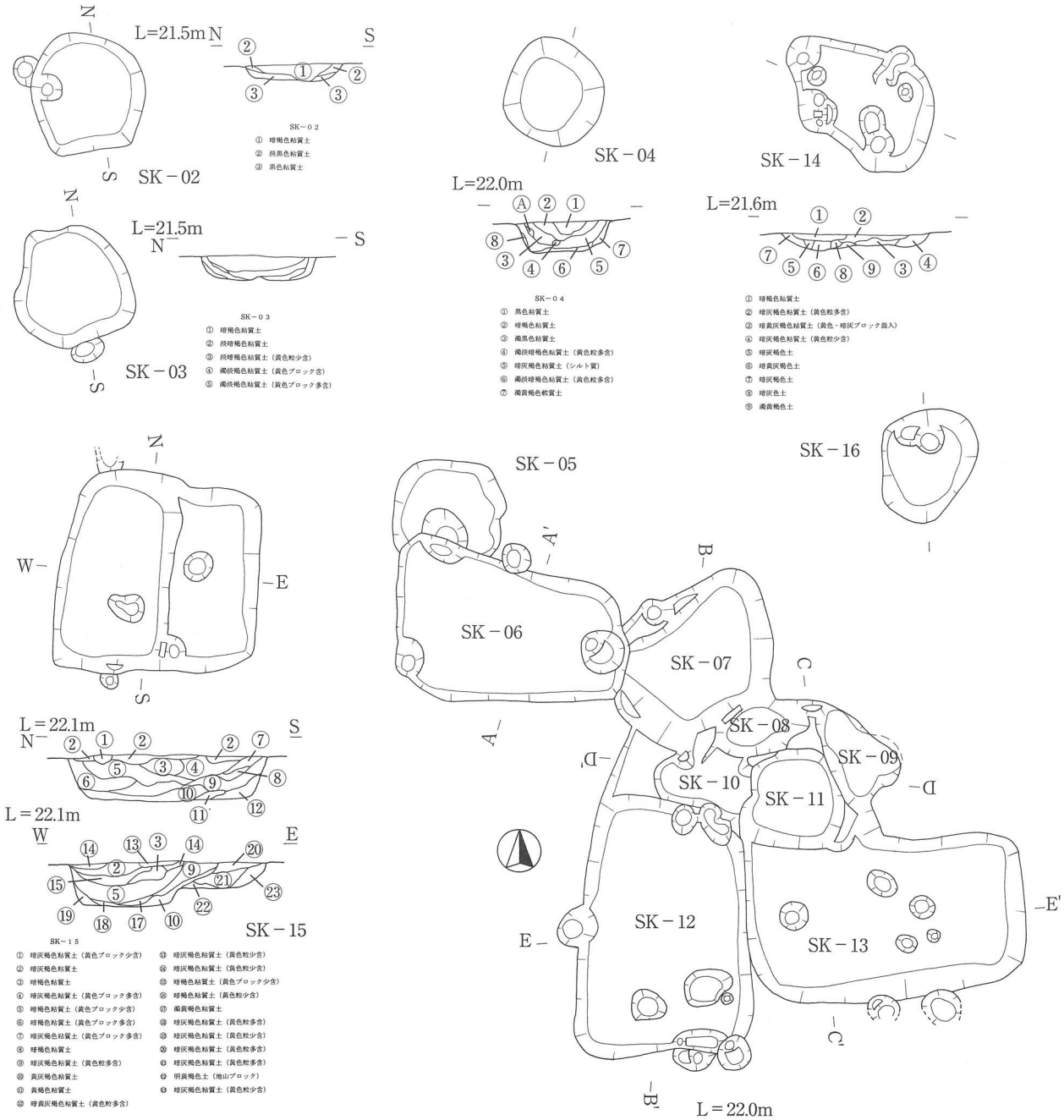

**第29図**　SB－32(S=1/80)



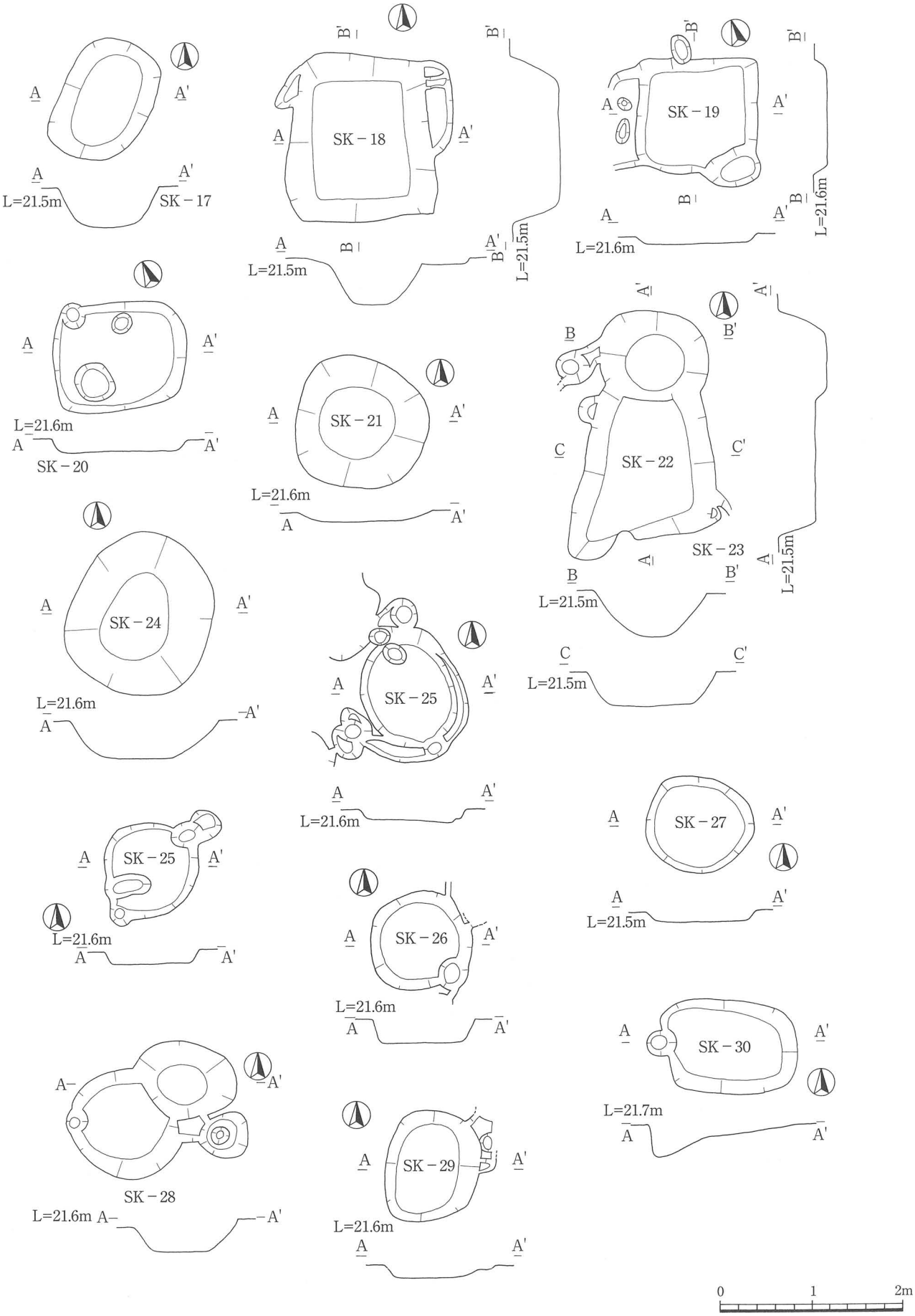



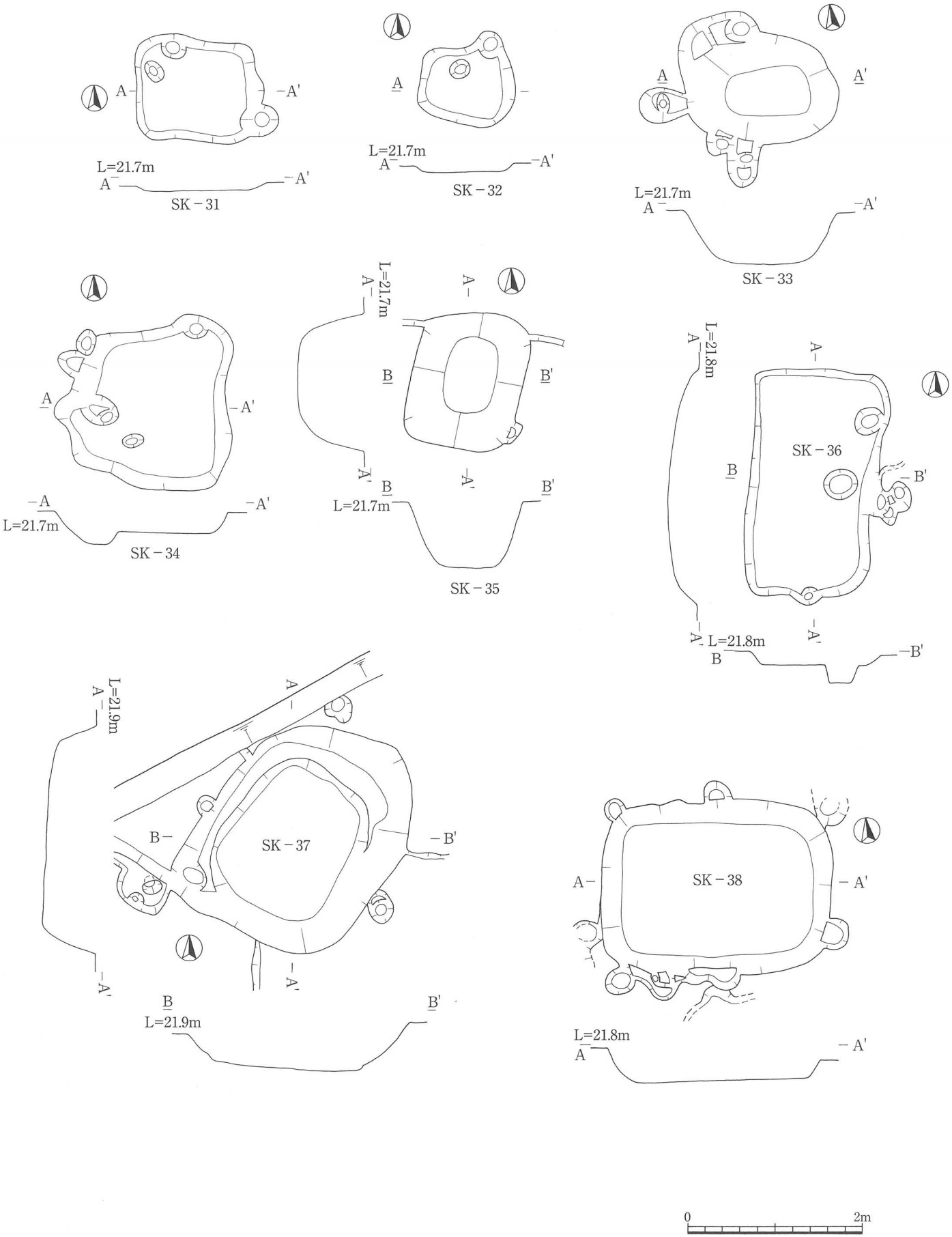

**第30図**　SA－04・06(S=1/60)


SK－02
① 暗褐色粘質土
② 淡黒色粘質土
③ 黒色粘質土
SK－03
① 暗褐色粘質土
② 淡暗褐色粘質土
③ 淡暗褐色粘質土（黄色粒少含）
④ 濁淡褐色粘質土（黄色ブロック含）
⑤ 濁淡褐色粘質土（黄色ブロック多含）
SK－04
① 黒色粘質土
② 暗褐色粘質土
③ 濁黒色粘質土
④ 濁淡暗褐色粘質土（黄色粒多含）
⑤ 暗灰褐色粘質土（シルト質）
⑥ 濁淡暗褐色粘質土（黄色粒多含）
⑦ 濁黄褐色軟質土
① 暗褐色粘質土
② 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
③ 暗黄灰褐色粘質土（黄色・暗灰ブロック混入）
④ 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
⑤ 暗灰褐色土
⑥ 暗黄灰褐色土
⑦ 暗灰褐色土
⑧ 暗灰色土
⑨ 濁黄褐色土
SK－15
① 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック少含）
② 暗灰褐色粘質土
③ 暗褐色粘質土
④ 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック多含）
⑤ 暗褐色粘質土（黄色ブロック少含）
⑥ 暗褐色粘質土（黄色ブロック多含）
⑦ 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック多含）
⑧ 暗褐色粘質土
⑨ 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
⑩ 黄灰褐色粘質土
⑪ 黄褐色粘質土
⑫ 暗黄灰褐色粘質土（黄色粒多含）
⑬ 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
⑭ 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
⑮ 暗褐色粘質土（黄色ブロック少含）
⑯ 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
⑰ 濁黄褐色粘質土
⑱ 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
⑲ 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
⑳ 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
㉑ 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
㉒ 明黄褐色土（地山ブロック）
㉓ 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
SK－02
SK－03
SK－04
SK－05
SK－06
SK－07
SK－08
SK－09
SK－10
SK－11
SK－12
SK－13
SK－14
SK－15
SK－16
L=21.5m
L=21.6m
L=22.0m
L=22.1m
L=22.18m
L=21.0m
L=21.10m
① 暗褐色粘質土
② 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
③ 暗褐色粘質土（黄色粒多含）
④ 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
⑤ 暗褐色粘質土（炭化物少含）
⑥ 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
⑦ 暗褐色粘質土
⑧ 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
⑨ 暗灰褐色粘質土
⑩ 暗灰褐色粘質土
⑪ 灰色粘質土
⑫ 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック含）
⑬ 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
⑭ 暗褐色粘質土
⑮ 濁黄褐色土
⑯ 暗褐色粘質土
⑰ 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック多含）
⑱ 暗褐色粘質土
⑲ 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック多含）
⑳ 暗褐色粘質土
21 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
22 暗褐色粘質土（黄色ブロック含）
23 濁黄褐色粘質土
24 暗褐色粘質土
25 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
26 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック含）
27 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
28 暗褐色粘質土
29 暗褐色粘質土（軟質）
30 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
31 灰色土ブロック
32 暗褐色粘質土
33 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
34 暗褐色粘質土
35 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック少含）
36 暗褐色粘質土（やや明るい）
37 暗褐色粘質土
38 暗褐色粘質土（炭化物少含）
39 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック多含）
40 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
41 暗灰褐色粘質土（黄色粒微量含）
42 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
43 黄灰褐色土（硬い）
44 暗褐色粘質土
45 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
46 濁黄褐色粘質土
47 暗褐色粘質土
48 47と同じ
49 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
50 暗灰褐色粘質土
51 暗褐色粘質土
52 暗褐色粘質土（やや明るい）
53 暗褐色粘質土（更に明るい）
54 暗灰褐色粘質土
55 暗褐色粘質土
56 暗褐色粘質土（やや明るい）
57 暗灰褐色粘質土
58 濁黄褐色粘質土
59 暗灰褐色粘質土
60 暗灰褐色粘質土（シルト質）
61 暗灰褐色粘質土（黄色粒含）
62 暗褐色粘質土（細分可）
63 暗赤褐粘質土（②より明るい）
64 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
65 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
66 暗灰褐色粘質土（黄色縞状含）
67 暗灰色粘質土
68 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック多含）
69 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック少含）
70 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
71 暗褐色粘質土
72 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
73 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
74 暗褐色粘質土（黄色粒微量含）
75 暗褐色粘質土（炭化物少含）
76 暗灰褐色粘質土
77 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
78 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
79 暗灰褐色粘質土（黄色粒微量含）
80 暗灰褐色粘質土（灰色ブロック多含）
81 暗灰褐色粘質土（黄色粒多含）
82 暗灰褐色粘質土（灰色ブロック少含）
83 暗灰褐色粘質土（黄色粒少含）
84 暗褐色粘質土（黄色粒・炭化物少含）
85 暗褐色粘質土
86 暗褐色粘質土（黄色粒微量含）
87 暗灰褐色粘質土（黄色ブロック少含）
88 暗褐色粘質土（黄色粒微量含）
89 暗褐色粘質土
90 暗褐色粘質土（黄色粒少含）
0 1 2m

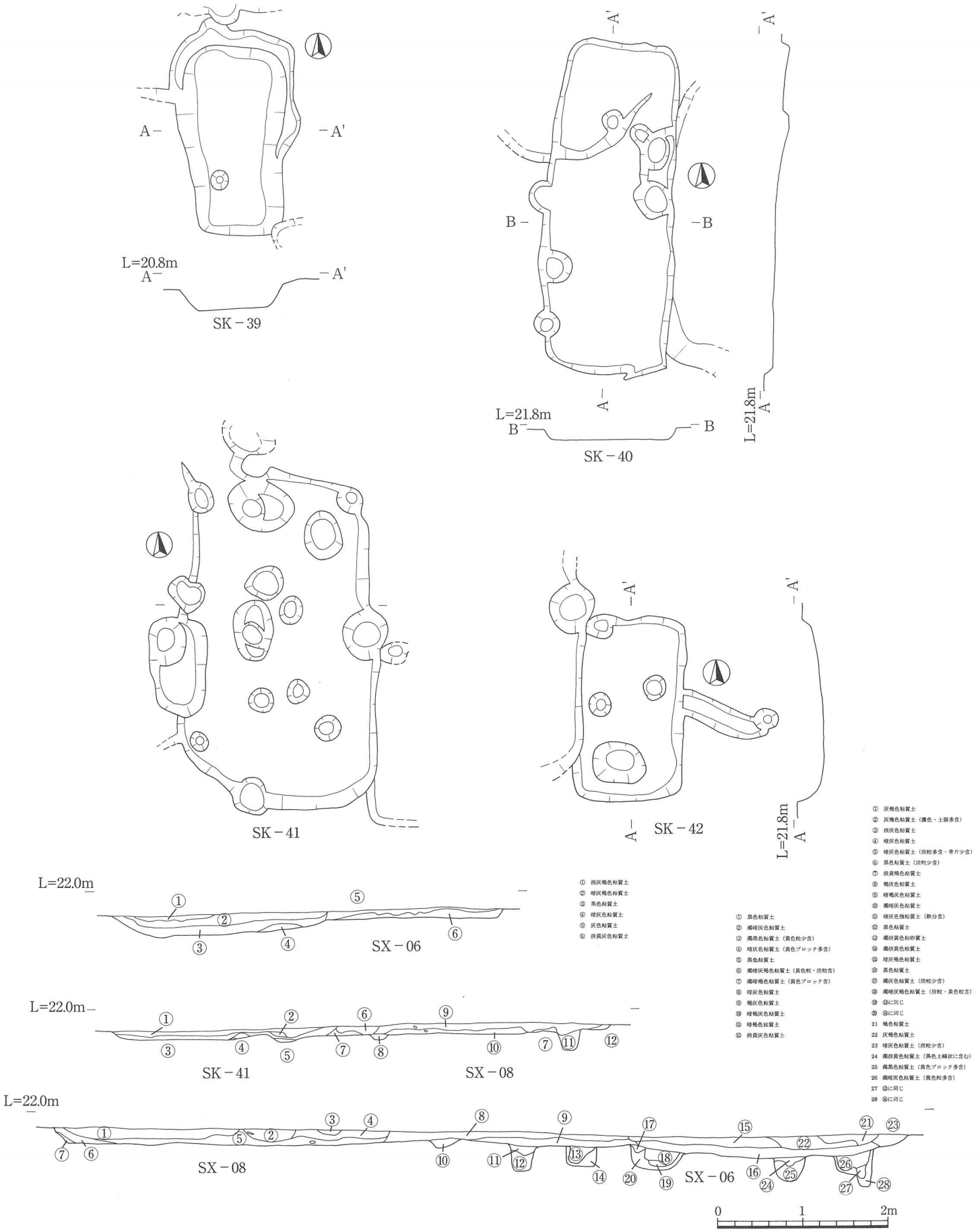
**第31図　土拡（S=1/60）**


SK－17
L=21.5m
SK－18
L=21.5m
SK－19
L=21.6m
SK－20
L=21.6m
SK－21
L=21.6m
SK－22
SK－23
L=21.5m
SK－24
L=21.6m
SK－25
L=21.6m
SK－25
L=21.6m
SK－26
L=21.6m
SK－27
L=21.5m
SK－28
L=21.6m
SK－29
L=21.6m
SK－30
L=21.7m
0
1
2m

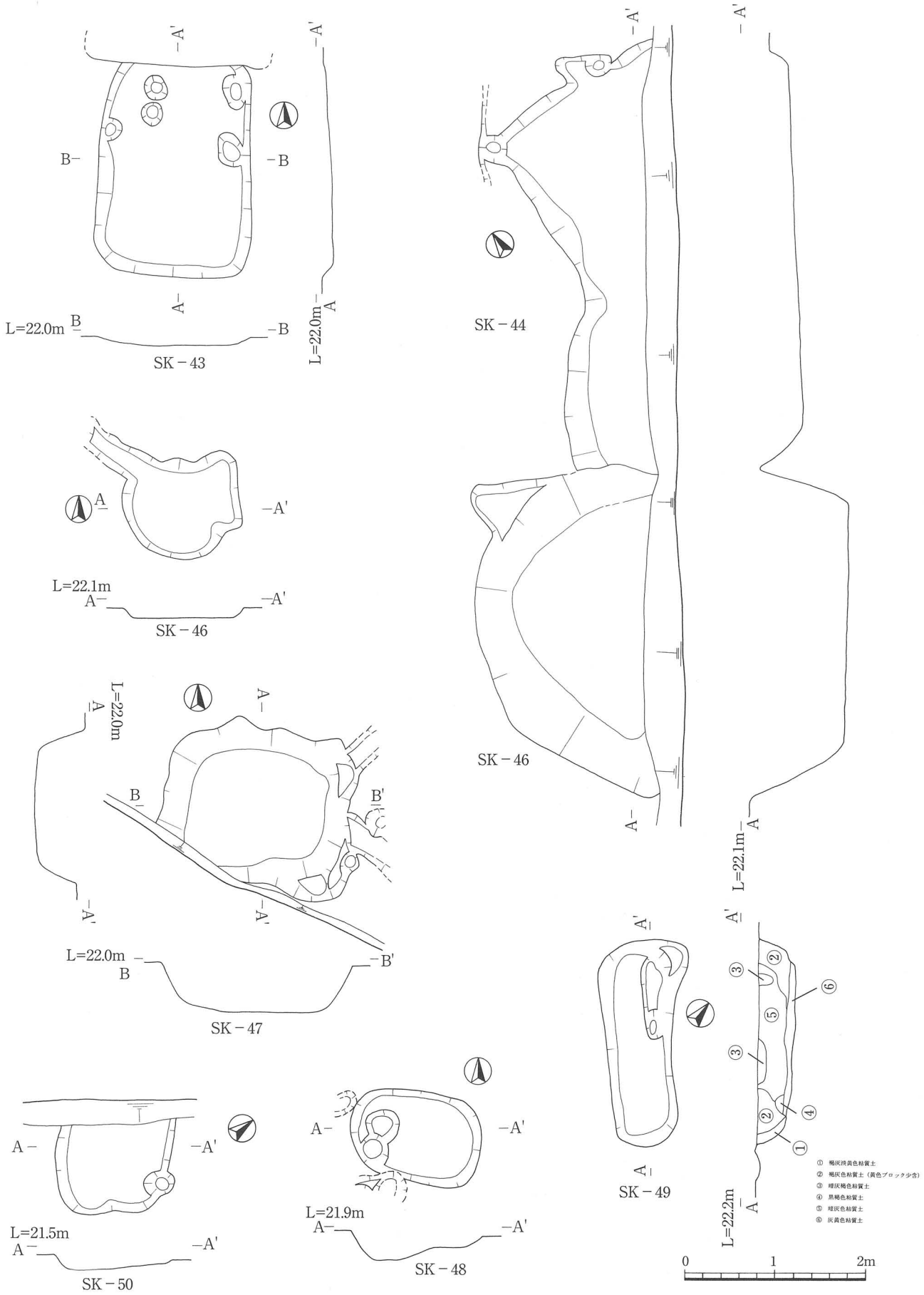
**第32図**　土拡(S=1/60)


SK－31
L=21.7m
SK－32
L=21.7m
SK－33
L=21.7m
SK－34
L=21.7m
SK－35
L=21.7m
SK－36
L=21.8m
SK－37
L=21.9m
SK－38
L=21.8m
0
2m

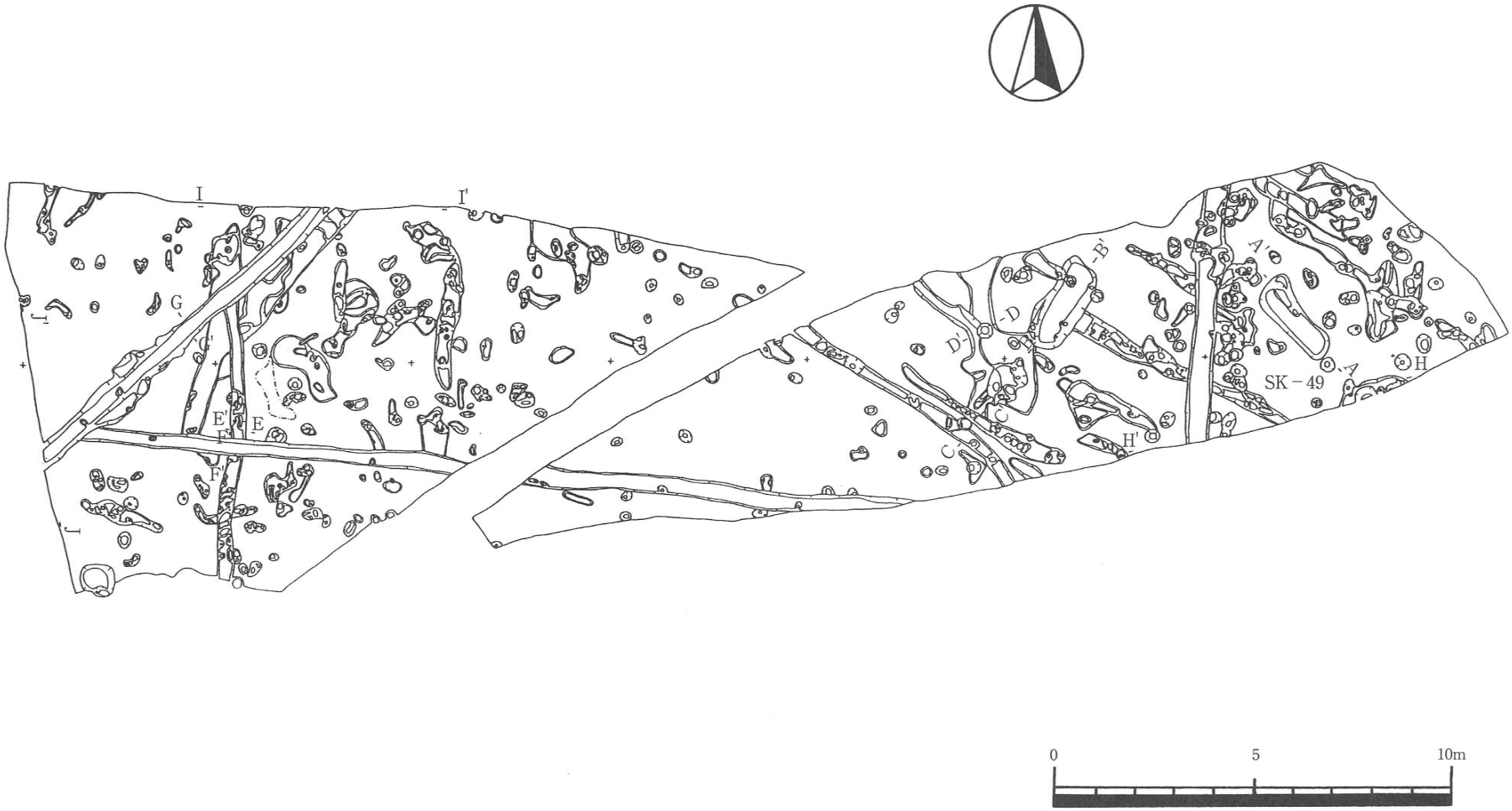
**第33図**　土拡(S=1/60)


A－
－A'
L=20.8m
SK－39
B－
－B
L=21.8m
SK－40
SK－41
SK－42
L=21.8m
L=22.0m
SX－06
① 淡灰褐色粘質土
② 暗灰褐色粘質土
③ 黒色粘質土
④ 暗灰色粘質土
⑤ 灰色粘質土
⑥ 淡黄灰色粘質土
① 黒色粘質土
② 褐暗灰色粘質土
③ 褐黒色粘質土（黄色粒少含）
④ 暗灰色粘質土（黄色ブロック多含）
⑤ 黒色粘質土
⑥ 褐暗灰褐色粘質土（黄色粒・炭粒含）
⑦ 褐暗褐色粘質土（黄色ブロック含）
⑧ 暗灰色粘質土
⑨ 褐灰色粘質土
⑩ 暗褐灰色粘質土
⑪ 暗褐色粘質土
⑫ 淡黄灰色粘質土
① 灰褐色粘質土
② 灰褐色粘質土（濃色・土器多含）
③ 淡灰色粘質土
④ 暗灰色粘質土
⑤ 暗灰色粘質土（炭粒多含・骨片少含）
⑥ 黒色粘質土（炭粒少含）
⑦ 淡黄褐色粘質土
⑧ 褐灰色粘質土
⑨ 暗褐灰色粘質土
⑩ 褐暗灰色粘質土
⑪ 暗灰色強粘質土（鉄分含）
⑫ 黒色粘質土
⑬ 褐淡黄色粘砂質土
⑭ 褐淡黄色粘質土
⑮ 暗灰褐色粘質土
⑯ 黒色粘質土
⑰ 褐灰色粘質土（炭粒少含）
⑱ 褐暗灰褐色粘質土（炭粒・黄色粒含）
⑲ ⑱に同じ
⑳ ⑱に同じ
21 褐色粘質土
22 灰褐色粘質土
23 暗灰色粘質土（炭粒少含）
24 褐淡黄色粘質土（黒色土縞状に含む）
25 褐黒色粘質土（黄色ブロック多含）
26 褐暗灰色粘質土（黄色粒多含）
27 ㉖に同じ
28 ㉖に同じ
L=22.0m
SK－41
SX－08
L=22.0m
SX－08
SX－06
0
1
2m

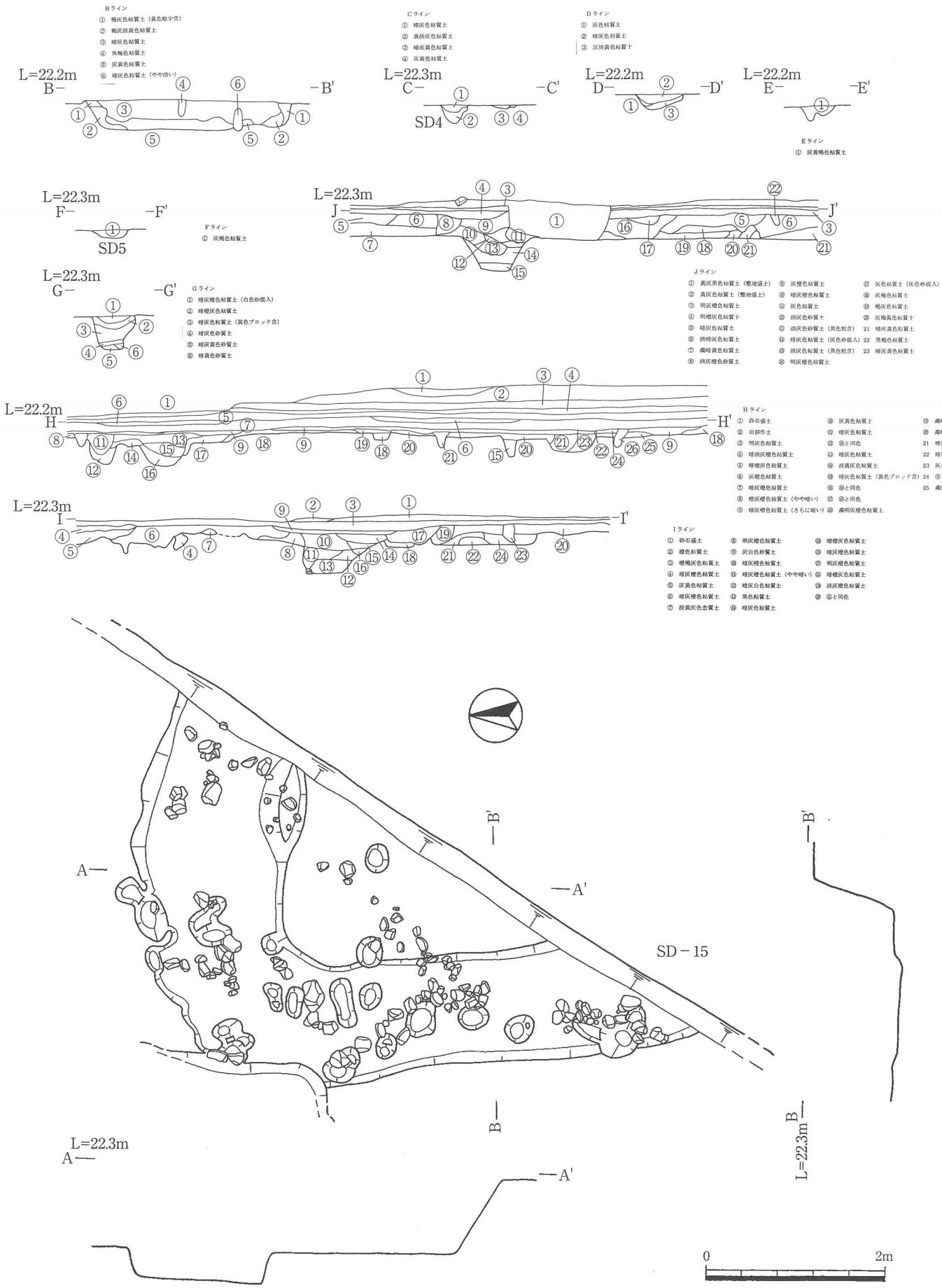
**第34図**　土拡(S=1/60)


SK－43
L=22.0m
SK－44
SK－46
L=22.1m
SK－47
L=22.0m
SK－48
L=21.9m
SK－49
L=22.2m
SK－50
L=21.5m
① 褐灰色黄色粘質土
② 褐灰色粘質土（黄色ブロック少含）
③ 暗灰褐色粘質土
④ 黒褐色粘質土
⑤ 暗灰色粘質土
⑥ 灰黄色粘質土
0
1
2m

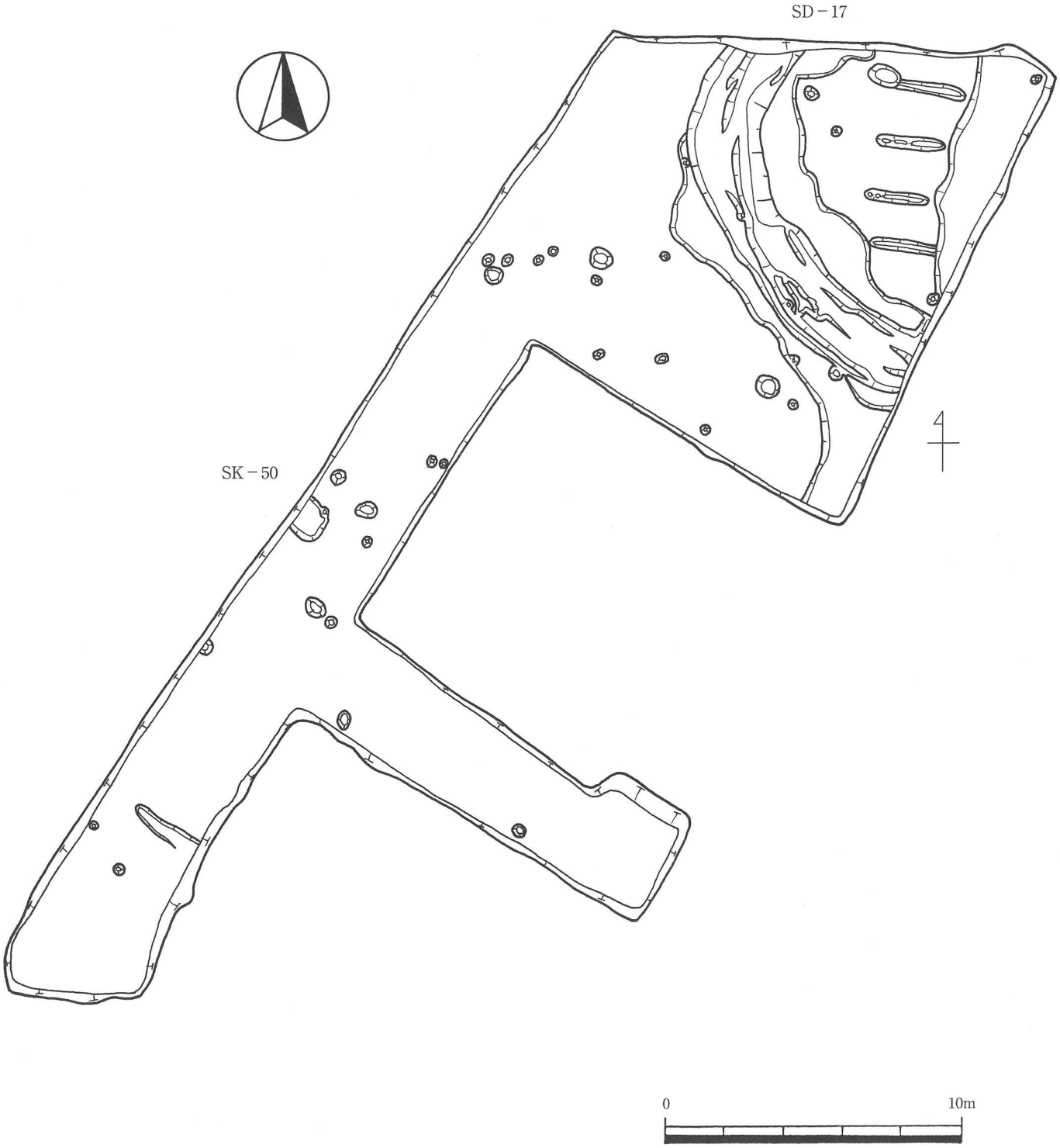
**第35図**　土拡(S=1/60)



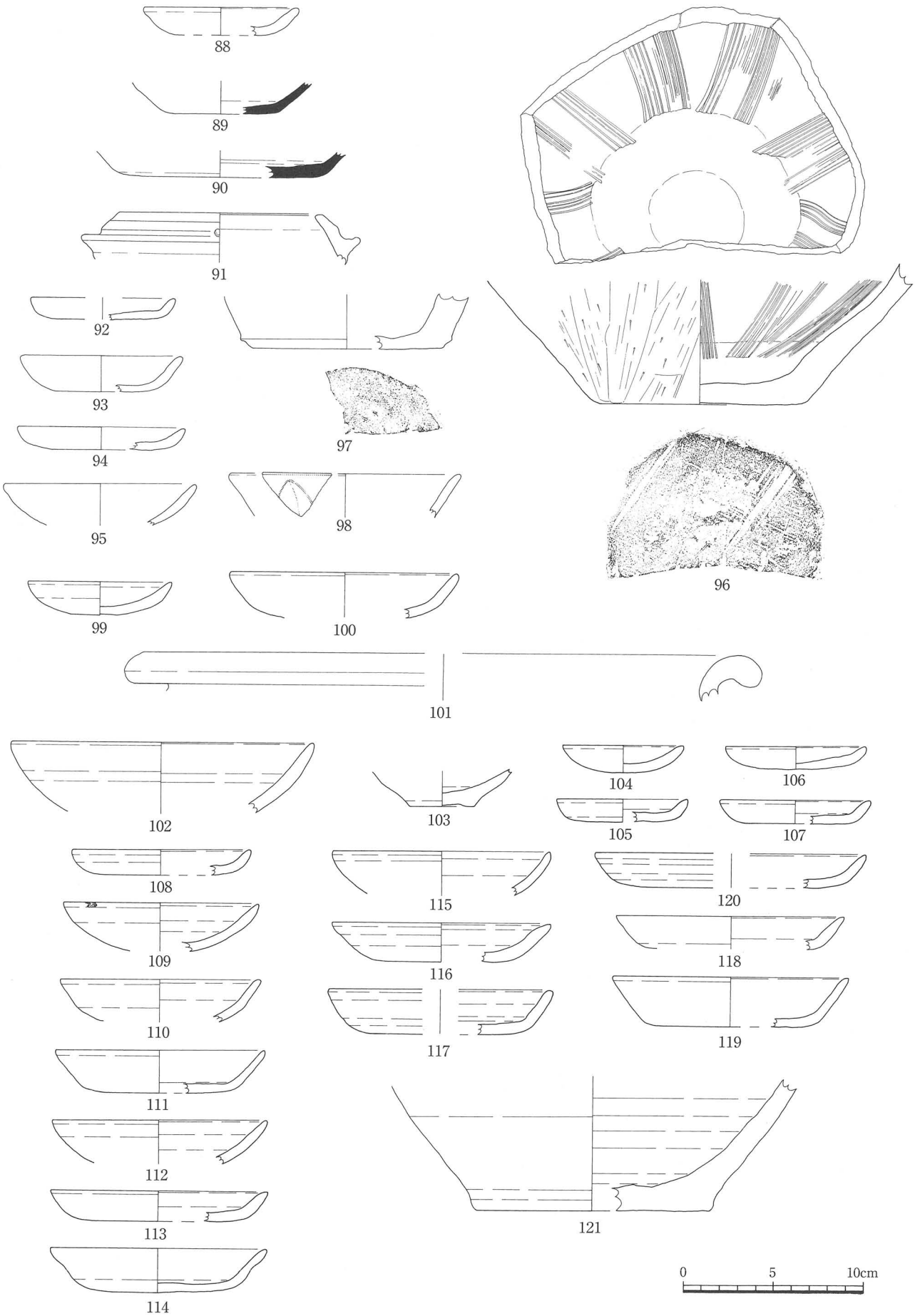

**第36図**　6区遺構全体図(S=1/160)



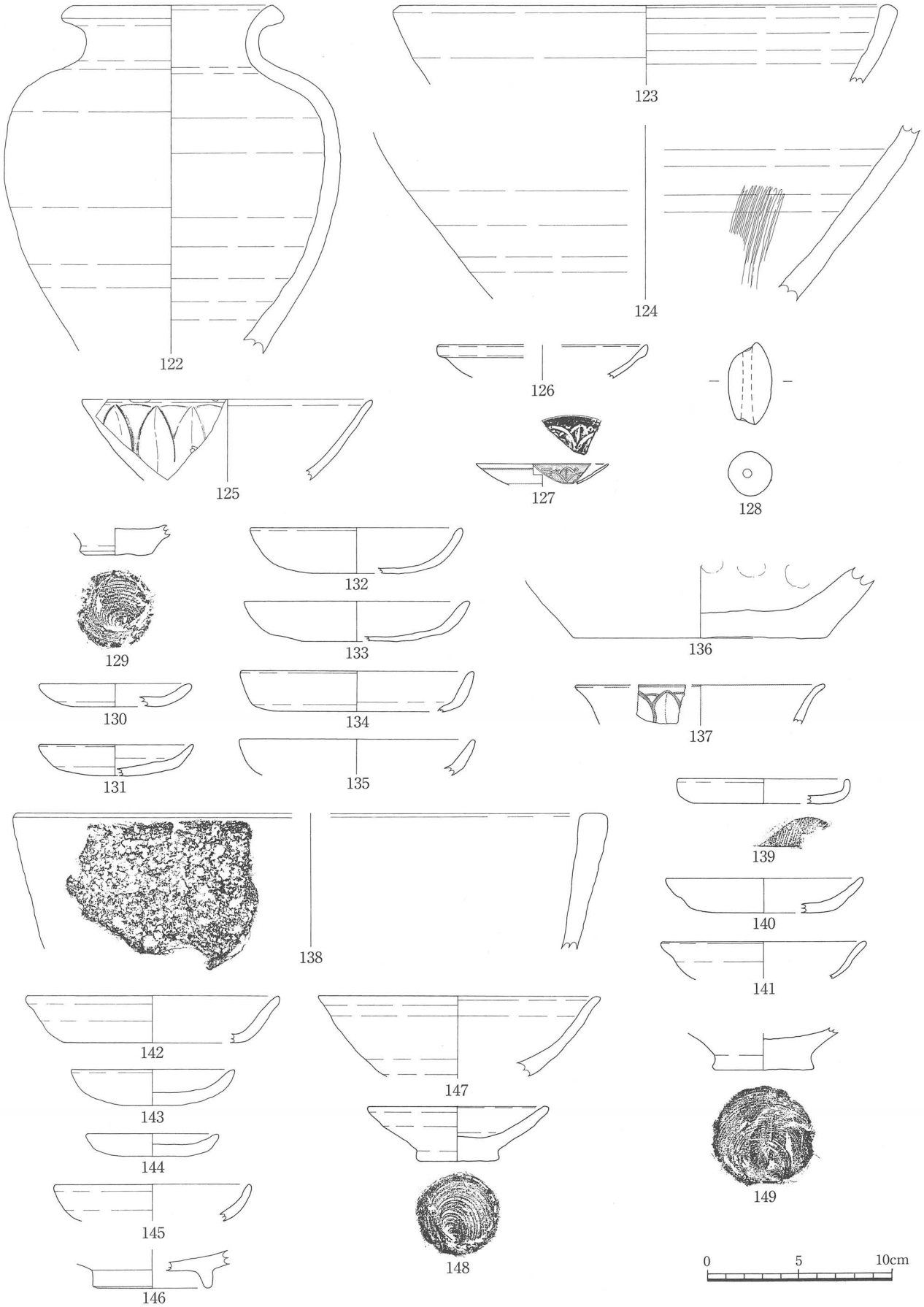

**第37図**　7区土層図　SD－15(S=1/60)



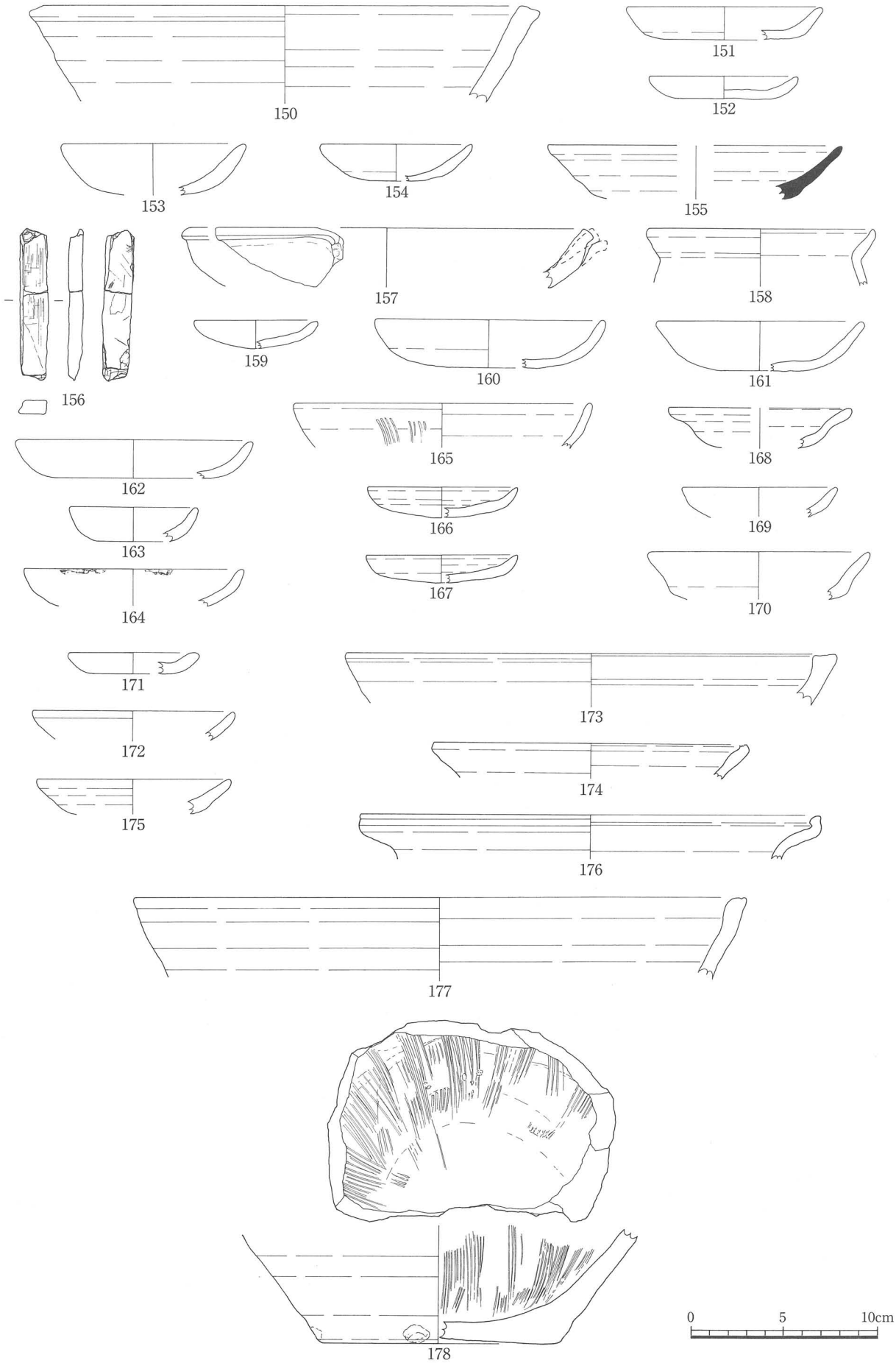

**第38図**　7区遺構全体図(S=1/200)



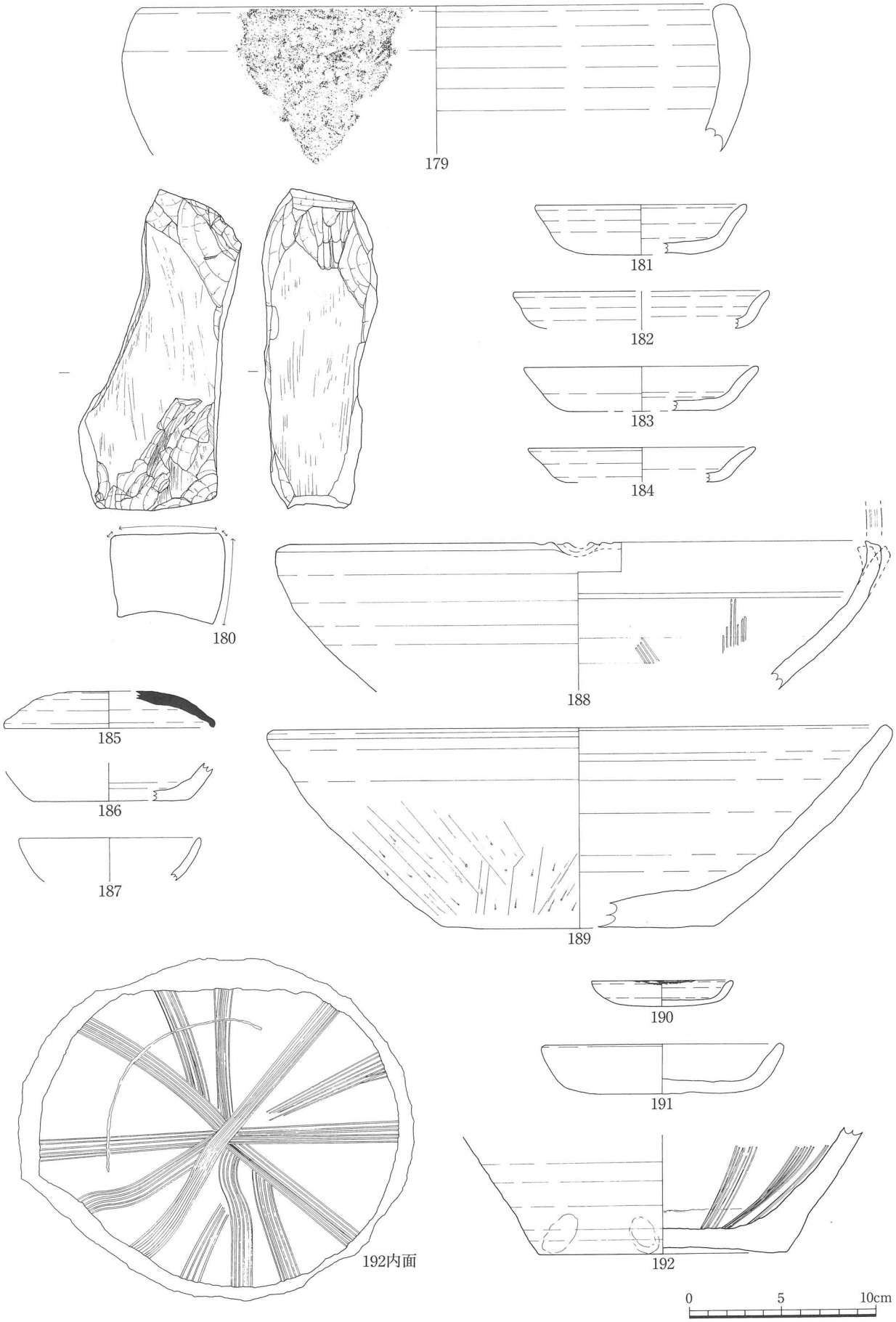

**第39図**　中世遺物(S=1/3)　88(SI－04),89～88(SI－05),99～101(SI－11),102～121(SI－12)



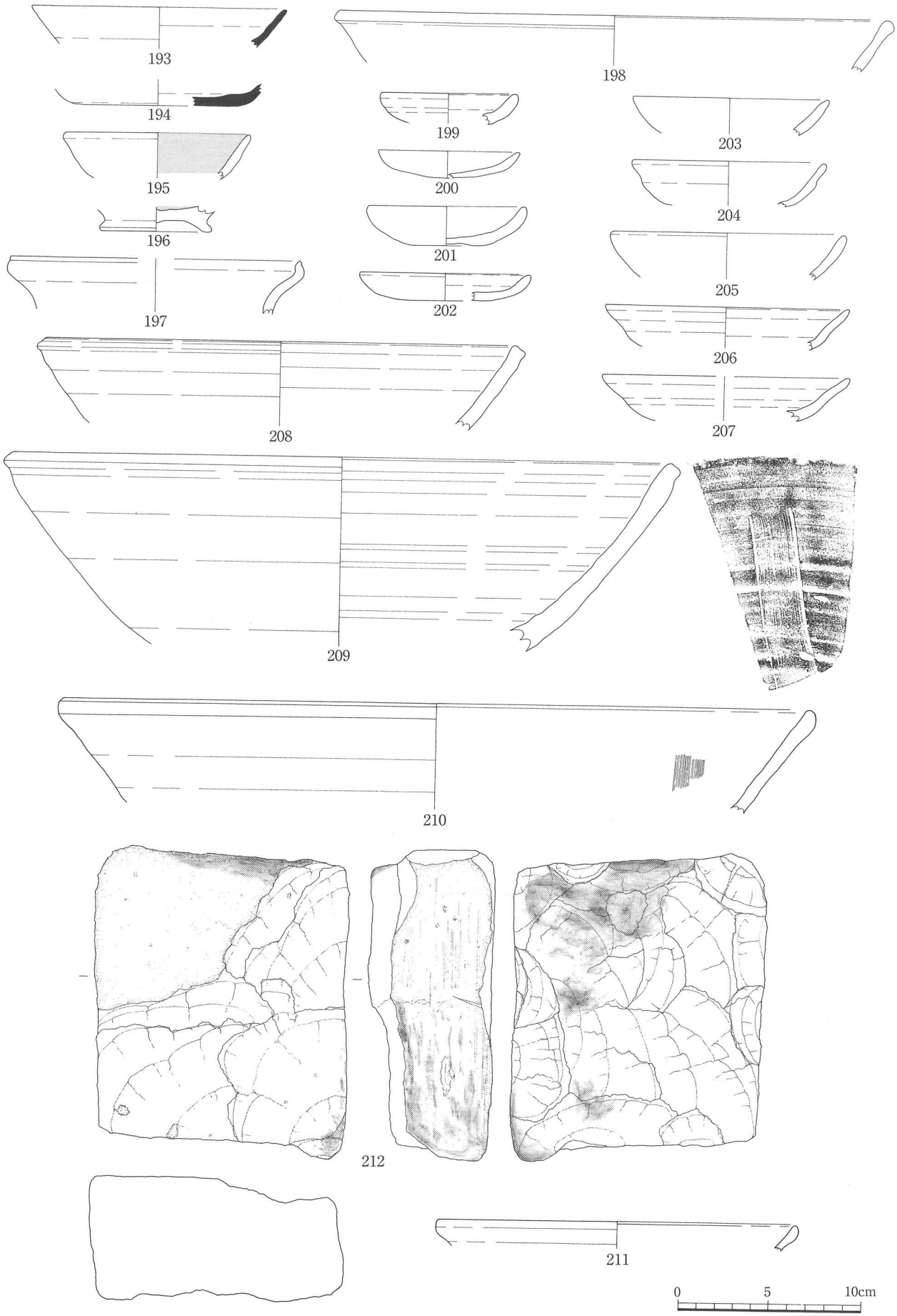

**第40図**　中世遺物(S=1/3)　122～128(SI－12),129～138(SI－13),139～141(SI－14),142・143(SB－09),144～146(SB－24)



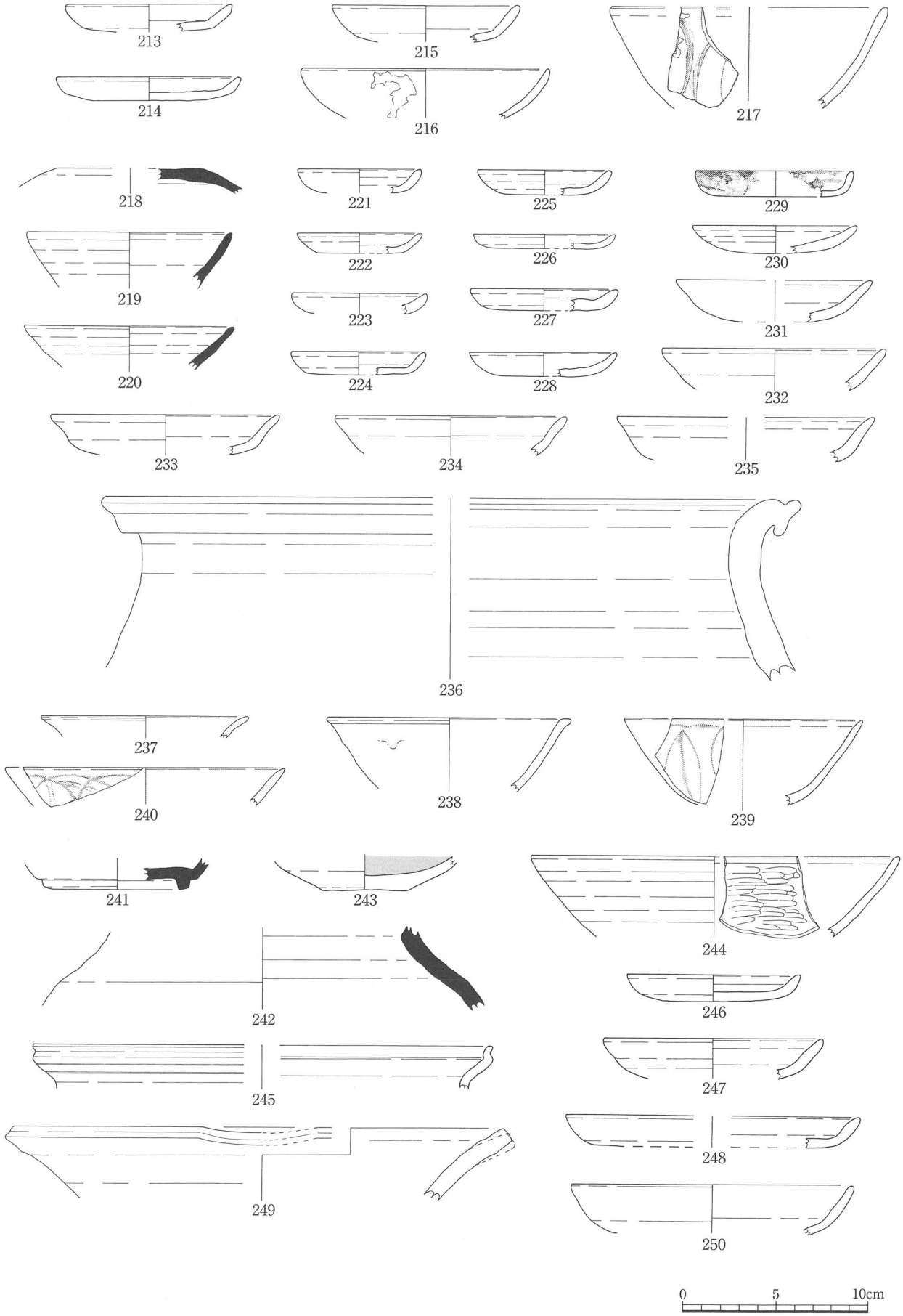

**第41図**　中世遺物(S=1/3)　150(SB－32),171(SK－16),172～174(SK－18),175・176(SK－21),177・178(SK－23)



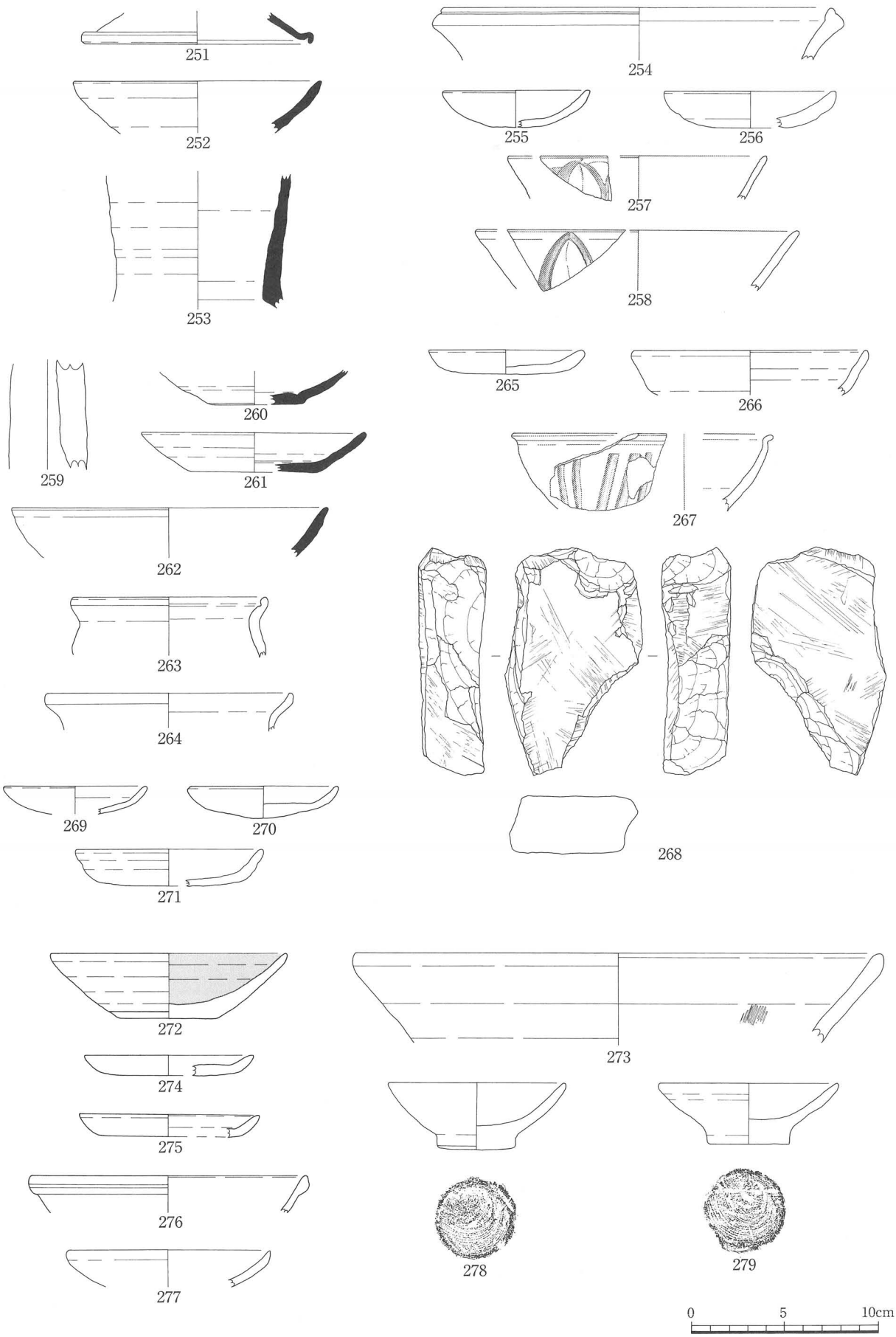

**第42図**　中世遺物(S=1/3)　179(SK－23),180(SK－24),181・182(SK－31),193(SK－34),185～189(SK－36),190～192(SK－37)



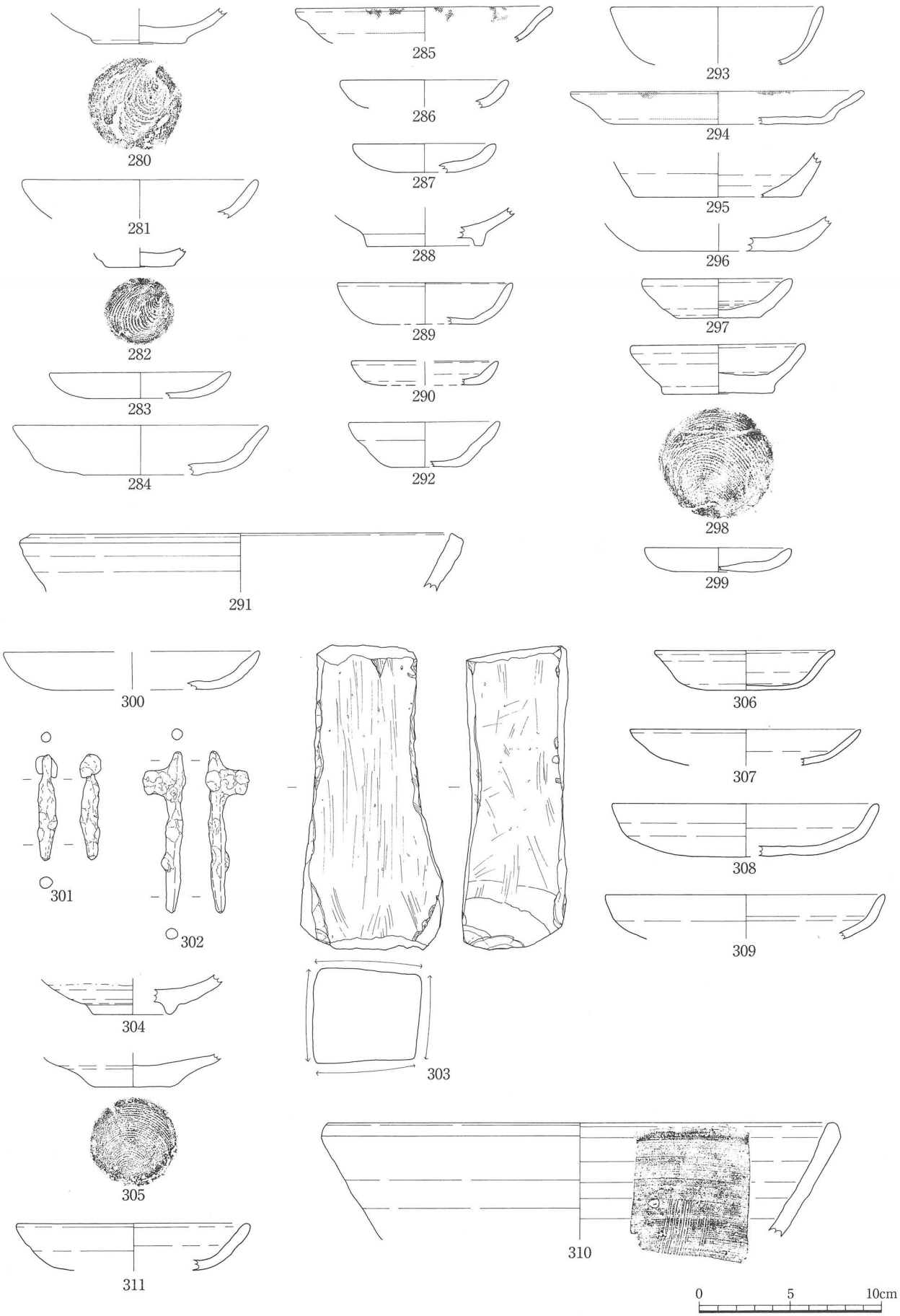

**第43図**　中世遺物(S＝1/3)　193～212(SK－38)



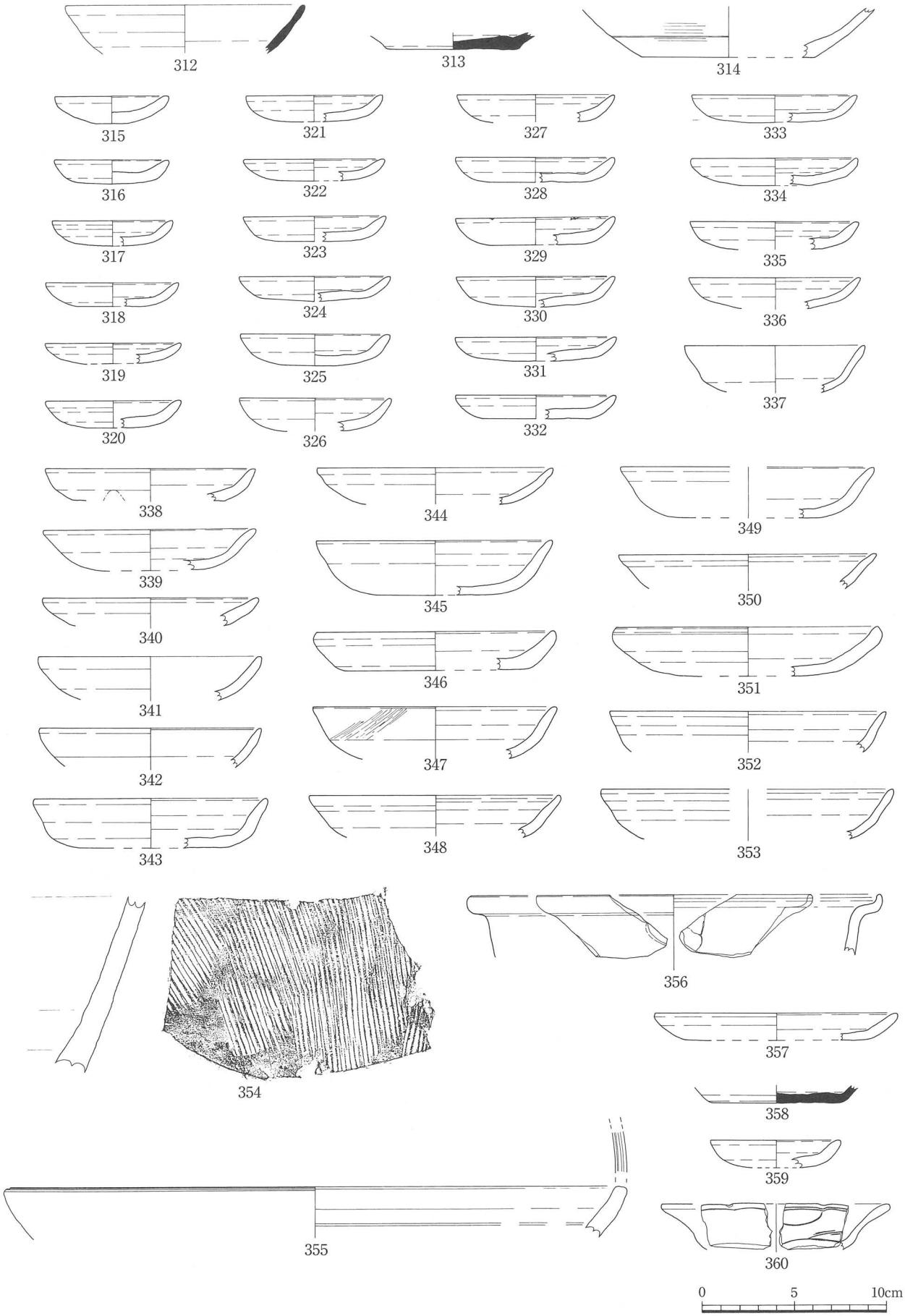

**第44図**　中世遺物(S=1/3)　213～217(SK－39),218～240(SK－40),241～249(SK－41),250(SK－43)



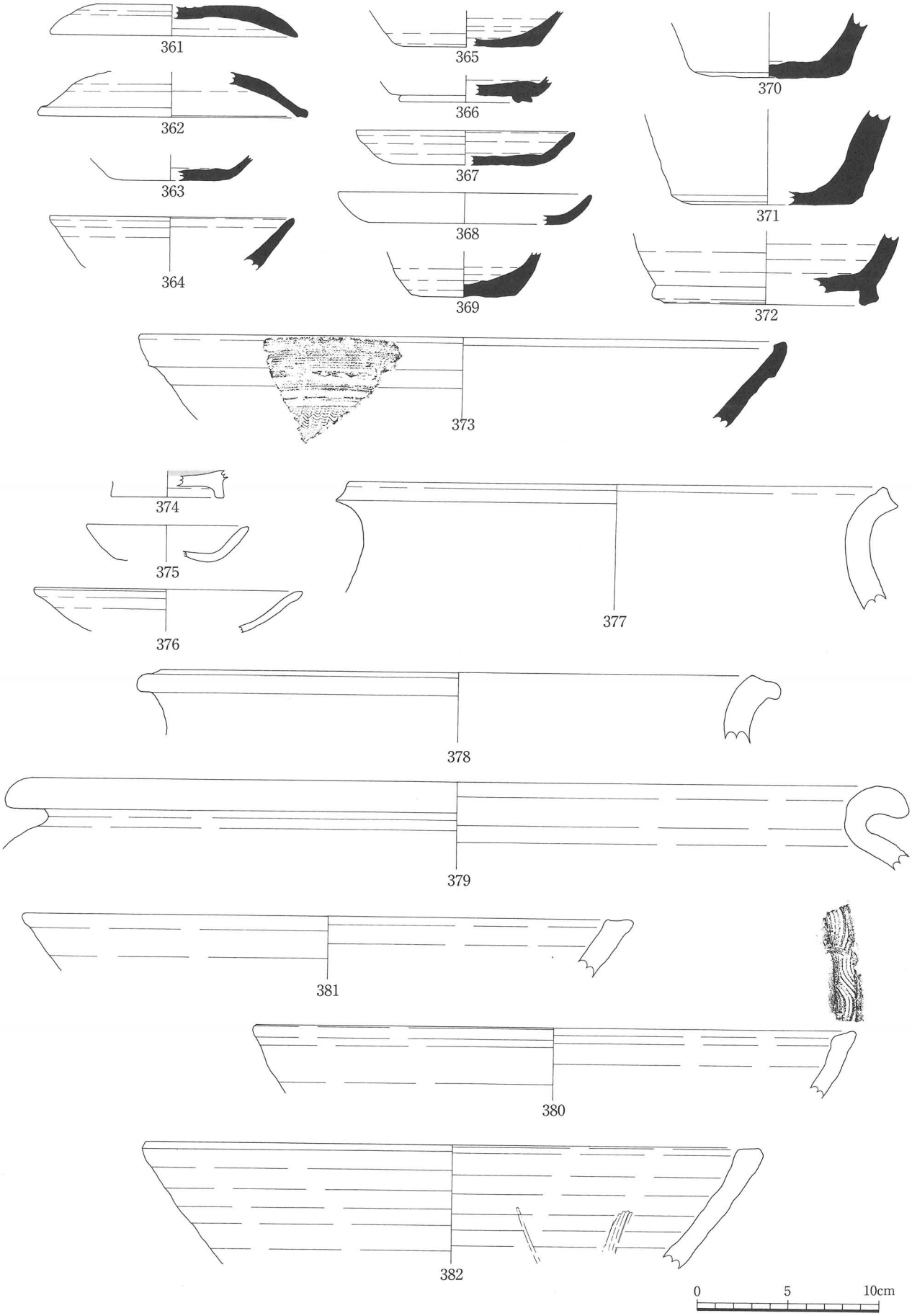

**第45図**　中世遺物(S=1/3)　251～258(SK－44),259～268(SK－45),269～291(SK－48),272・273(SP－08),274(SP－12),275(SP－13),276(SP－14),277(SP－15),278・279(SP－23)



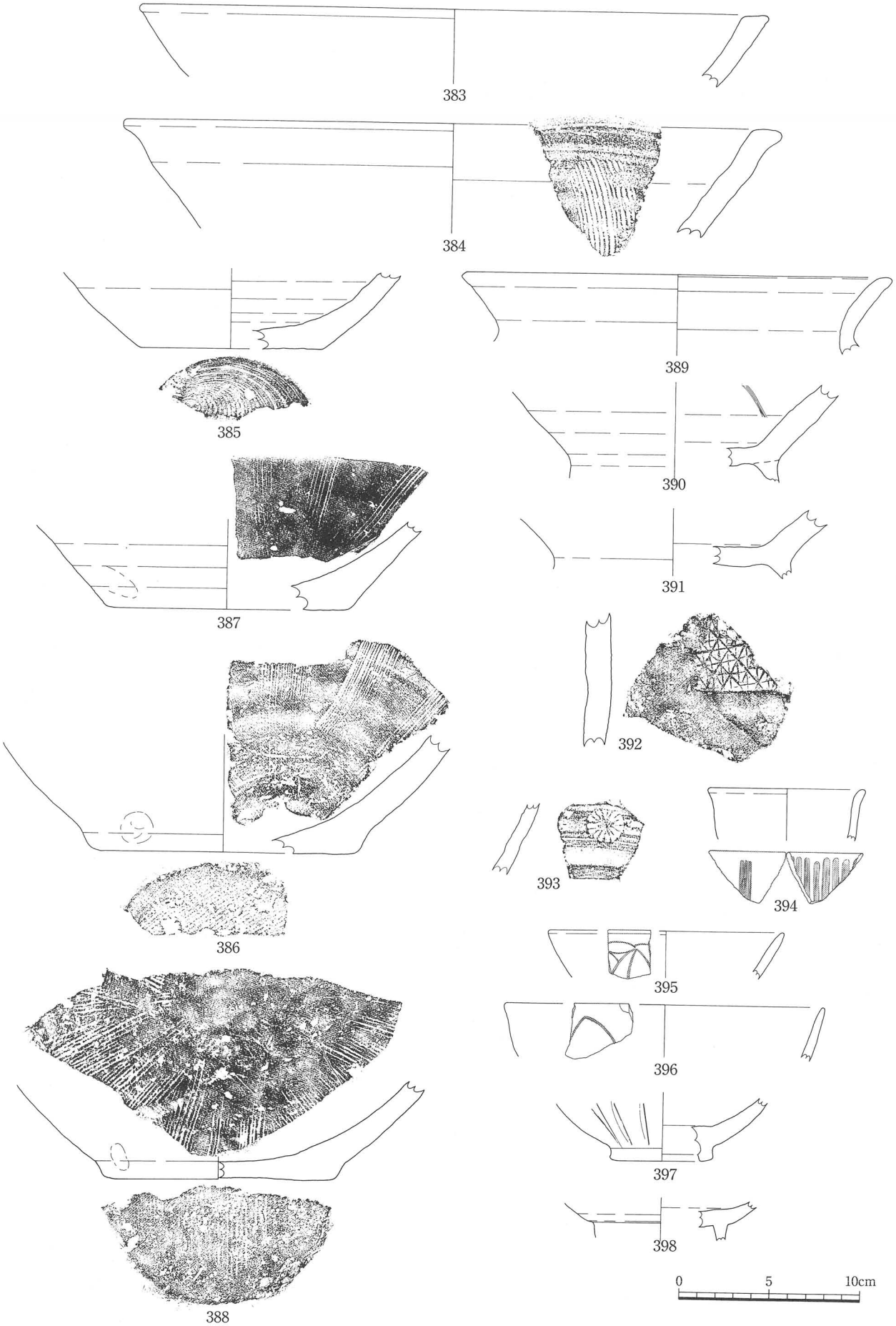

**第46図**　中世遺物(S=1/3)　280(SP－27),281(SP－29),282(SP－31),283・284(SP－32),285(SP－34),286(SP－35),287(SP－36),288(SP－39),289(SP－38),290(SP－39),291(SP－40),292(SP－41),293(SP－42),294(SP－43),295(SP－44),296(SP－45),297(SP－46),298 (SP－49),299(SP－48),300(SX－01),301・302(SX－02),303(SX－04),304・305(SX－05),306～310(SX－06),311(SX－07)



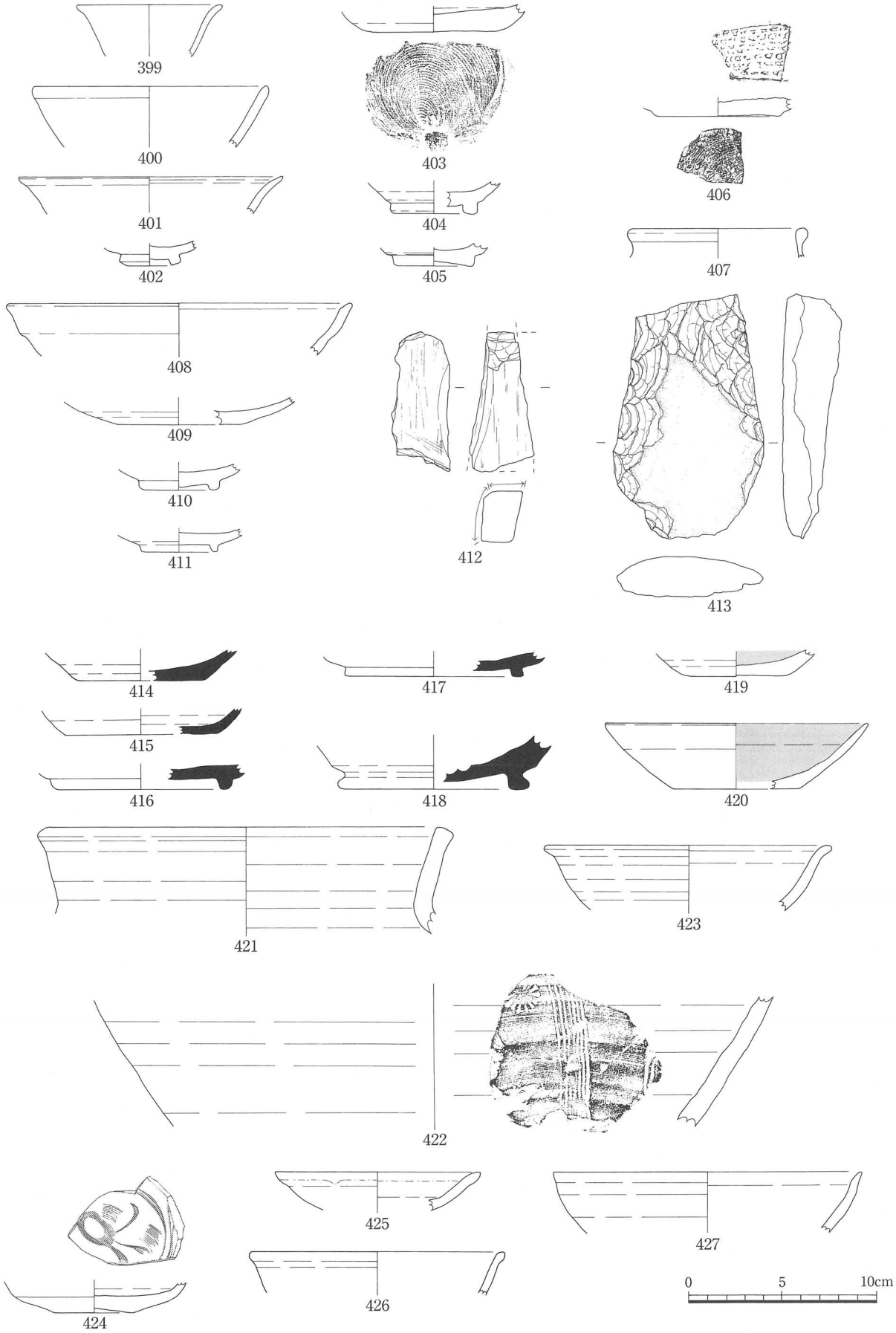

**第47図**　中世遺物(S=1/3)　312～356(SX－08),357(SX－09),358～360(SX－10)



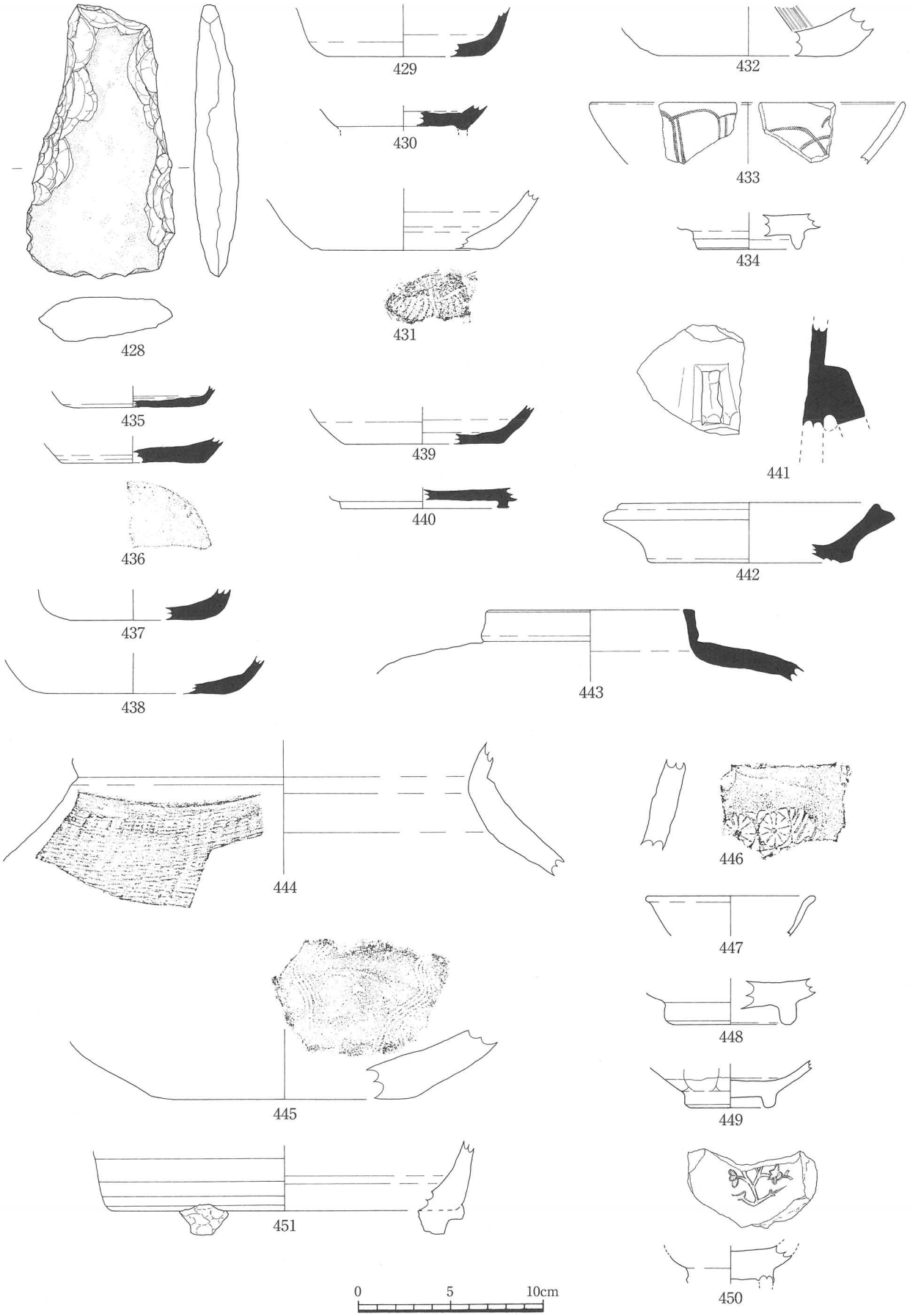

**第48図**　中世遺物(S=1/3)　361～382(SD－01・1区)



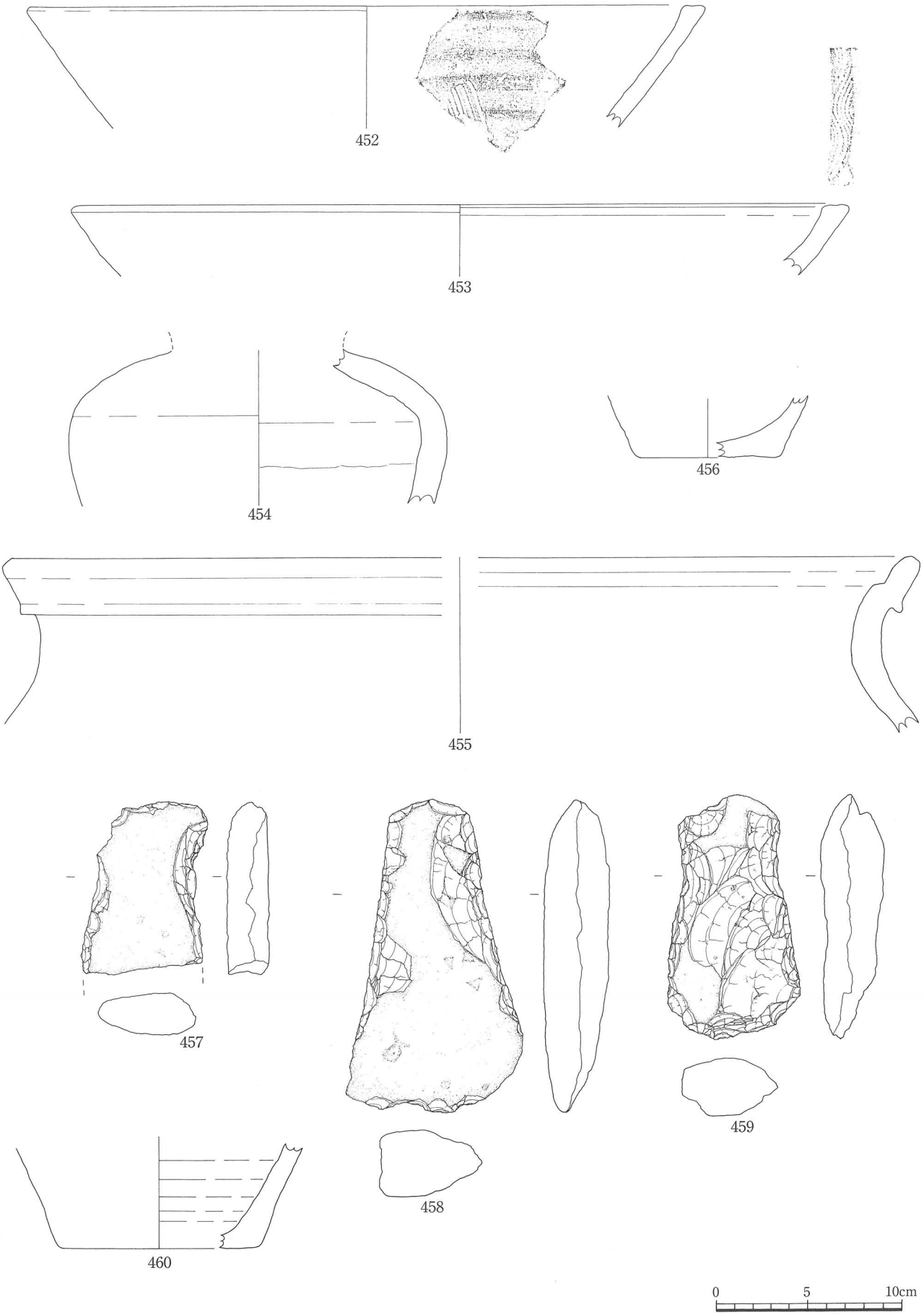

**第49図**　中世遺物(S=1/3)　383～398(SD－01・1区)



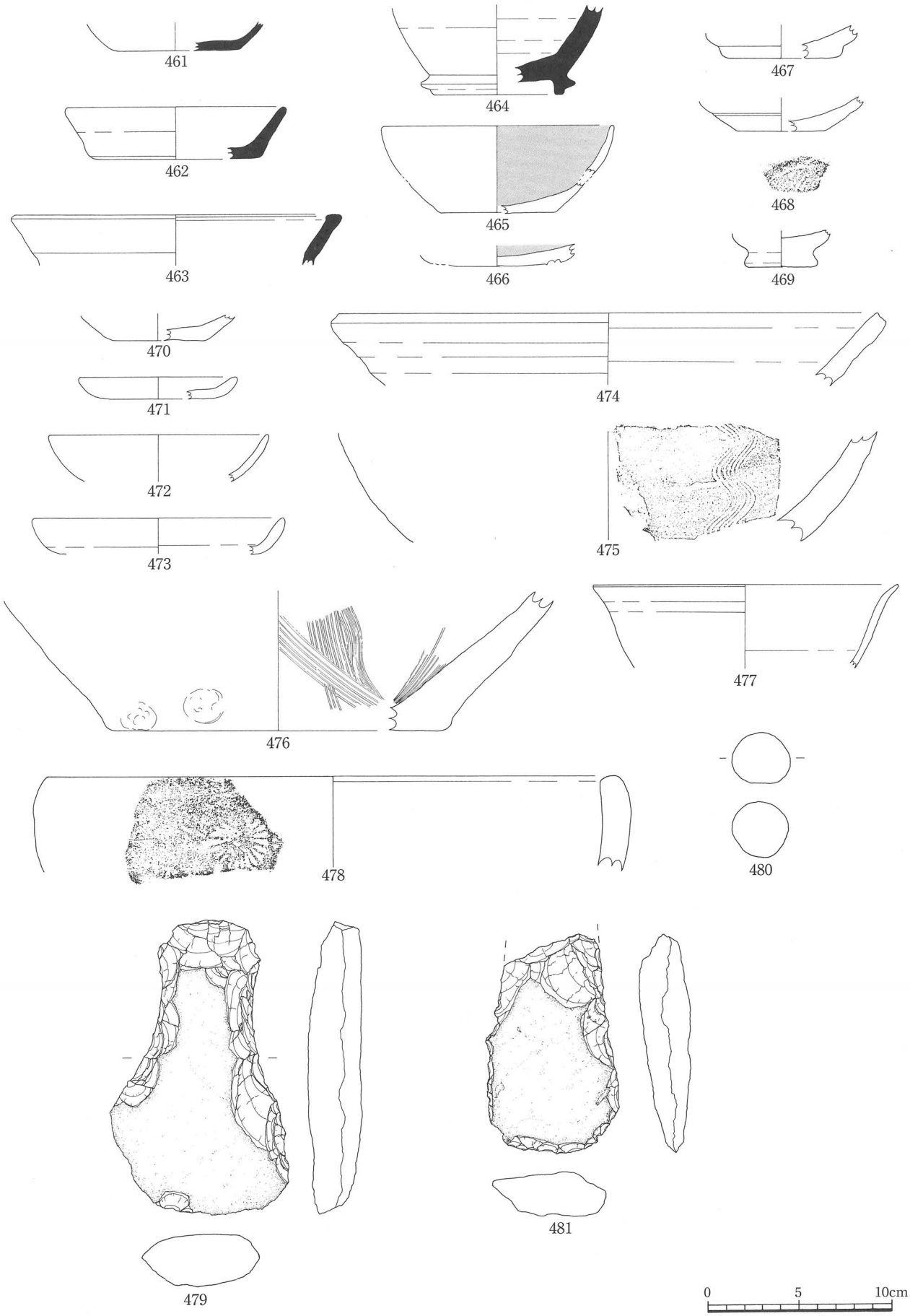

**第50図**　中世遺物(S=1/3)　399～412(SD－01・1区),414～427(SD－01・3区)



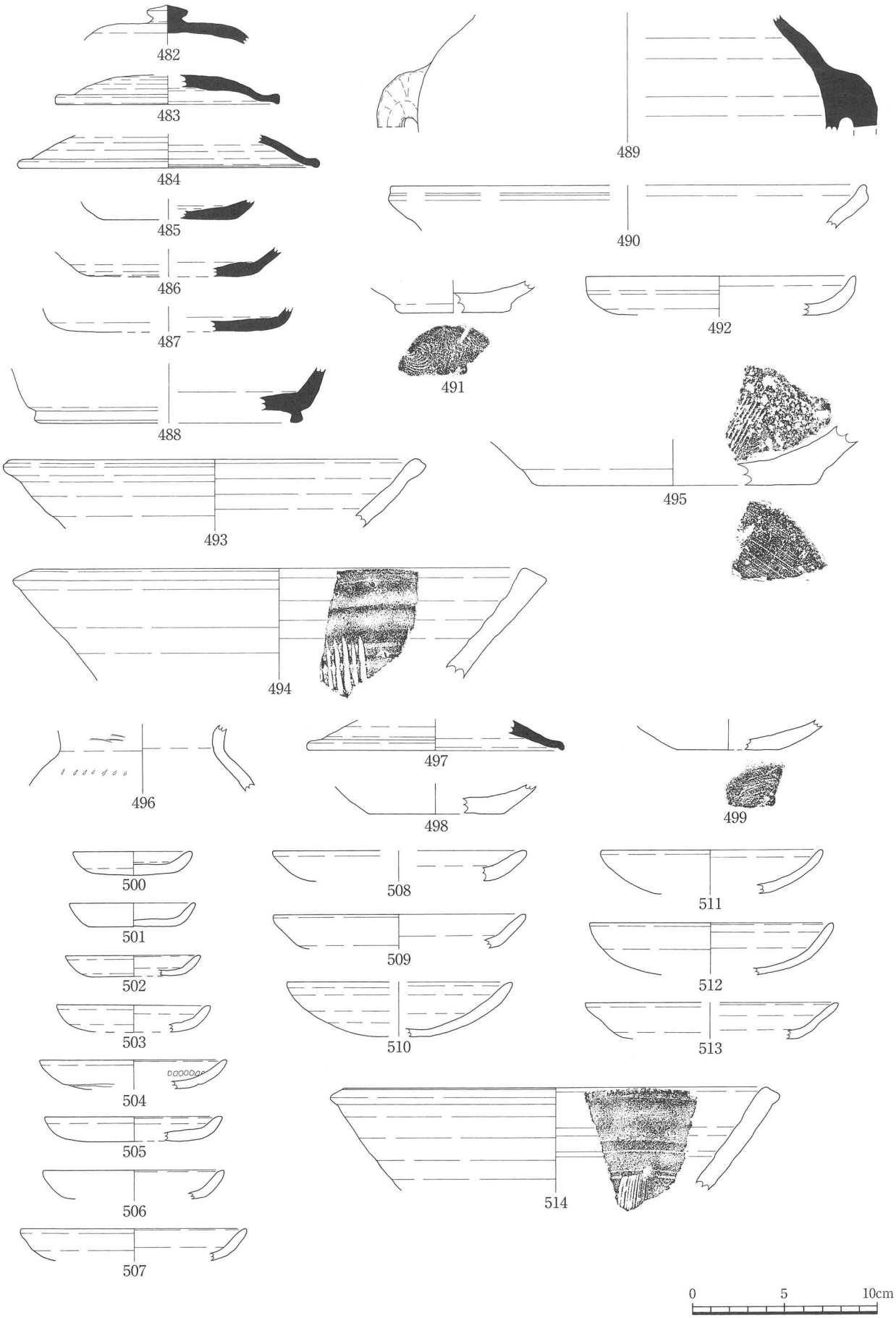

**第51図**　中世遺物（S＝1/3）　428（SD－01・1区），429～434（SD－09・1区），435～451（SD－09・3区）



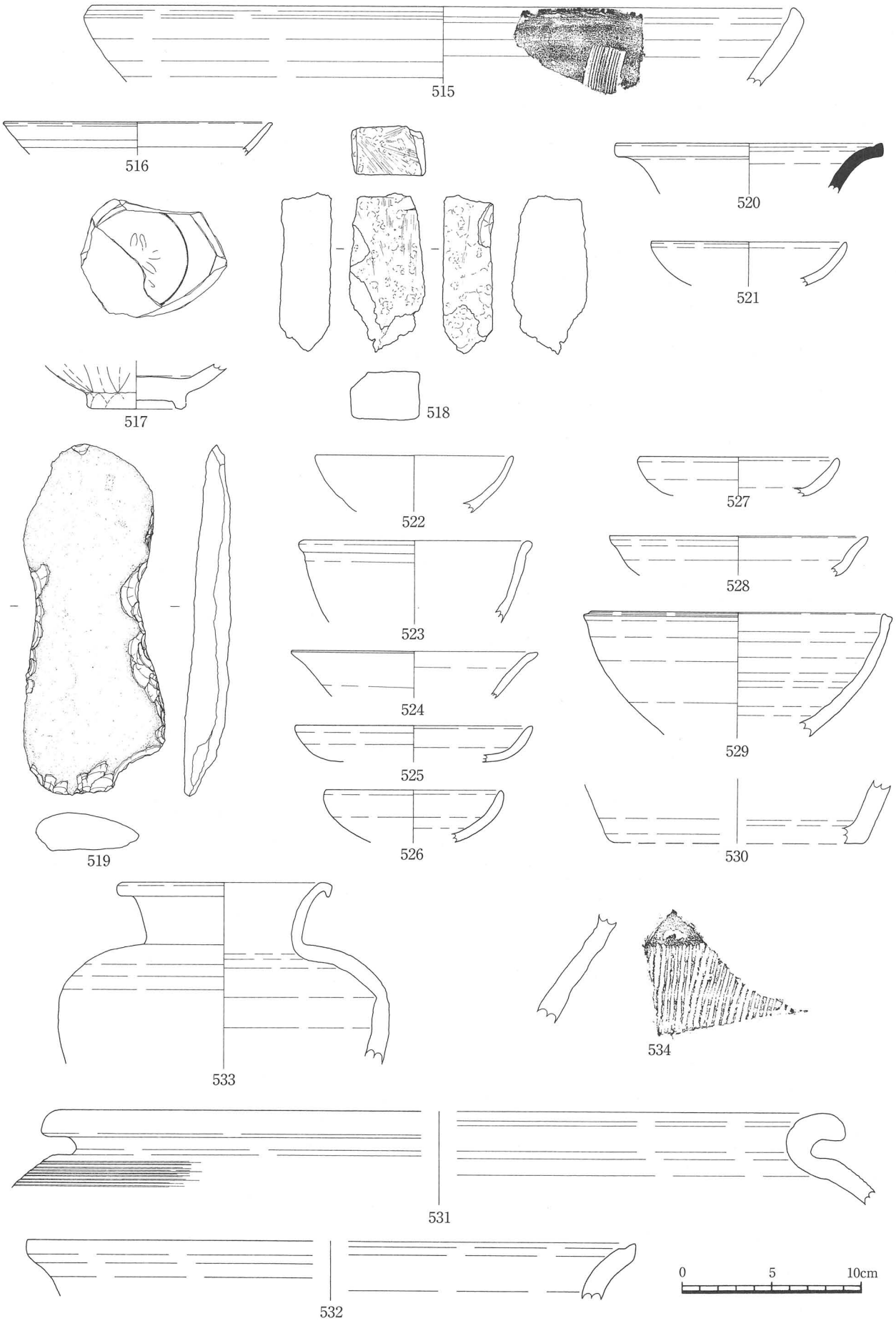

**第52図**　中世遺物(S=1/3)　452～459(SD－09・3区),460(SD－09・4区)




**第53図**　中世遺物(S=1/3)　461～480(SD－11・3区),481(SD－11・5区)




**第54図**　中世遺物（S=1/3）　482～495（SD－11・5区），496～514（SD－11・5区），496～514（SD・15）




**第55図**　中世遺物(S=1/3)　515～518(SD－15),519～521(SD－16),522～524(2区包含層),525～534(5区包含層)

## 遺物観察表（古代～中世　第11～13、39～55図）

| 番号 | 遺構 | 種類 | 器種 | 法量 | 色調 | 遺存 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | SI-01 | 須恵器 | 瓶類 | 口径：94 | オリーブ灰色 | 小片 | 内面自然釉 |
| 29 | SI-01 | 土師器 | 有台碗 | 底径：74 | 橙褐色 | 1/4 | 長石粒 |
| 30 | SI-01 | 鉄製品 | 環状鉄製品 | 長径：31<br>厚さ：15 | | 完 | 14g |
| 31 | SI-02 | 土師器 | 碗 | 口径：110 | 浅黄橙色 | 1/6 | |
| 32 | SI-02 | 土師器 | 碗 | 口径：132<br>底径：60 | 浅黄橙色 | 1/3 | 内黒 |
| 33 | SI-06 | 土師器 | 碗 | 底径：55 | 浅黄橙色 | 3/5 | 内黒 |
| 34 | SI-06 | 土師器 | 皿 | 底径：60 | 橙褐色 | 1/3 | 海骨・石英 |
| 35 | SI-06 | 土師器 | 皿 | 口径：(157)<br>底径：(110) | 浅黄橙色 | 小片 | |
| 36 | SI-08 | 須恵器 | 蓋 | 口径：163<br>器高：28 | 浅黄色 | 1/3 | 焼成不良 |
| 37 | SI-08 | 須恵器 | 有台坏 | 口径：112<br>底径：76 | 灰色 | 1/3 | |
| 38 | SI-08 | 須恵器 | 坏 | 口径：122<br>底径：90 | 灰白色 | 小片 | |
| 39 | SI-08 | 土師器 | 甕 | 口径：242 | 橙色 | 小片 | |
| 40 | SI-08 | 土師器 | 塝 | 口径：396 | 黄橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 41 | SI-08 | 鉄製品 | 刀子状<br>鉄製品 | 長さ：134<br>幅　：26<br>厚さ：7 | | 完 | 44g |
| 42 | SI-08 | 鉄製品 | 釘状<br>鉄製品 | 長さ：98<br>幅　：9<br>厚さ：4 | | 完 | 21g |
| 43 | SI-08 | 鉄製品 | 釘状<br>鉄製品 | 長さ：61<br>幅　：10<br>厚さ：7 | | 完 | 15g |
| 44 | SB-01 | 土師器 | 碗 | 底径：62 | 浅黄色 | 1/3 | P-1・内黒 |
| 45 | SB-01 | 土師器 | 碗 | 底径：54 | 浅黄橙色 | 1/4 | P-2 |
| 46 | SB-01 | 須恵器 | 蓋 | 口径：164 | 灰色 | 小片 | P-3・端部重焼痕 |
| 47 | SB-01 | 土師器 | 碗 | 底径：58 | 灰橙褐色 | 1/3 | P-3・石英 |
| 48 | SB-01 | 土師器 | 塝 | 口径：422 | 黄橙褐色 | 小片 | P-3 |
| 49 | SB-01 | 土師器 | 碗 | 底径：54 | 浅黄橙色 | 1/4 | P-4・内黒 |
| 50 | SB-01 | 土師器 | 碗 | 口径：134 | 黄橙褐色 | 小片 | P-4・内黒 |
| 51 | SB-03 | 土師器 | 底部 | 底径：61 | 黄橙褐色 | 1/4 | P-1・磨耗激しい |
| 52 | SB-03 | 土師器 | 碗 | 口径：132 | 黄橙褐色 | 小片 | P-2・磨耗 |
| 53 | SB-03 | 須恵器 | 蓋 | 口径：146 | 灰色 | 1/4 | P-3・降灰 |
| 54 | SB-03 | 土師器 | 碗 | 口径：108 | 黄褐色 | 小片 | P-4・内黒 |
| 55 | SA-01 | 土師器 | 碗 | 底径：60 | 黄橙褐色 | 1/6 | P-1・内黒 |
| 56 | SA-01 | 土師器 | 碗 | 口径：126<br>底径：50 | 黄橙褐色 | 1/3 | P-1・内黒 |
| 57 | SA-01 | 土師器 | 碗 | 口径：122 | 橙褐色 | 小片 | P-1・内黒 |
| 58 | SA-01 | 土師器 | 碗 | 口径：122 | 黄橙褐色 | 小片 | P-1・内黒 |
| 59 | SK-01 | 須恵器 | 甕 | | 黄褐色 | | 焼成不良 |
| 60 | SK-49 | 須恵器 | 瓶類 | 口径：126 | 灰色 | 小片 | 内面自然釉 |
| 61 | SK-49 | 土師器 | 碗 | 底径：74 | 浅黄橙色 | 小片 | 内黒 |
| 62 | SP-03 | 土師器 | 碗 | 口径：106 | 浅黄橙色 | 小片 | 内黒 |
| 63 | SP-04 | 土師器 | 碗 | 底径：58 | 黄褐色 | 1/4 | 内黒 |
| 64 | SP-05 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：100 | 灰色 | 1/4 | |
| 65 | SP-05 | 須恵器 | 甕 | | 灰白色 | | |
| 66 | SP-06 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：64 | 灰黄色 | 1/2 | 石英 |
| 67 | SP-07 | 土師器 | 底部 | 底径：64 | 橙褐色 | 1/3 | 石英 |
| 68 | SP-09 | 土師器 | 碗 | 底径：68 | 橙褐色 | 1/6 | 内黒 |
| 69 | SP-10 | 土師器 | 碗 | 底径：75 | 黄橙褐色 | 1/6 | 内黒 |
| 70 | SP-10 | 土師器 | 甕 | 口径：200 | 橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 71 | SP-11 | 須恵器 | 盤 | 口径：145<br>底径：110 | 灰色 | 小片 | |
| 72 | SP-16 | 土師器 | 塝 | 口径：348 | 黄橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 73 | SP-17 | 須恵器 | 底部 | 底径：104 | 暗灰色 | 1/6 | 降灰 |
| 74 | SP-22 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：66 | 暗灰色 | 1/6 | 重焼痕 |
| 75 | SP-24 | 須恵器 | 坏 | 底径：84 | 灰黄色 | 小片 | |
| 76 | SP-26 | 土師器 | 碗 | 口径：150<br>底径：68 | 黄褐色 | 1/2 | 内外赤彩 |
| 77 | SP-28 | 須恵器 | 坏 | 底径：70 | 灰色 | 1/6 | |
| 78 | SP-33 | 須恵器 | 坏 | 口径：134 | 灰色 | 小片 | |
| 79 | SX-03 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：98 | 黄灰色 | 1/6 | 重焼痕 |
| 80 | SD-04 | 土師器 | 塝 | 口径：342 | 橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 81 | SD-08 | 土師器 | 碗 | 口径：114<br>底径：52 | 灰白色 | 1/3 | 内黒・石英 |
| 82 | 包含層 | 須恵器 | 蓋 | 口径：190 | 灰色 | 小片 | 4区 |
| 83 | 包含層 | 須恵器 | 蓋 | 口径：110 | 褐灰色 | 小片 | 長石粒・5区 |
| 84 | 包含層 | 須恵器 | 坏 | 底径：72 | 褐灰色 | 1/4 | 長石粒・5区 |
| 85 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | | 暗灰黄色 | | 5区 |
| 86 | 包含層 | 土師器 | 碗 | 底径：(80) | 黄橙褐色 | 1/7 | |
| 87 | 包含層 | 土師器 | 有台碗 | 底径：(57) | 浅黄橙色 | 3/4 | 内黒・海骨・5区 |
| 88 | SI-04 | 土師器 | 皿 | 口径：85 | 浅黄橙色 | 小片 | 磨耗激しい |
| 89 | SI-05 | 須恵器 | 坏 | 底径：98 | 灰黄色 | 小片 | |
| 90 | SI-05 | 須恵器 | 坏 | 底径：90 | 灰黄色 | 小片 | 磨耗・焼成不良 |
| 91 | SI-05 | 土師器 | 羽釜 | 口径：110 | 浅黄橙色 | 小片 | |
| 92 | SI-05 | 土師器 | 皿 | 口径：82 | 橙色 | 1/3 | 海骨少 |
| 93 | SI-05 | 土師器 | 皿 | 口径：88 | 橙褐色 | 小片 | 海骨少 |
| 94 | SI-05 | 土師器 | 皿 | 口径：90 | 浅黄橙色 | 1/6 | 海骨少・石英微 |
| 95 | SI-05 | 土師器 | 皿 | 口径：108 | 黄橙褐色 | 1/4 | |
| 96 | SI-05 | 加賀 | 片口鉢 | 底径：110 | 黄灰色 | 3/4 | |
| 97 | SI-05 | 珠洲 | 底部 | 底径：104 | 灰白色 | 1/4 | |
| 98 | SI-05 | 青磁 | 碗 | 口径：128 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 99 | SI-11 | 土師器 | 皿 | 口径：80 | 浅黄橙色 | 1/4 | |
| 100 | SI-11 | 土師器 | 皿 | 口径：126 | 黄橙褐色 | 1/6 | 磨耗 |
| 101 | SI-11 | 珠洲 | 甕 | 口径：(342) | 灰色 | 小片 | |
| 102 | SI-12 | 土師器 | 碗 | 口径：166 | 灰白色 | 1/6 | 長石粒 |
| 103 | SI-12 | 土師器 | 底部 | 底径：36 | 灰白色 | 2/3 | |
| 104 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：66 | 浅黄橙色 | 1/3 | 歪み大・海骨少 |
| 105 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：72 | 黄橙色 | 1/4 | 長石粒・海骨 |
| 106 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：78 | 橙色 | 完 | 海骨 |
| 107 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：84 | 橙色 | 小片 | 海骨 |
| 108 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：100 | 橙褐色 | 1/5 | 海骨 |
| 109 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：108 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨微量 |
| 110 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：112 | 橙色 | 小片 | 長石粒・海骨 |
| 111 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：116 | 浅黄橙色 | 1/7 | 磨耗激しい |
| 112 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：119 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 113 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：120 | 橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 114 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：120 | 橙色 | 1/6 | 磨耗激しい |
| 115 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：120 | 浅黄橙色 | 1/7 | |
| 116 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：122 | 黄橙褐色 | 小片 | 長石粒 |
| 117 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：124 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 118 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：126 | 橙色 | 小片 | 長石粒・海骨 |
| 119 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：130 | 浅黄橙色 | 1/6 | 磨耗激しい |
| 120 | SI-12 | 土師器 | 皿 | 口径：150 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 121 | SI-12 | 珠洲 | 甕 | 底径：130 | 灰色 | 1/3 | 長石粒 |
| 122 | SI-12 | 珠洲 | 壺 | 口径：107<br>胴部：181 | 灰白色 | 完 | 花押有りか？ |
| 123 | SI-12 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：271 | 灰白色 | 小片 | 長石粒 |
| 124 | SI-12 | 珠洲 | 片口鉢 | | 浅黄色 | 小片 | 長石粒・焼成不良 |
| 125 | SI-12 | 青磁 | 碗 | 口径：156 | オリーブ灰色 | 1/7 | |
| 126 | SI-12 | 白磁 | 碗 | 口径：(112) | 灰白色 | 小片 | 11C中～後半 |
| 127 | SI-12 | 青白磁 | 紅皿か | 口径：71 | 灰白色 | 1/6 | 型作り |
| 128 | SI-12 | 土製品 | 土錘 | 長さ：45<br>幅　：24 | 浅黄橙色 | 完 | 20g |
| 129 | SI-13 | 土師器 | 皿 | 底径：35 | 橙色 | 完 | 糸切り |
| 130 | SI-13 | 土師器 | 皿 | 口径：82 | 黄橙褐色 | 1/6 | |
| 131 | SI-13 | 土師器 | 皿 | 口径：84 | 黄橙褐色 | 2/3 | |
| 132 | SI-13 | 土師器 | 皿 | 口径：114 | 浅黄橙色 | 1/6 | 海骨少 |
| 133 | SI-13 | 土師器 | 皿 | 口径：120 | 橙色 | 小片 | 海骨少・磨耗 |
| 134 | SI-13 | 土師器 | 皿 | 口径：124 | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 135 | SI-13 | 土師器 | 皿 | 口径：126 | 橙色 | 1/4 | 海骨少 |
| 136 | SI-13 | 加賀 | 甕 | 底径：136 | 褐色 | 1/6 | |
| 137 | SI-13 | 青磁 | 小鉢 | 口径：136 | オリーブ灰色 | 小片 | 13C末～14C前 |
| 138 | SI-13 | 石製品 | 石鉢 | 口径：320 | 灰色 | 小片 | 凝灰岩・磨耗 |
| 139 | SI-14 | 土師器 | 皿 | 口径：94 | 橙色 | 1/4 | |
| 140 | SI-14 | 土師器 | 皿 | 口径：106 | 橙色 | 1/6 | 磨耗激しい |
| 141 | SI-14 | 土師器 | 皿 | 口径：112 | 橙褐色 | 小片 | 海骨少・磨耗 |
| 142 | SB-07 | 土師器 | 皿 | 口径：136 | 浅黄橙色 | 小片 | P-1・石英・磨耗 |
| 143 | SB-07 | 土師器 | 皿 | 口径：88 | 黄橙褐色 | 1/4 | P-2・海骨・石英 |
| 144 | SB-12 | 土師器 | 皿 | 口径：68 | 浅黄橙色 | 1/2 | P-1 |
| 145 | SB-12 | 土師器 | 皿 | 口径：104 | 浅黄橙色 | 小片 | P-2・磨耗 |
| 146 | SB-12 | 瀬戸 | 碗 | 底径：64 | 灰白色 | 1/3 | P-2 |
| 147 | SB-23 | 土師器 | 碗 | 口径：152 | 灰黄褐色 | 1/7 | P-1・磨耗 |
| 148 | SB-23 | 土師器 | 皿 | 口径：98 | 黄橙褐色 | 小片 | P-2・糸切り |
| 149 | SB-24 | 土師器 | 皿 | 底径：58 | 黄橙褐色 | 完 | P-1・糸切り |
| 150 | SB-29 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：272 | 灰色 | 小片 | P-1・石英 |
| 151 | SB-30 | 土師器 | 皿 | 口径：106 | 浅黄橙色 | 小片 | P-1・石英 |
| 152 | SB-30 | 土師器 | 皿 | 口径：80 | 浅黄橙色 | 小片 | P-2・海骨・石英 |
| 153 | SB-31 | 土師器 | 皿 | 口径：96 | 浅黄橙色 | 小片 | P-1・海骨・石英 |
| 154 | SB-31 | 土師器 | 皿 | 口径：82 | 浅黄橙色 | 1/5 | P-2・石英・磨耗 |
| 155 | SB-31 | 須恵器 | 坏 | 口径：(157) | 黄灰色 | 小片 | P-3・長石粒 |
| 156 | SB-32 | 石製品 | 砥石 | 長さ：82<br>幅：17<br>厚さ：8 | | 完 | 鳴滝・仕上げ砥<br>P-1・15g |
| 157 | SB-32 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：222 | 灰色 | 小片 | P-2・石英・長石粒 |

| 番号 | 遺構 | 種類 | 器種 | 法量 | 色調 | 遺存 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 158 | SB-32 | 土師器 | 甕 | 口径：120 | 橙褐色 | 小片 | P-3・磨耗 |
| 159 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 64 | 黄橙褐色 | 1/4 | P-3・海骨 |
| 160 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径：124 | 浅黄橙色 | 1/6 | P-3・海骨・石英 |
| 161 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径：108 | 橙色 | 小片 | P-4・海骨 |
| 162 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径：126 | 浅黄橙色 | 小片 | P-5 |
| 163 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 68 | 黄褐色 | 1/4 | P-6・石英 |
| 164 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径：118 | 灰白色 | 小片 | P-7・海骨・石英 |
| 165 | SB-32 | 青磁 | 碗 | 口径：160 | オリーブ灰色 | 小片 | P-7・龍泉窯系 |
| 166 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 80 | 浅黄橙色 | 1/2 | P-8・13C末 |
| 167 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 80 | 浅黄橙色 | 1/2 | P-8 |
| 168 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径：(98) | 黄橙褐色 | 1/7 | P-8・海骨 |
| 169 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 84 | 黄橙褐色 | 小片 | P-9・石英 |
| 170 | SB-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径：118 | 黄橙褐色 | 小片 | P-10・海骨 |
| 171 | SK-16 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 70 | 浅黄橙色 | 1/4 | |
| 172 | SK-18 | 土師器 | Ⅲ | 口径：108 | 浅黄橙色 | 小片 | 長石粒・石英 |
| 173 | SK-18 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：244 | 灰黄色 | 小片 | 石英 |
| 174 | SK-18 | 瀬戸 | Ⅲ | 口径：170 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 175 | SK-21 | 土師器 | Ⅲ | 口径：104 | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 176 | SK-21 | 土師器 | 甕 | 口径：246 | 黄橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 177 | SK-23 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：328 | 灰色 | 小片 | |
| 178 | SK-23 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：132 | 灰白色 | 1/2 | 、期 |
| 179 | SK-23 | 瓦質土器 | 鉢 | 口径：320 | 浅黄色 | 小片 | |
| 180 | SK-24 | 石製品 | 砥石 | 長さ：176<br>幅 ：89<br>厚さ：63 | | 完 | 鎌砥<br>凝灰岩・1,050g |
| 181 | SK-31 | 土師器 | Ⅲ | 口径：115 | 黄橙褐色 | 1/5 | 海骨・磨耗 |
| 182 | SK-31 | 土師器 | Ⅲ | 口径：140 | 黄橙褐色 | 1/5 | 海骨 |
| 183 | SK-34 | 土師器 | Ⅲ | 口径：128 | 橙色 | 1/5 | 海骨・磨耗 |
| 184 | SK-35 | 土師器 | Ⅲ | 口径：124 | 橙色 | 小片 | 海骨・磨耗 |
| 185 | SK-36 | 須恵器 | 蓋 | 口径：114 | 灰白色 | 1/4 | |
| 186 | SK-36 | 土師器 | 碗 | 底径： 84 | 浅黄橙色 | 1/7 | 石英・糸切り |
| 187 | SK-36 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 98 | 灰白色 | 1/7 | 石英 |
| 188 | SK-36 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：328 | 灰白色 | 小片 | Ⅱ新～Ⅲ古 |
| 189 | SK-36 | 加賀 | 鉢 | 口径：338 | 褐色 | 1/2 | SK-44・45と接合 |
| 190 | SK-37 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 78 | 黄橙褐色 | 3/4 | 海骨・油煤付着 |
| 191 | SK-37 | 土師器 | Ⅲ | 口径：132 | 淡赤橙色 | 3/4 | 13C中頃 |
| 192 | SK-37 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：116 | 灰色 | 完 | Ⅳ期 |
| 193 | SK-38 | 須恵器 | 坏 | 口径：140 | 灰色 | 小片 | |
| 194 | SK-38 | 須恵器 | 坏 | 底径： 94 | 灰白色 | 1/6 | |
| 195 | SK-38 | 土師器 | 碗 | 口径：100 | 灰白色 | 小片 | 内黒・石英 |
| 196 | SK-38 | 土師器 | 有台碗 | 底径： 60 | 橙色 | 1/6 | 内黒・石英 |
| 197 | SK-38 | 土師器 | 甕 | 口径：(160) | 橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 198 | SK-38 | 土師器 | 甕 | 口径：300 | 明黄褐色 | 小片 | 海骨・磨耗 |
| 199 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 74 | 浅黄橙色 | 1/5 | 海骨・石英 |
| 200 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 76 | 黄橙褐色 | 1/6 | 海骨・石英 |
| 201 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 88 | 浅黄橙色 | 完 | 海骨 |
| 202 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 94 | 黄橙褐色 | 1/6 | 海骨 |
| 203 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径：106 | 橙色 | 1/6 | 海骨・石英 |
| 204 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径：106 | 灰白色 | 1/4 | 12C末～13C初 |
| 205 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径：130 | 橙色 | 小片 | 海骨 |
| 206 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径：134 | 浅黄橙色 | 小片 | 海骨 |
| 207 | SK-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径：(136) | 灰白色 | 小片 | |
| 208 | SK-38 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：268 | 灰色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 209 | SK-38 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：360 | 灰白色 | 小片 | 海骨 |
| 210 | SK-38 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：540 | 灰色 | 小片 | Ⅲ期 |
| 211 | SK-38 | 白磁 | 碗 | 口径：(200) | 灰白色 | 小片 | A 4類 |
| 212 | SK-38 | 石製品 | 炉材か？ | 長さ：173<br>幅 ：141<br>厚さ：69 | | 完 | 被熱痕 |
| 213 | SK-39 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 90 | 橙色 | 1/6 | 海骨少 |
| 214 | SK-39 | 土師器 | Ⅲ | 口径：100 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨少 |
| 215 | SK-39 | 土師器 | Ⅲ | 口径：102 | 橙褐色 | 小片 | 海骨少 |
| 216 | SK-39 | 土師器 | Ⅲ | 口径：132 | 黄橙褐色 | 1/6 | 油煤付着 |
| 217 | SK-39 | 青磁 | 碗 | 口径：(150) | 明緑灰色 | 小片 | |
| 218 | SK-40 | 須恵器 | 蓋 | | 灰色 | 1/6 | |
| 219 | SK-40 | 須恵器 | 坏 | 口径：112 | 黄灰色 | 小片 | |
| 220 | SK-40 | 須恵器 | 坏 | 口径：114 | 灰色 | 小片 | |
| 221 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 66 | 黄橙褐色 | 1/6 | |
| 222 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 67 | 黄橙褐色 | 1/5 | 海骨・石英 |
| 223 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 72 | 橙褐色 | 1/4 | 海骨 |
| 224 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 72 | 浅黄橙色 | 1/4 | 海骨 |
| 225 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 73 | 黄橙褐色 | 1/6 | 海骨 |
| 226 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 77 | 橙色 | 小片 | 磨耗 |
| 227 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 80 | 黄橙褐色 | 1/3 | 海骨 |
| 228 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 82 | 明黄褐色 | 1/5 | 長石粒・海骨 |

| 番号 | 遺構 | 種類 | 器種 | 法量 | 色調 | 遺存 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 229 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 85 | 黄褐色 | 1/3 | 海骨・油煤付着 |
| 230 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 89 | 灰白色 | 小片 | 磨耗 |
| 231 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径：106 | 橙色 | 1/6 | 海骨・剥離 |
| 232 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径：120 | 浅黄橙色 | 小片 | 海骨 |
| 233 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径：124 | 橙褐色 | 小片 | 海骨・磨耗 |
| 234 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径：125 | 明黄褐色 | 小片 | 海骨 |
| 235 | SK-40 | 土師器 | Ⅲ | 口径：140 | 黄橙褐色 | 小片 | 長石粒・海骨 |
| 236 | SK-40 | 加賀 | 甕 | 口径：(374) | 黄灰色 | 小片 | |
| 237 | SK-40 | 白磁 | 口禿 | 口径：112 | 灰白色 | 小片 | |
| 238 | SK-40 | 白磁 | 碗 | 口径：132 | 灰白色 | 1/6 | |
| 239 | SK-40 | 青磁 | 碗 | 口径：129 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 240 | SK-40 | 青磁 | 碗 | 口径：152 | オリーブ灰色 | 1/7 | 磨耗 |
| 241 | SK-41 | 須恵器 | 有台坏 | 底径： 80 | 黄灰色 | 小片 | |
| 242 | SK-41 | 珠洲 | 壺 | 頸部径：170 | 灰色 | 1/6 | |
| 243 | SK-41 | 土師器 | 碗 | 底径： 45 | 黄橙褐色 | 2/3 | 内黒・長石粒 |
| 244 | SK-41 | 土師器 | 碗 | 口径：200 | 橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 245 | SK-41 | 土師器 | 甕 | 口径：(250) | 黄橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 246 | SK-41 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 94 | 橙褐色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 247 | SK-41 | 土師器 | Ⅲ | 口径：114 | 黄橙褐色 | 1/6 | 海骨 |
| 248 | SK-41 | 土師器 | Ⅲ | 口径：160 | 橙色 | 小片 | 海骨 |
| 249 | SK-41 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：262<br>底径：53 | 黄灰色 | 小片 | |
| 250 | SK-43 | 土師器 | Ⅲ | 口径：152 | 橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 251 | SK-44 | 須恵器 | 蓋 | 口径：120 | 灰白色 | 小片 | |
| 252 | SK-44 | 須恵器 | 坏 | 口径：132 | 灰白色 | 1/6 | 焼成不良 |
| 253 | SK-44 | 須恵器 | 瓶類 | 頸部径： 90 | 灰白色 | 完 | |
| 254 | SK-44 | 土師器 | 甕 | 口径：220 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 255 | SK-44 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 78 | 灰白色 | 1/3 | |
| 256 | SK-44 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 92 | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 257 | SK-44 | 青磁 | 碗 | 口径：136 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 258 | SK-44 | 青磁 | 碗 | 口径：172 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 259 | SK-45 | 弥生土器 | 高坏脚 | 径： 42 | 灰白色 | 完 | |
| 260 | SK-45 | 須恵器 | 坏 | 底径： 50 | 灰白色 | 小片 | |
| 261 | SK-45 | 須恵器 | 坏 | 口径：126<br>底径：71 | 灰色 | 小片 | |
| 262 | SK-45 | 須恵器 | 坏 | 口径：172 | 灰白色 | 小片 | 焼成不良 |
| 263 | SK-45 | 土師器 | 甕 | 口径：112 | 橙褐色 | 1/6 | 石英 |
| 264 | SK-45 | 土師器 | 甕 | 口径：128 | 橙色 | 小片 | 石英 |
| 265 | SK-45 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 84 | 灰白色 | 1/2 | 海骨少 |
| 266 | SK-45 | 土師器 | Ⅲ | 口径：128 | 浅黄橙色 | 小片 | |
| 267 | SK-45 | 青磁 | 端反碗 | 口径：141 | オリーブ灰色 | 小片 | 龍泉・13C末 |
| 268 | SK-45 | 石製品 | 砥石 | 長さ：122<br>幅 ：73<br>厚さ：37 | | 完 | 平刃物・鎌砥<br>360g |
| 269 | SK-48 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 78 | 灰白色 | 1/6 | 石英 |
| 270 | SK-48 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 80 | 黄橙褐色 | 完 | |
| 271 | SK-48 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 80 | 黄橙褐色 | 1/3 | 海骨少 |
| 272 | SP-08 | 土師器 | 碗 | 口径：126<br>底径：53 | 明黄褐色 | 1/2 | 内黒 |
| 273 | SP-08 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：280 | 灰白色 | 小片 | |
| 274 | SP-12 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 90 | 橙褐色 | 1/6 | 磨耗 |
| 275 | SP-13 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 96 | 橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 276 | SP-14 | 白磁 | 碗 | 口径：148 | 灰白色 | 小片 | 4類 |
| 277 | SP-15 | 土師器 | Ⅲ | 口径：108 | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 278 | SP-23 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 94 | 橙色 | 1/2 | 石英・糸切り |
| 279 | SP-23 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 86 | 橙色 | 1/3 | 石英・糸切り |
| 280 | SP-27 | 土師器 | Ⅲ | 底径： 46 | 黄橙褐色 | 完 | 石英・糸切り |
| 281 | SP-29 | 土師器 | Ⅲ | 口径：128 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 282 | SP-31 | 土師器 | Ⅲ | 底径： 38 | 橙色 | 完 | 11C後半～末 |
| 283 | SP-32 | 土師器 | Ⅲ | 口径：100 | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 284 | SP-32 | 土師器 | 碗 | 口径：140 | 橙色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 285 | SP-34 | 土師器 | Ⅲ | 口径：140 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨・油煤付着 |
| 286 | SP-35 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 92 | 浅黄橙色 | 1/5 | 海骨少 |
| 287 | SP-36 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 76 | 浅黄橙色 | 1/4 | 海骨・石英 |
| 288 | SP-37 | 白磁 | 碗 | 底径： 64 | 灰白色 | 1/4 | 5類 |
| 289 | SP-38 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 96 | 黄橙褐色 | 1/5 | 長石粒・海骨 |
| 290 | SP-39 | 土師器 | Ⅲ | 口径：(80) | 暗褐色 | 小片 | 石英 |
| 291 | SP-40 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：242 | 暗灰色 | 小片 | |
| 292 | SP-41 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 82 | 黄橙褐色 | 小片 | 磨耗激しい |
| 293 | SP-42 | 土師器 | Ⅲ | 口径：114 | 橙色 | 小片 | 海骨少 |
| 294 | SP-43 | 土師器 | Ⅲ | 口径：160 | 黄橙褐色 | 1/6 | 海骨少 |
| 295 | SP-44 | 土師器 | 底部 | 底径： 92 | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 296 | SP-45 | 土師器 | 底部 | 底径： 84 | 浅黄橙色 | 小片 | 海骨少・糸切り |
| 297 | SP-46 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 81 | 橙色 | 完 | 糸切り・磨耗 |
| 298 | SP-47 | 土師器 | Ⅲ | 口径： 94 | 橙色 | 完 | 12C末 |

| 番号 | 遺構 | 種類 | 器種 | 法量 | 色調 | 遺存 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 299 | SP-48 | 土師器 | Ⅲ | 口径：80 | 橙色 | 1/6 | 磨耗 |
| 300 | SX-01 | 土師器 | Ⅲ | 口径：(141) | 浅黄橙色 | 小片 | 磨耗 |
| 301 | SX-02 | 鉄製品 | 釘状 | 長さ：69<br>幅・厚さ：12 | | 完 | 7g |
| 302 | SX-02 | 鉄製品 | 釘状 | 長さ：89<br>幅　：24<br>厚さ：19 | | 完 | 16.7g |
| 303 | SX-04 | 石製品 | 砥石 | 長さ：168<br>幅：78<br>厚さ：58 | | 完 | 備水<br>1,090g |
| 304 | SX-05 | 瀬戸 | 碗 | 底径：43 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 305 | SX-05 | 唐津 | Ⅲ | 底径：46 | 橙褐色 | 完 | 透明釉（乳白色） |
| 306 | SX-06 | 土師器 | Ⅲ | 口径：98 | 浅黄橙色 | 1/6 | 海骨・磨耗 |
| 307 | SX-06 | 土師器 | Ⅲ | 口径：125 | 灰白色 | 小片 | |
| 308 | SX-06 | 土師器 | Ⅲ | 口径：145 | 浅黄橙色 | 小片 | 石英微量 |
| 309 | SX-06 | 土師器 | Ⅲ | 口径：152 | 橙褐色 | 小片 | 海骨・長石粒 |
| 310 | SX-06 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：276 | 灰色 | 小片 | |
| 311 | SX-07 | 土師器 | Ⅲ | 口径：138 | 浅黄橙色 | 1/7 | |
| 312 | SX-08 | 須恵器 | 坏 | 口径：130 | 灰色 | 小片 | |
| 313 | SX-08 | 須恵器 | 坏 | 底径：72 | 灰色 | 1/6 | |
| 314 | SX-08 | 土師器 | 底部 | 底径：94 | 浅黄橙色 | 1/6 | 石英 |
| 315 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：62 | 浅黄橙色 | 1/5 | 海骨・石英 |
| 316 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：62 | 灰白色 | 1/5 | 海骨 |
| 317 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：65 | 浅黄橙色 | 1/5 | 海骨・石英 |
| 318 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：72 | 浅黄橙色 | 1/5 | 海骨 |
| 319 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：74 | 浅黄橙色 | 小片 | |
| 320 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：74 | 黄橙褐色 | 1/5 | 石英 |
| 321 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：74 | 灰白色 | 1/6 | 海骨 |
| 322 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：76 | 黄褐色 | 1/6 | 海骨 |
| 323 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：78 | 黄橙褐色 | 1/5 | 海骨 |
| 324 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：82 | 黄橙褐色 | 1/5 | 海骨・石英 |
| 325 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：81～85 | 浅黄橙色 | 完 | 海骨・歪み |
| 326 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：82 | 褐灰色 | 1/4 | 磨耗 |
| 327 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：86 | 浅黄橙色 | 1/6 | 長石粒 |
| 328 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：87 | 黄橙褐色 | 1/2 | 海骨 |
| 329 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：87 | 黄橙褐色 | 1/5 | 海骨・油煤付着 |
| 330 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：87 | 灰色 | 1/6 | 海骨 |
| 331 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：88 | 黄橙褐色 | 1/4 | 海骨・石英 |
| 332 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：88 | 黄橙褐色 | 1/6 | 海骨・石英 |
| 333 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：90 | 灰黄褐色 | 1/4 | 海骨・石英 |
| 334 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：90 | 灰白色 | 1/2 | 海骨 |
| 335 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：92 | 灰白色 | 1/5 | 海骨・石英 |
| 336 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：94 | 灰白色 | 1/6 | 海骨 |
| 337 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：98 | 黄橙褐色 | 1/7 | 海骨・長石粒 |
| 338 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：114 | 灰白色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 339 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：116 | 橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 340 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：118 | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 341 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：122 | 橙褐色 | 小片 | |
| 342 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：122 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 343 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：127 | 浅黄橙色 | 1/6 | 海骨・石英 |
| 344 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：128 | 黄橙褐色 | 小片 | 石英・磨耗 |
| 345 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：128 | 浅黄橙色 | 1/7 | 海骨・石英・長石 |
| 346 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：129 | 灰黄褐色 | 小片 | 石英 |
| 347 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：132 | 黄橙褐色 | 1/7 | 海骨 |
| 348 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：136 | 浅黄橙色 | 小片 | 海骨 |
| 349 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：(137) | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 350 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：140 | 浅黄橙色 | 1/7 | 海骨・石英 |
| 351 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：141 | 黄橙褐色 | 1/5 | 海骨 |
| 352 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：144 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 353 | SX-08 | 土師器 | Ⅲ | 口径：(158) | 橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 354 | SX-08 | 珠洲 | 甕 | | 暗灰色 | 小片 | |
| 355 | SX-08 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：340 | 暗灰色 | 小片 | |
| 356 | SX-08 | 瀬戸 | 行平 | 口径：222 | オリーブ灰色 | 小片 | 14C前半 |
| 357 | SX-09 | 土師器 | Ⅲ | 口径：130 | 浅黄橙色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 358 | SX-10 | 須恵器 | 坏 | 底径：76 | 灰白色 | 小片 | |
| 359 | SX-10 | 土師器 | Ⅲ | 口径：70 | 橙色 | 小片 | 海骨 |
| 360 | SX-10 | 青磁 | 稜花Ⅲ | 口径：124 | オリーブ灰色 | 小片 | 16C前半 |
| 361 | SD-01 | 須恵器 | 蓋 | 口径：136 | 灰白色 | 1/4 | |
| 362 | SD-01 | 須恵器 | 蓋 | 口径：148 | 灰色 | 小片 | |
| 363 | SD-01 | 須恵器 | 坏 | 底径：60 | 黄橙褐色 | 1/3 | 焼成不良 |
| 364 | SD-01 | 須恵器 | 坏 | 口径：133 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 365 | SD-01 | 須恵器 | 坏 | 底径：80 | 灰色 | 小片 | |
| 366 | SD-01 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：73 | 灰色 | 1/4 | 磨耗 |
| 367 | SD-01 | 須恵器 | 盤 | 口径：120 | 灰白色 | 1/4 | |
| 368 | SD-01 | 須恵器 | 盤 | 口径：140 | 灰色 | 1/6 | |

| 番号 | 遺構 | 種類 | 器種 | 法量 | 色調 | 遺存 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 369 | SD-01 | 須恵器 | 底部 | 底径：58 | オリーブ灰色 | 完 | |
| 370 | SD-01 | 須恵器 | 底部 | 底径：84 | 紫灰色 | 1/3 | |
| 371 | SD-01 | 須恵器 | 底部 | 底径：100 | 灰色 | 1/6 | |
| 372 | SD-01 | 須恵器 | 底部 | 底径：124 | 青灰色 | 1/6 | |
| 373 | SD-01 | 須恵器 | 甕 | 口径：354 | 灰色 | 小片 | |
| 374 | SD-01 | 土師器 | 碗 | 底径：62 | 浅黄橙色 | 1/4 | 内黒・石英少 |
| 375 | SD-01 | 土師器 | Ⅲ | 口径：88 | 橙褐色 | 1/6 | 歪み |
| 376 | SD-01 | 土師器 | Ⅲ | 口径：146 | 浅黄橙色 | 1/6 | 16C第3四半 |
| 377 | SD-01 | 珠洲 | 甕 | 口径：280 | 暗灰色 | 小片 | |
| 378 | SD-01 | 珠洲 | 甕 | 口径：350 | 灰色 | 小片 | Ⅱ新～Ⅲ |
| 379 | SD-01 | 珠洲 | 甕 | 口径：494 | 灰白色 | 小片 | Ⅱ期後半 |
| 380 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：330 | 黄灰色 | 1/3 | Ⅴ期 |
| 381 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：334 | 灰色 | 小片 | |
| 382 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：336 | 灰白色 | 小片 | Ⅳ期 |
| 383 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：344 | 灰色 | 小片 | |
| 384 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：360 | 灰色 | 小片 | |
| 385 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：100 | 灰白色 | 1/4 | |
| 386 | SD-01 | 越前 | 片口鉢 | 底径：150 | 灰色 | 1/4 | Ⅳ期 |
| 387 | SD-01 | 越前 | 片口鉢 | 底径：132 | 褐灰色 | 小片 | 磨耗（使用による） |
| 388 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：125 | 灰黄色 | 1/2 | |
| 389 | SD-01 | 越前 | 甕 | 口径：238 | 明褐灰色 | 小片 | |
| 390 | SD-01 | 越前 | 片口鉢 | 底径：(116) | 黄橙褐色 | 小片 | 13C後半 |
| 391 | SD-01 | 越前 | 片口鉢 | | 黄褐色 | 1/4 | |
| 392 | SD-01 | 加賀 | 片口鉢 | | 灰白色 | 小片 | ユノカミダニⅣ |
| 393 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | | 黄橙褐色 | 小片 | |
| 394 | S-01 | 青磁 | 坏 | 口径：88 | オリーブ灰色 | 1/6 | |
| 395 | SD-01 | 青磁 | 碗 | 口径：128 | オリーブ灰色 | 小片 | 14C中頃 |
| 396 | SD-01 | 青磁 | 碗 | 口径：176 | オリーブ灰色 | 小片 | 14C前半 |
| 397 | SD-01 | 青磁 | 碗 | 底径：56 | オリーブ灰色 | 小片 | 13C末 |
| 398 | SD-01 | 白磁 | 碗 | 底径：(74) | オリーブ灰色 | 1/7 | 12C後半 |
| 399 | SD-01 | 白磁 | 坏 | 口径：76 | 灰白色 | 1/6 | |
| 400 | SD-01 | 青磁 | 碗 | 口径：124 | オリーブ灰色 | 小片 | 16C前半 |
| 401 | SD-01 | 白磁 | 口禿 | 口径：140 | 灰白色 | 小片 | 13C末～14C前 |
| 402 | SD-01 | 白磁 | 碗 | 底径：32 | 灰白色 | 完 | |
| 403 | SD-01 | 瀬戸 | Ⅲ | 底径：76 | オリーブ黄色 | 3/4 | |
| 404 | SD-01 | 瀬戸 | 平碗 | 底径：46 | オリーブ黄色 | 1/3 | 14C末～15C初 |
| 405 | SD-01 | 瀬戸 | 天目茶碗 | 底径：40 | 黒褐色 | 完 | 大窯Ⅰ |
| 406 | SD-01 | 瀬戸 | 卸Ⅲ | 底径：68 | 灰白色 | 1/4 | |
| 407 | SD-01 | 近世磁器 | 小壺 | 口径：95 | 灰白色 | 1/6 | |
| 408 | SD-01 | 瀬戸 | 平碗 | 口径：182 | オリーブ黄色 | 小片 | 15C前半 |
| 409 | SD-01 | 唐津 | Ⅲ | 底径：64 | 緑青・灰黄色 | 1/6 | 銅緑釉 |
| 410 | SD-01 | 白磁 | Ⅲ | 底径：44 | 灰白色 | 1/2 | 15C前半 |
| 411 | SD-01 | 瀬戸 | 碗 | 底径：38 | 橙褐色 | 1/6 | 13C～14C |
| 412 | SD-01 | 石製品 | 砥石 | 長さ：75<br>幅　：34<br>厚さ：31 | | 完 | 82g・古墳時代 |
| 413 | SD-01 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：131<br>幅　：80<br>厚さ：31 | | 完 | 327g・凝灰岩 |
| 414 | SD-01 | 須恵器 | 坏 | 底径：68 | 灰色 | 1/4 | |
| 415 | SD-01 | 須恵器 | 坏 | 底径：80 | 灰色 | 1/7 | |
| 416 | SD-01 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：96 | 灰色 | 1/6 | 磨耗 |
| 417 | SD-01 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：96 | 灰白色 | 小片 | 外面降灰 |
| 418 | SD-01 | 須恵器 | 底部 | 底径：102 | 暗灰色 | 1/4 | |
| 419 | SD-01 | 土師器 | 碗 | 底径：56 | 橙褐色 | 1/2 | 内黒・石英 |
| 420 | SD-01 | 土師器 | 碗 | 口径：120 | 灰白色 | 1/6 | 内黒・磨耗 |
| 421 | SD-01 | 珠洲 | 壺 | 口径：220 | 灰白色 | 1/7 | |
| 422 | SD-01 | 珠洲 | 片口鉢 | | 灰白色 | 小片 | 焼成不良 |
| 423 | SD-01 | 青磁 | 碗 | 口径：152 | オリーブ灰色 | 小片 | |
| 424 | SD-01 | 青磁 | 碗 | 底径：42 | オリーブ灰色 | 1/3 | 13C前半 |
| 425 | SD-01 | 瀬戸 | Ⅲ | 口径：110 | 灰白色 | 小片 | 15C前半 |
| 426 | SD-01 | 青磁 | 碗 | 口径：136 | 暗灰黄色 | 小片 | |
| 427 | SD-01 | 瀬戸 | 平碗 | 口径：164 | オリーブ灰色 | 小片 | 15C前半 |
| 428 | SD-01 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：149<br>幅　：80<br>厚さ：24 | | 完 | 314g |
| 429 | SD-09 | 須恵器 | 坏 | 底径：86 | 灰白色 | 1/6 | |
| 430 | SD-09 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：(68) | 灰白色 | 1/6 | |
| 431 | SD-09 | 土師器 | 底部 | 底径：96 | 黄橙褐色 | 1/6 | |
| 432 | SD-09 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：98 | 灰白色 | 1/4 | |
| 433 | SD-09 | 青磁 | 碗 | 口径：170 | オリーブ灰色 | 小片 | 大降り・15C後半 |
| 434 | SD-09 | 青磁 | 碗 | 底径：54 | オリーブ灰色 | 1/3 | |
| 435 | SD-09 | 須恵器 | 坏 | 底径：74 | 灰色 | 1/3 | |
| 436 | SD-09 | 瀬戸 | 行平 | 底径：78 | 灰黄色 | 1/4 | 底部 |
| 437 | SD-09 | 須恵器 | 坏 | 底径：70 | 赤橙褐色 | 1/4 | 焼成不良 |

| 番号 | 遺構 | 種類 | 器種 | 法量 | 色調 | 遺存 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 438 | SD-09 | 須恵器 | 坏 | 底径：100 | 灰白色 | 1/6 | |
| 439 | SD-09 | 須恵器 | 底部 | 底径：84 | 灰白色 | 1/6 | |
| 440 | SD-09 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：86 | 灰白色 | 1/4 | |
| 441 | SD-09 | 須恵器 | 双耳瓶 | | 褐灰色 | 完 | |
| 442 | SD-09 | 須恵器 | 不明 | 口径：136 | 灰白色 | 1/4 | 形態不明 |
| 443 | SD-09 | 須恵器 | 壷 | 口径：110 | 灰白色 | 小片 | |
| 444 | SD-09 | 珠洲 | 甕 | 頸部径：220 | 灰色 | 1/6 | |
| 445 | SD-09 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：140 | 灰色 | 1/6 | 磨耗 |
| 446 | SD-09 | 加賀 | 片口鉢 | | 灰黄色 | 完 | 湯上支群 |
| 447 | SD-09 | 白磁 | 端反皿 | 口径：92 | 灰白色 | 小片 | 15C末 |
| 448 | SD-09 | 青磁 | 碗 | 底径：60 | オリーブ灰色 | 1/3 | |
| 449 | SD-09 | 青磁 | 碗 | 底径：48 | オリーブ灰色 | 完 | |
| 450 | SD-09 | 青磁 | 碗 | 底径：(48) | オリーブ灰色 | 1/2 | |
| 451 | SD-09 | 瀬戸 | 三足筒形鉢 | 底径：184 | 浅黄色 | 小片 | 14C前半 |
| 452 | SD-09 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：370 | 灰色 | 小片 | |
| 453 | SD-09 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：424 | 黄灰色 | 小片 | |
| 454 | SD-09 | 越前 | 壷 | 胴部径：192 | 暗赤褐色 | 1/3 | 13C～14C |
| 455 | SD-09 | 越前 | 甕 | 口径：(490) | 黄灰色 | 小片 | |
| 456 | SD-09 | 弥生土器 | 底部 | 底径：80 | 灰黄色 | 1/3 | |
| 457 | SD-09 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：90<br>幅：69<br>厚さ：24 | | 完 | 210g |
| 458 | SD-09 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：172<br>幅：92<br>厚さ：31 | | 完 | 640g |
| 459 | SD-09 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：135<br>幅：73<br>厚さ：28 | | 完 | 320g |
| 460 | SD-09 | 珠洲 | 壷 | 底径：110 | 灰色 | 小片 | |
| 461 | SD-11 | 須恵器 | 坏 | 底径：66 | 灰色 | 1/2 | 内面油煤付着 |
| 462 | SD-11 | 須恵器 | 坏 | 口径：120 | 灰赤色 | 1/3 | |
| 463 | SD-11 | 珠洲 | 壷 | 口径：180 | 灰色 | 小片 | Ⅱ期 |
| 464 | SD-11 | 須恵器 | 瓶類 | 底径：70 | 灰色 | 1/3 | |
| 465 | SD-11 | 土師器 | 碗 | 口径：124 | 灰黄色 | 1/2 | 内黒 |
| 466 | SD-11 | 土師器 | 碗 | 底径：68 | 浅黄橙色 | 1/3 | 磨耗 |
| 467 | SD-11 | 土師器 | 皿 | 底径：64 | 黒褐色 | 1/4 | 海骨・石英 |
| 468 | SD-11 | 土師器 | 碗 | 底径：50 | 黄橙褐色 | 1/3 | |
| 469 | SD-11 | 土師器 | 底部 | 底径：40 | 橙褐色 | 完 | |
| 470 | SD-11 | 土師器 | 碗 | 底径：50 | 橙色 | 小片 | |
| 471 | SD-11 | 土師器 | 皿 | 口径：84 | 浅黄橙色 | 1/6 | |
| 472 | SD-11 | 土師器 | 皿 | 口径：120 | 淡橙色 | 1/6 | |
| 473 | SD-11 | 土師器 | 皿 | 口径：136 | 浅黄橙色 | 小片 | 海骨少 |
| 474 | SD-11 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：290 | 灰色 | 小片 | |
| 475 | SD-11 | 珠洲 | 片口鉢 | | 灰色 | 小片 | |
| 476 | SD-11 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：186 | 灰白色 | 1/6 | |
| 477 | SD-11 | 白磁 | 口禿 | 口径：166 | 灰白色 | 小片 | |
| 478 | SD-11 | 瓦質土器 | 奈良火鉢 | 口径：304 | 黒褐色 | 小片 | 磨耗・14C末 |
| 479 | SD-11 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：162<br>幅：98<br>厚さ：29 | | 完 | 492g |
| 480 | SD-11 | 土製品 | 球状土製品 | 長さ：28<br>幅：32<br>厚さ：32 | 黄橙褐色 | 完 | 25g |
| 481 | SD-11 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：121<br>幅：73<br>厚さ：28 | | 完 | 245g・凝灰岩 |
| 482 | SD-11 | 須恵器 | 蓋 | 鈕径：22 | 灰色 | 1/3 | |
| 483 | SD-11 | 須恵器 | 蓋 | 口径：122 | 灰色 | 1/5 | |
| 484 | SD-11 | 須恵器 | 蓋 | 口径：165 | 灰色 | 小片 | |
| 485 | SD-11 | 須恵器 | 坏 | 底径：(74) | 灰白色 | 1/5 | 焼成不良 |
| 486 | SD-11 | 須恵器 | 坏 | 底径：(92) | 灰白色 | 小片 | |
| 487 | SD-11 | 須恵器 | 坏 | 底径：(108) | 灰白色 | 小片 | |
| 488 | SD-11 | 須恵器 | 有台坏 | 底径：(141) | 灰白色 | 小片 | |
| 489 | SD-11 | 須恵器 | 双耳瓶 | | 黄灰色 | 小片 | |
| 490 | SD-11 | 土師器 | 甕 | 口径：(256) | 灰黄褐色 | 小片 | 石英 |
| 491 | SD-11 | 土師器 | 皿 | 底径：62 | 灰白色 | 1/3 | 石英 |
| 492 | SD-11 | 土師器 | 皿 | 口径：146 | 灰黄褐色 | 小片 | |
| 493 | SD-11 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：230 | 黄灰色 | 小片 | |
| 494 | SD-11 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：294 | 灰白色 | 小片 | |
| 495 | SD-11 | 珠洲 | 片口鉢 | 底径：154 | 灰緑色 | 小片 | 磨耗激しい |
| 496 | SD-15 | 弥生 | 甕 | 頸部径：90 | 黄橙褐色 | 1/6 | 肩部連続刺突文 |
| 497 | SD-15 | 須恵器 | 蓋 | 口径：140 | 灰色 | 小片 | |
| 498 | SD-15 | 土師器 | 碗 | 底径：74 | 黄橙褐色 | 1/6 | 内黒・磨耗 |
| 499 | SD-15 | 土師器 | 碗 | 底径：56 | 橙褐色 | 1/5 | 磨耗 |
| 500 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：64 | 浅黄橙色 | 1/4 | 海骨 |

| 番号 | 遺構 | 種類 | 器種 | 法量 | 色調 | 遺存 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 501 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：68 | 橙色 | 1/4 | 海骨 |
| 502 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：74 | 橙色 | 1/6 | 海骨・磨耗激しい |
| 503 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：84 | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 504 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：102 | 浅黄橙色 | 小片 | 石英 |
| 505 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：98 | 橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 506 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：98 | 橙色 | 1/5 | 海骨 |
| 507 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：122 | 黄橙褐色 | 小片 | 石英 |
| 508 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：(138) | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨・石英 |
| 509 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：136 | 橙色 | 小片 | 磨耗 |
| 510 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：(122) | 橙褐色 | 小片 | 海骨・磨耗 |
| 511 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：120 | 浅黄橙色 | 小片 | |
| 512 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：132 | 橙褐色 | 1/7 | 海骨・石英少 |
| 513 | SD-15 | 土師器 | 皿 | 口径：(136) | 黄橙褐色 | 小片 | 海骨 |
| 514 | SD-15 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：243 | 青灰色 | 小片 | |
| 515 | SD-15 | 珠洲 | 片口鉢 | 口径：400 | 灰白色 | 小片 | 磨耗 |
| 516 | SD-15 | 青磁 | 皿 | 口径：149 | オリーブ灰色 | 小片 | 12C末～13C前 |
| 517 | SD-15 | 青磁 | 碗 | 底径：55 | オリーブ灰色 | 完 | 劃花文（古相）<br>13C末～14C前 |
| 518 | SD-15 | 石製品 | 温石 | 長さ：89<br>幅：42<br>厚さ：28 | | 完 | 130g・滑石製 |
| 519 | SD-16 | 石製品 | 打製土掘具 | 長さ：197<br>幅：79<br>厚さ：26 | | 完 | 410g・安山岩 |
| 520 | SD-16 | 須恵器 | 瓶類 | 口径：148 | 灰白色 | 1/7 | |
| 521 | SD-16 | 土師器 | 皿 | 口径：108 | 灰黄褐色 | 1/6 | |
| 522 | 包含層 | 土師器 | 皿 | 口径：110 | 灰黄褐色 | 1/6 | 2区 |
| 523 | 包含層 | 青磁 | 碗 | 口径：130 | オリーブ灰色 | 小片 | 2区　15C前～中 |
| 524 | 包含層 | 白磁 | 口禿 | 口径：136 | 灰白色 | 小片 | 2区　14C前～中 |
| 525 | 包含層 | 土師器 | 皿 | 口径：132 | 黄橙褐色 | 1/6 | 5区・海骨 |
| 526 | 包含層 | 土師器 | 皿 | 口径：98 | 灰白色 | 1/7 | 5区 |
| 527 | 包含層 | 土師器 | 皿 | 口径：110 | 黄橙褐色 | 1/6 | 5区・石英 |
| 528 | 包含層 | 土師器 | 皿 | 口径：144 | 黄橙褐色 | 小片 | 5区・海骨 |
| 529 | 包含層 | 珠洲 | 鉢 | 口径：172 | 灰色 | 1/7 | 5区　。新～「古 |
| 530 | 包含層 | 珠洲 | 底部 | 底径：140 | 灰色 | 小片 | 5区 |
| 531 | 包含層 | 珠洲 | 甕 | 口径：464 | 灰白色 | 小片 | 5区 |
| 532 | 包含層 | 加賀 | 甕 | 口径：(338) | 褐灰色 | 小片 | 5区　12C末 |
| 533 | 包含層 | 加賀 | 壷 | 口径：119 | 灰黄褐色 | 1/4 | 5区　12C末 |
| 534 | 包含層 | 珠洲 | 片口鉢 | | 灰色 | 小片 | 7区 |

凡　例

色調　　色調の表現については、農林水産省農林水産技術会議事務局及び財団法人日本色彩研究所監修の『新版　標準土色帖』（1993年版）によっている。観察は竹田・野村がおこなった。

遺存　　遺物の遺存状態については概ね1/8までのものを数値で示し、それ以下のものを「小片」と記している。また、数値は実測図に対しての遺存状態を表している。したがって、底部のみのものでも全周が存在すれば「完」と記している。

備考　　その他特徴的な事項を記載している。この内掘立柱式建物のＰ－○は遺構図上のピット番号を示し、海骨は胎土中に海綿骨片が含まれていることを示している。

# 第４章　まとめ

## 第１節　はじめに

３次にわたる扇が丘ハワイゴク遺跡の発掘調査で出土した中世土器は4.322点に上り、砥石を中心とした石製品は13点である。集落の景観は区画溝ＳＤ－０１・０９・１１により大まかに４分割され、細かな移動を繰り返しながら12世紀末から15世紀後半を中心として営まれたものである。しかし、一部これらの溝と交錯する建物が存在することも事実であり、「溝によって区画されない時期」のあることも確かである。また、古代とは一線を画した中世的な生活の始まりも、僅かに出土した遺物より11世紀末段階に求められるようである。集落構成の推移は建物群の構成と変遷を検討することが第一であるが、本遺跡の掘立柱建物から出土した遺物は僅かであり、積極的な時期決定をおこなえる資料に乏しいと言わざるを得ない。したがって、ここでは各調査区より出土した遺物の集計結果より、遺跡全体の中での時間的移動と内容の濃淡の把握に努め、特徴的な建物構成の検討を加えながら集落全体の性格の解明を目指す。

## 第２節　出土遺物の組成

本遺跡の調査区割りは、調査年度の違いや調査地の農道・用水や河川を境に便宜的におこなったものであるが、結果として３区を除きほぼ遺跡の実態を反映したものとなっている。また、基幹になると思われるＳＤ－０９・１１についても別個に遺物の集計をおこなっている。これらの内、１区についてはほぼ全てがＳＤ－０１及びその西側に位置する土坑群よりの出土であり、東半の古代の遺構が広がる区域についてはほとんど見られない状況である。３区については別個に集計した溝遺構出土分を除けばほぼＳＤ－０９以北の土坑群周辺を中心に出土したものであるが、南半についても点在する土坑及び若干のピット等一定量の出土が見られる。また、４区については該期の建物群が展開するＳＤ－０９以南に限られている。５区は遺構内及びその上面より全体に出土しており、調査面積に対する遺物密度は非常に高い状況を示している。これらを種類・器種ごとに集計したものが表－４及び第57図である。遺跡全体としてみた場合、11世紀末から15世紀後半という長い時間幅があるため単純に他遺跡との比較はできないが、中国製品が4.81％、珠洲・越前・加賀等が11.73％、瀬戸・美濃が2.24％、土師質土器が80.8％という組成は普正寺遺跡・白山町遺跡の折衷型に近く、特に土師質土器の比率の高さが際立っている。もっとも、この点については５区から出土した土師質土器の絶対数が異常に多く、その総量の中でも80％近くを占めていることに起因するものであり、ある時期の特徴を如実に示すことには間違いないが、これをもってそのまま本遺跡全体の性格を論じることはできない。

## 第３節　集落の変遷と構造

冒頭でも述べたとおり、本遺跡の中世的な生活の萌芽は11世紀末頃に求められ、それは４区南半及び５区を中心に認められる。もっとも、この段階では明確にその構成を把握できる程の証左はなく、ここでは加賀地方でも最大級と見られる８×６間（身舎６×４間）の大型建物ＳＢ－３２が建てられる12世紀末から13世紀初頭頃に本格的な開始を求めることとする。この建物はＳＤ－１１及びＳＡ－０６によって区画され、東側に３×２間規模の付属屋ＳＢ－２８・２９及び数基の竪穴状遺構や土坑群を備えており、一定の空間を占拠した居館的な建物と見ることができる。特徴的な土器の出土状況

では、土師器が５区全体の総数の92.67%を占めており、次いで陶器類5.29%、中国製品1.77%、瀬戸・美濃0.2%となる。この大型建物ＳＢ－３２は、その後１３世紀後半頃には重複する５×４間のＳＢ－３１に縮小して建て替えられており、東側に西面庇の６×３間の別棟ＳＢ－３０を伴う。これらの建物は、その後14世紀末頃まではかろうじて残るようであり、５区が本遺跡での中核的な位置を占めていたことが窺われる。土師器皿の突出した出土量は、この地に暮らした人物がそれらを大量に消費する儀礼や供宴を催していたことを示しており、太刀の維持・管理に用いたとされる鳴滝産の砥石も多く所持している事実と併せ、この居館の主は鎌倉時代前期に周辺を支配した開発領主的地位にある有力武士であったものと考えられる。全景を窺うことは適わなかったものの、おそらく中世墓になると思われるＳＤ－１５の存在もその傍証となろう。

翻って、旧高橋川北側の調査区に目を移すと、鎌倉時代にまで遡る確実な遺構は稀であり、14世紀以降15世紀後半代までが主体となる。全体の構成は、中央を南北に伸びる道遺構（生垣か）とＳＤ－０９によりさらに４分割される様相が看取され、南北棟を主体とした中・小建物群で占められている。この内、１区については建物構成は不明であるが、瀬戸・美濃が多いという出土遺物の構成より本期の中心的な区画であったことが窺われる。加賀地方における名主クラスの宅地であろうか。また、３区南半については鎌砥石が多く出土していることから農民階層の居住区であった可能性が高い。４区については、西側に菜園と思われる耕作溝を有しやや広い空間を占めていることと併せ、５×４間クラスの建物ＳＢ－２３や付属屋、作業小屋若しくは納屋と思われるＳＢ－２２等の存在からやや富裕なクラスの自作農層の宅地と考えられる。いずれもほぼ同時期に機能した宅地であると思われ、従前の南端のみに展開した有力武士層の居館期から徐々に町場を整備していった足跡が窺われ、その画期は14世紀初頭頃に求められる。

本遺跡が中世集落として新たに整備されたのは古く見て12世紀末の段階であり、有力武士層の居館の存在は富樫氏による支配段階以前の支配構造を解明する良好な資料を提供したと言える。1335年（建武二）に現在の本町２丁目から住吉町にかけての一帯に守護所を構えたとされる富樫氏は、その後現在の野々市町の中心部分（館の西側）を主体として町場を整備していったとされるが、本遺跡の状況を見る限り１４世紀半ばでの大きな構成の変化は見出すことができない。しかし、その後の15世紀後半以降はおそらく町場整備に伴う移動を主因として徐々に衰退していき、１区において僅かに建物が散在するような景観に移り変わっていったのであろう。

再三記していることであるが、本遺跡で検出した建物跡には明確に伴う遺物が非常に少なく、明確な根拠を持っての建物分類は断念したが、常套手段である建物方位軸からの分類ではある程度グルーピングできる見通しを持っている。具体的には以下のとおりである。

| 類　型 | 軸方位（ＮＥ°） | 建　　物　　No. |
|---|---|---|
| Ⅰ | －１～１ | 22・23・24・26・28・29・30 |
| Ⅱ | ２～４ | (03)　・06・08・11・12・14・18・20・25・31・32 |
| Ⅲ | ６～８ | 04・05・07・19・27 |
| Ⅳ | 10～12 | 09・10・15・16・17 |
| その他 | 27～ | 13・21 |

これらにその立地状況を加味して再度グルーピングを施すと、可能性の高いものとして

Ａ：09・10・15・16・17・19・22・24・25・27

Ｂ：12・14・18・20・26

の大きく２つのグループが抽出できる。その他の建物の帰属及び時間列については不明のところが多

いが、ひとつの試案としてご容赦願いたい。

本報告に当たり、国立歴史民俗博物館名誉教授吉岡康暢氏・石川県教育委員会文化財課垣内光次郎氏には多面に亘り貴重なご教示を頂いた。特に、垣内氏には遺物の分類から時期区分に至るまで、中世遺物に不慣れな筆者に対して全般的なご指導を頂いた。氏のご厚情に深い感謝の念を表するとともに、その意を十分生かすことのできなかったことに対してお詫びする次第である。大方の御叱正を乞うものである。

**参考文献**

藤田　邦雄他　1988年『辰口西部遺跡群。』　石川県立埋蔵文化財センター
吉岡　康暢　1989年『日本海域の土器・陶磁』中世編　六興出版
原田　幹他　1992年『金沢市中屋サワ遺跡』　金沢市教育委員会
吉岡　康暢　1994年『中世須恵器の研究』　吉川弘文館
藤田　邦雄　1997年「中世加賀国の土師器様相」『中・近世の北陸』　北陸中世土器研究会
垣内光次郎　1997年「加賀国の陶磁器流通」『中・近世の北陸』　北陸中世土器研究会
田島　正和　1997年「遺構からみた加賀国」『中・近世の北陸』　北陸中世土器研究会
楠　正勝他　1998年『近岡遺跡』　金沢市埋蔵文化財センター
岩瀬　由美他　1998年『木越光琳寺遺跡』　石川県立埋蔵文化財センター
吉田　淳　2000年『長池キタノハシ遺跡』　野々市町教育委員会
布尾　幸恵他　2002年『藤江Ｃ遺跡、・・』「第３分冊　古代・中世編」　（財）石川県埋蔵文化財センター

**第56図**　主要遺構配置図(S=1/500)

# 表－4　扇が丘ハワイゴク遺跡　中世土器　組成

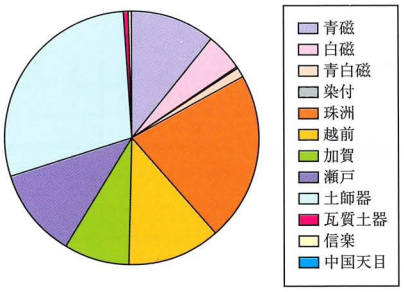
| 種　類 | 器　種 | 1　区 | 2　区 | 3　区 | SD－09 | SD－11 | 4　区 | 5　区 | 6　区 | 7　区 | 遺跡全体 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青　磁 | 碗 | 37 | 3 | 6 | 13 | 9 | | 23 | | 1 | 92 |
| | 碗(劃花文) | 1 | | | | | | 1 | | | 2 |
| | 小碗 | 1 | | | | | | 1 | | | 2 |
| | 皿 | 1 | | | | 1 | | 3 | | | 5 |
| | 稜花皿 | | | | | | | 1 | | | 1 |
| | 鉢 | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| | 小鉢 | | | | | 2 | | 2 | | | 4 |
| | 盤 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 壷 | | | | | | | | | | 0 |
| | 小壷(水差) | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 坏 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | その他 | 9 | | | 3 | 3 | | 2 | | | 17 |
| 青磁合計 | | 52 | 3 | 6 | 17 | 16 | 0 | 33 | 0 | 1 | 128 |
| 組成割合(%) | | 10.79 | 5.56 | 1.39 | 9.83 | 9.25 | 0 | 1.1 | 0 | 14.29 | 2.96 |
| 白　磁 | 碗 | 4 | 1 | 2 | 1 | 2 | | 13 | | | 23 |
| | 皿 | 6 | | 1 | 2 | 1 | | 2 | | | 12 |
| | 口禿 | 1 | | 2 | 2 | 1 | | 2 | | | 8 |
| | 台付 | 5 | 1 | 2 | 2 | 1 | | | | | 11 |
| | 端反 | 3 | | | 1 | | | | | | 4 |
| | 壷 | | | | | | | | | | 0 |
| | 坏 | 3 | | | 1 | 1 | | | | | 5 |
| | その他 | 1 | | | | 1 | | 1 | | | 3 |
| 白磁合計 | | 23 | 2 | 7 | 9 | 7 | 0 | 18 | 0 | 0 | 66 |
| 組成割合(%) | | 4.77 | 3.7 | 1.62 | 5.2 | 4.05 | 0 | 0.6 | 0 | 0 | 1.53 |
| 青白磁 | 合子 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 坏 | | | | 1 | | | 1 | | | 2 |
| | 梅瓶か？ | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 青白磁合計 | | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 4 |
| 組成割合(%) | | 0.21 | 0 | 0 | 0.58 | 0 | 0 | 0.07 | 0 | 0 | 0.09 |
| 染　付 | 碗 | 2 | | 1 | | 1 | | | | | 4 |
| | 皿 | 3 | | | | 2 | | | | | 5 |
| | 坏 | | | | | | | | | | 0 |
| | その他 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 染付合計 | | 6 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 組成割合(%) | | 1.24 | 0 | 0.23 | 0 | 1.73 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.23 |
| 珠　洲 | 甕 | 37 | 3 | 4 | 6 | 5 | | 21 | | 1 | 77 |
| | 壷 | 14 | | | 4 | 2 | | 17 | | 1 | 38 |
| | 擂鉢 | 52 | 2 | 9 | 22 | 9 | | 41 | 1 | | 136 |
| | 鉢 | 1 | | | | | | 1 | | | 2 |
| | 卸皿 | | | | 2 | | | | | | 2 |
| | その他 | | | 1 | 4 | | | 3 | | | 8 |
| 珠洲合計 | | 104 | 5 | 14 | 38 | 16 | 0 | 83 | 1 | 2 | 263 |
| 組成割合(%) | | 21.58 | 9.26 | 3.23 | 21.97 | 9.25 | 0 | 2.78 | 25 | 28.57 | 6.09 |
| 越　前 | 甕 | 34 | 1 | 4 | 8 | 8 | 2 | 4 | | 1 | 62 |
| | 壷 | 2 | 1 | | 5 | 1 | | 13 | | | 22 |
| | 擂鉢 | 7 | | 1 | | | | 2 | | | 10 |
| | その他 | 14 | | 1 | 4 | | | 2 | 1 | | 22 |
| 越前合計 | | 57 | 2 | 6 | 17 | 9 | 2 | 21 | 1 | 1 | 116 |
| 組成割合(%) | | 11.83 | 3.7 | 1.39 | 9.83 | 5.2 | 28.57 | 0.7 | 25 | 14.29 | 2.68 |
| 加　賀 | 甕 | 24 | 1 | 4 | 11 | 2 | | 28 | | | 70 |
| | 壷 | 3 | | | 2 | 1 | | 10 | | | 16 |
| | 小壷 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 擂鉢 | 7 | | 3 | | | | 12 | | | 22 |
| | その他 | 5 | 1 | 1 | 2 | 5 | | 4 | | 1 | 19 |
| 加賀合計 | | 40 | 2 | 8 | 15 | 8 | 0 | 54 | 0 | 1 | 128 |
| 組成割合(%) | | 8.3 | 3.7 | 1.85 | 8.67 | 4.62 | 0 | 1.81 | 0 | 14.29 | 2.96 |

| 種　類 | 器　種 | 1　区 | 2　区 | 3　区 | SD－09 | SD－11 | 4　区 | 5　区 | 6　区 | 7　区 | 遺跡全体 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 瀬　戸 | 天目茶碗 | 9 | | | 2 | 4 | | 1 | | | 16 |
| 灰　釉 | 皿 | 13 | | | 1 | 4 | | | | | 18 |
| | 卸皿 | 2 | | | | | | 1 | | | 3 |
| | 折縁小皿 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 碗 | 10 | | | | | | | | | 10 |
| | 丸碗 | | 1 | | | | | | | | 1 |
| | 平碗 | | | | 3 | 5 | | | | | 8 |
| | 盤 | 3 | 1 | | | | | | | | 4 |
| | 小壷 | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 花瓶 | | 1 | | | | | 1 | | | 2 |
| | 香炉 | | | | | | | | | | 0 |
| | 瓶 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 瓶子 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 鉢 | 5 | 1 | | 3 | 2 | | | | | 11 |
| | 行平 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | 3 |
| | その他 | 9 | | | | 3 | | 1 | | | 13 |
| | 灰釉合計 | 45 | 4 | 0 | 9 | 15 | 0 | 4 | 0 | 0 | 77 |
| 鉄　釉 | 皿 | | | | | | | | | | 0 |
| | 卸皿 | | 1 | | 1 | | | | | | 2 |
| | 碗 | | | | | | | | | | 0 |
| | 壷 | | | | | | | | | | 0 |
| | 花瓶 | | | | | | | 1 | | | 1 |
| | その他 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 鉄釉合計 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 瀬戸合計 | | 55 | 5 | 0 | 12 | 19 | 0 | 6 | 0 | 0 | 97 |
| 組成割合（%） | | 11.41 | 9.26 | 0 | 6.94 | 10.98 | 0 | 0.2 | 0 | 0 | 2.24 |
| 土師質 | 皿 | 139 | 35 | 385 | 62 | 94 | 5 | 2,770 | 2 | | 3,492 |
| 組成割合（%） | | 28.84 | 64.81 | 88.91 | 35.84 | 54.34 | 71.43 | 92.67 | 50 | 0 | 80.8 |
| 瓦　質 | 火鉢 | | | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| | 奈良産火鉢 | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 火桶 | | | | | | | 1 | | | 1 |
| | 小埦 | | | | | | | 1 | | | 1 |
| | その他 | 3 | | | 1 | 1 | | | | 1 | 6 |
| 瓦質合計 | | 3 | 0 | 4 | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 13 |
| 組成割合（%） | | 0.62 | 0 | 0.92 | 1.16 | 0.58 | 0 | 0.07 | 0 | 14.29 | 0.3 |
| 信　楽 | | | 2 | | | | | | | 2 | |
| | 大壷 | 2 | | | | | | | | | 2 |
| 信楽合計 | | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 組成割合（%） | | 0.41 | 0 | 0.46 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.09 |
| 中　国　天　目 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 組成割合（%） | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14.29 | 0.02 |
| 土器類合計 | | 482 | 54 | 433 | 173 | 173 | 7 | 2,989 | 4 | 7 | 4,322 |
| | | | | | | | | | | | |
| 砥　石 | 荒砥(大村か) | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 鎌砥 | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 備水(鎌砥) | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 中砥(常慶寺？) | | | 1 | | | | 2 | | | 3 |
| | 中砥 | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 仕上砥(鳴滝) | | | | | | | 5 | | | 5 |
| 温　石 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| | | | | | | | | | | | |
| 石製品合計 | | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 13 |

※　5区土師質土器には塙状製品を1点含む

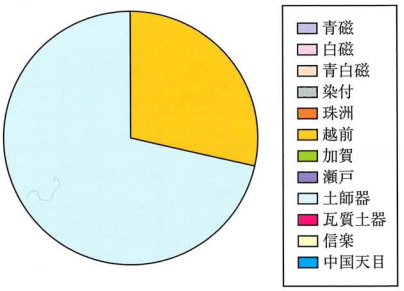
1　区

| | |
|---|---|
| 青磁 | 10.79 |
| 白磁 | 4.77 |
| 青白磁 | 0.21 |
| 染付 | 1.24 |
| 珠洲 | 21.58 |
| 越前 | 11.83 |
| 加賀 | 8.3 |
| 瀬戸 | 11.41 |
| 土師器 | 28.84 |
| 瓦質土器 | 0.62 |
| 信楽 | 0.41 |
| 中国天目 | 0 |



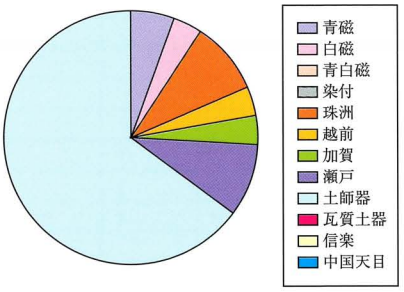

4　区

| | |
|---|---|
| 青磁 | 0 |
| 白磁 | 0 |
| 青白磁 | 0 |
| 染付 | 0 |
| 珠洲 | 0 |
| 越前 | 28.57 |
| 加賀 | 0 |
| 瀬戸 | 0 |
| 土師器 | 71.43 |
| 瓦質土器 | 0 |
| 信楽 | 0 |
| 中国天目 | 0 |



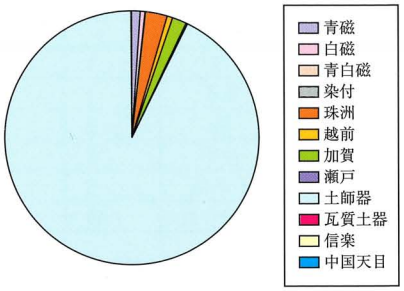

2　区

| | |
|---|---|
| 青磁 | 5.56 |
| 白磁 | 3.7 |
| 青白磁 | 0 |
| 染付 | 0 |
| 珠洲 | 9.26 |
| 越前 | 3.7 |
| 加賀 | 3.7 |
| 瀬戸 | 9.26 |
| 土師器 | 64.81 |
| 瓦質土器 | 0 |
| 信楽 | 0 |
| 中国天目 | 0 |



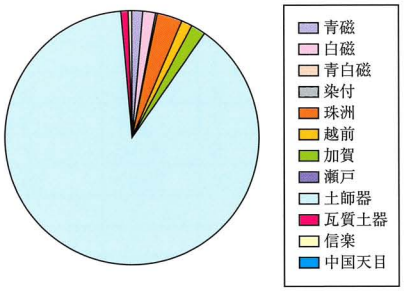

5　区

| | |
|---|---|
| 青磁 | 1.1 |
| 白磁 | 0.6 |
| 青白磁 | 0.07 |
| 染付 | 0 |
| 珠洲 | 2.78 |
| 越前 | 0.7 |
| 加賀 | 1.81 |
| 瀬戸 | 0.2 |
| 土師器 | 92.67 |
| 瓦質土器 | 0.07 |
| 信楽 | 0 |
| 中国天目 | 0 |



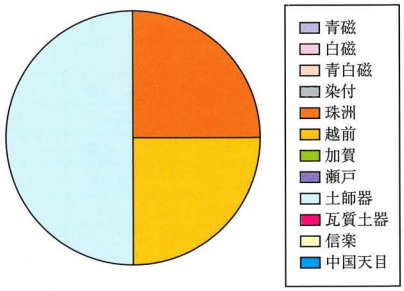

3　区

| | |
|---|---|
| 青磁 | 1.39 |
| 白磁 | 1.62 |
| 青白磁 | 0 |
| 染付 | 0.23 |
| 珠洲 | 3.23 |
| 越前 | 1.39 |
| 加賀 | 1.85 |
| 瀬戸 | 0 |
| 土師器 | 88.91 |
| 瓦質土器 | 0.92 |
| 信楽 | 0.46 |
| 中国天目 | 0 |



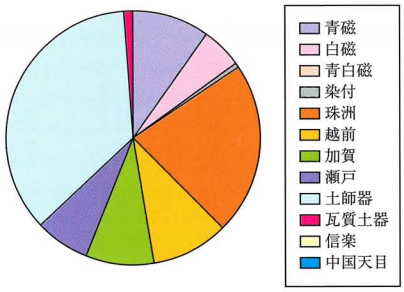

6　区

| | |
|---|---|
| 青磁 | 0 |
| 白磁 | 0 |
| 青白磁 | 0 |
| 染付 | 0 |
| 珠洲 | 25 |
| 越前 | 25 |
| 加賀 | 0 |
| 瀬戸 | 0 |
| 土師器 | 50 |
| 瓦質土器 | 0 |
| 信楽 | 0 |
| 中国天目 | 0 |



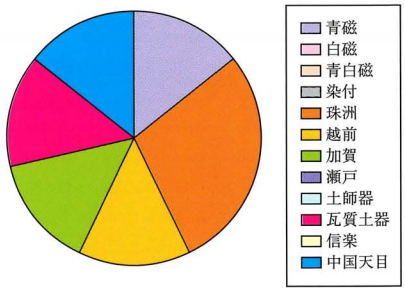

SD-09

| | |
|---|---|
| 青磁 | 9.83 |
| 白磁 | 5.2 |
| 青白磁 | 0.58 |
| 染付 | 0 |
| 珠洲 | 21.97 |
| 越前 | 9.83 |
| 加賀 | 8.67 |
| 瀬戸 | 6.94 |
| 土師器 | 35.84 |
| 瓦質土器 | 1.16 |
| 信楽 | 0 |
| 中国天目 | 0 |



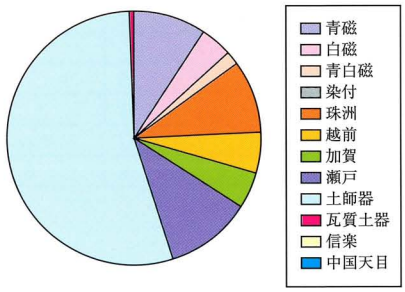

7　区

| | |
|---|---|
| 青磁 | 14.29 |
| 白磁 | 0 |
| 青白磁 | 0 |
| 染付 | 0 |
| 珠洲 | 28.57 |
| 越前 | 14.29 |
| 加賀 | 14.29 |
| 瀬戸 | 0 |
| 土師器 | 0 |
| 瓦質土器 | 14.29 |
| 信楽 | 0 |
| 中国天目 | 14.29 |



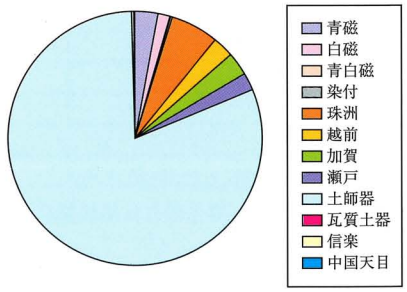

SD-11

| | |
|---|---|
| 青磁 | 9.25 |
| 白磁 | 4.05 |
| 青白磁 | 0 |
| 染付 | 1.73 |
| 珠洲 | 9.25 |
| 越前 | 5.2 |
| 加賀 | 4.62 |
| 瀬戸 | 10.98 |
| 土師器 | 54.34 |
| 瓦質土器 | 0.58 |
| 信楽 | 0 |
| 中国天目 | 0 |




遺跡全体

| | |
|---|---|
| 青磁 | 2.96 |
| 白磁 | 1.53 |
| 青白磁 | 0.09 |
| 染付 | 0.23 |
| 珠洲 | 6.09 |
| 越前 | 2.68 |
| 加賀 | 2.96 |
| 瀬戸 | 2.24 |
| 土師器 | 80.8 |
| 瓦質土器 | 0.3 |
| 信楽 | 0.09 |
| 中国天目 | 0.02 |




**第57図**　扇が丘ハワイゴク遺跡土器組成

遺跡鳥瞰（1998年度撮影、西より）

1区西半全景（南西より）

図版2

1区　ＳＩ－ＳＫ群（北←）

1997年度調査区全景（西より）

2・3区全景（北より）

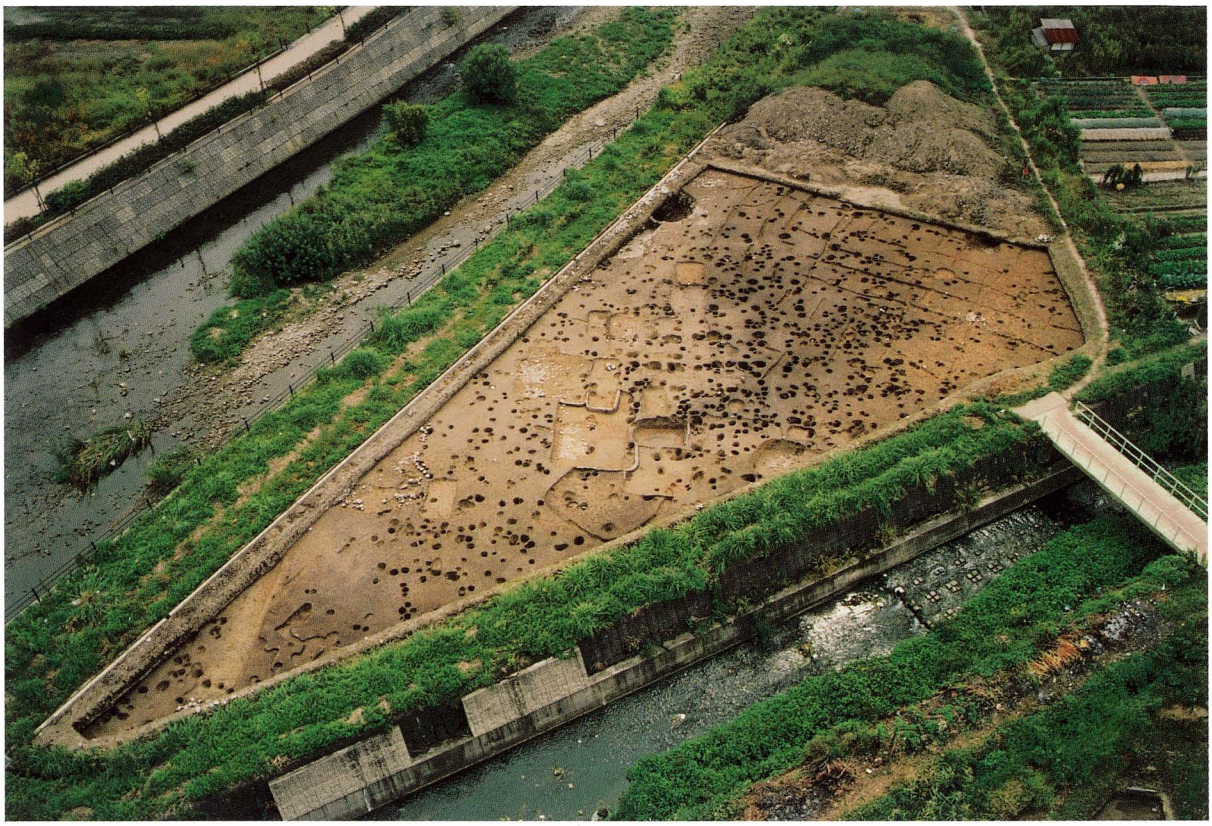
2区全景（北←）

図版4

3区　北半（北↑）

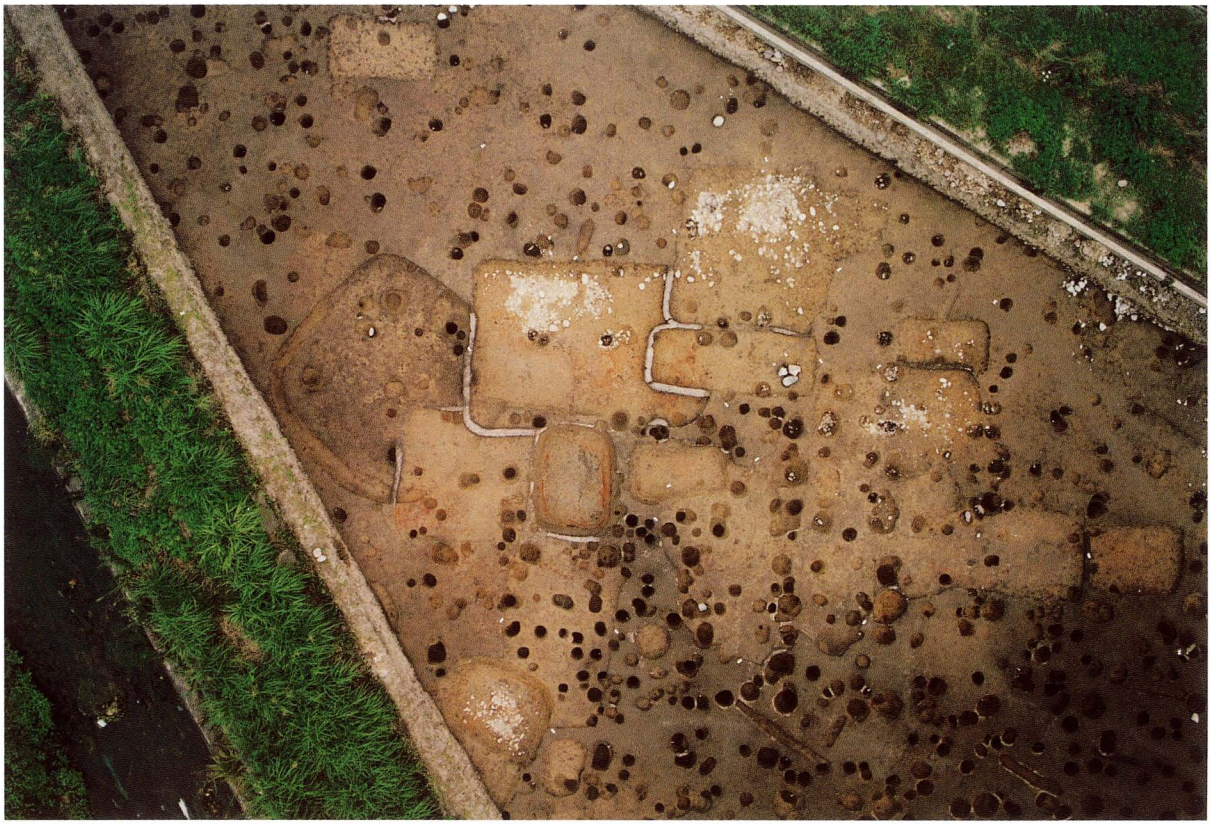
3区　南半（↑）

4区　全景（北←）



5区　全景（北↓）

図版6



5区　ＳＩ・ＳＫ群（北←）

ＳＢ－32　全景（北←）

7区　全景（北西より）

ＳＤ－17（北←）

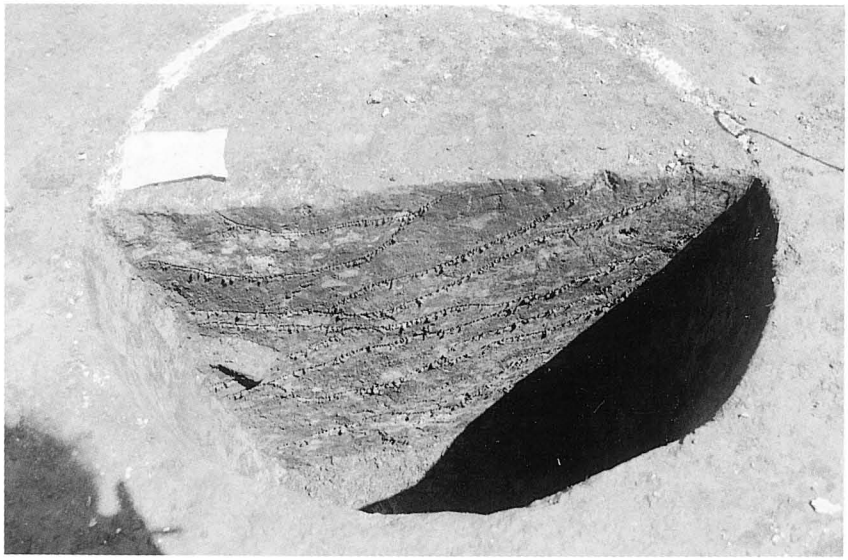
図版8

1区東半全景
（南東より）

ＳＢ－01
（南より）

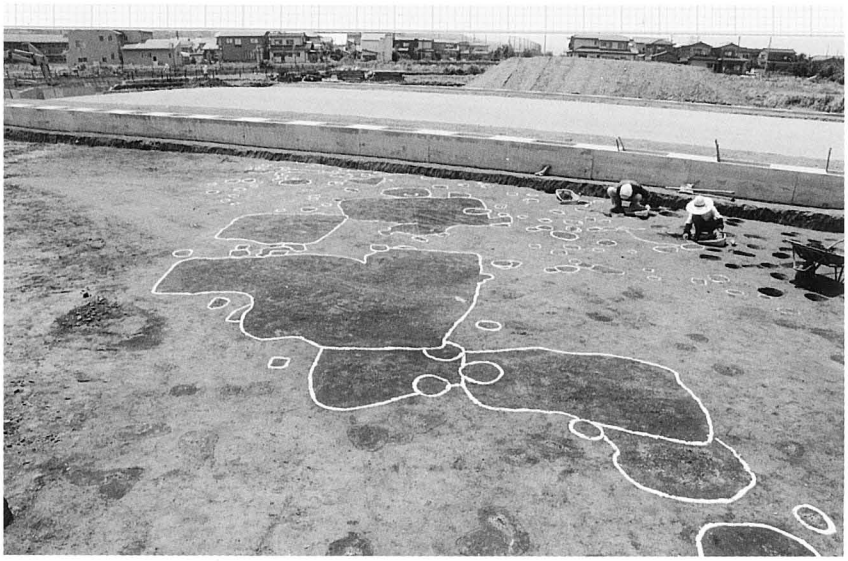
ＳＢ－01・ＳＩ－01
（西より）

図版9



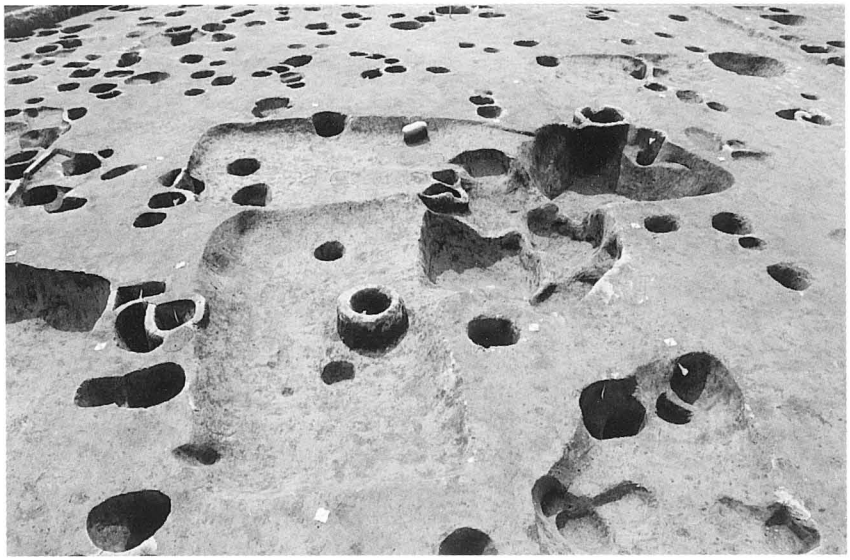
ＳＫ－01土層堆積
状況

ＳＫ－01



１区西半　土坑群
検出状況（南より）

図版10



1区　土坑群
（東より）

ＳＫ－07～11

ＳＩ－02
（南より）

図版11

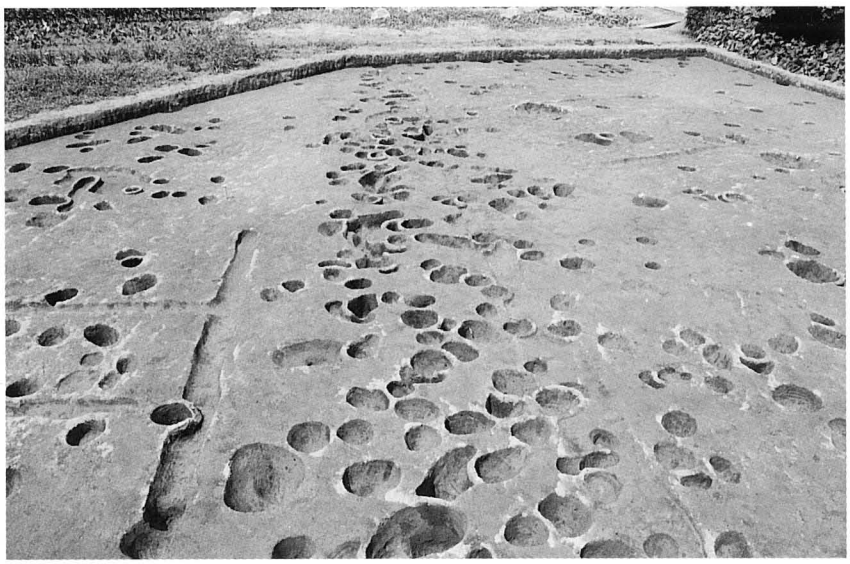
ＳＩ－03
（南西より）

ＳＫ－02・03
（東から）

ＳＫ－15
（東から）

図版12

ＳＤ－01
（南より）



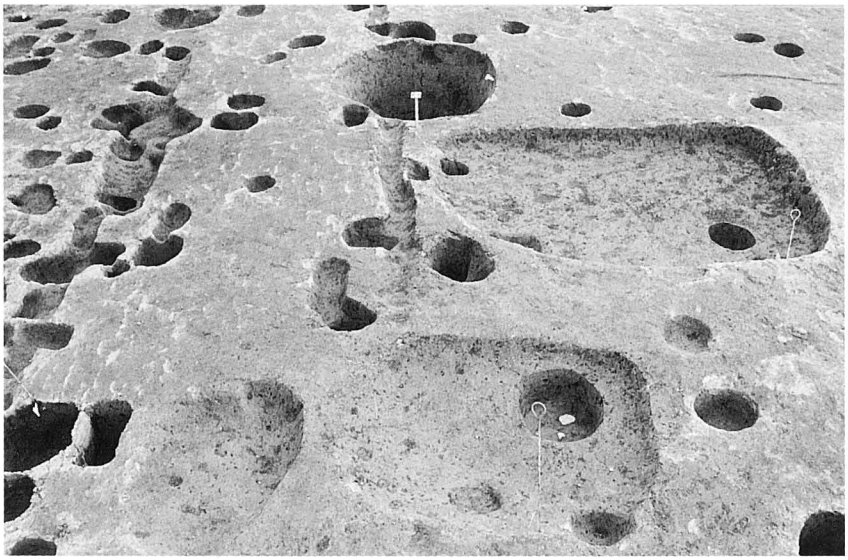
１区道状遺構
（南より）

２区・ＳＤ－07・08
（南西より）

図版13

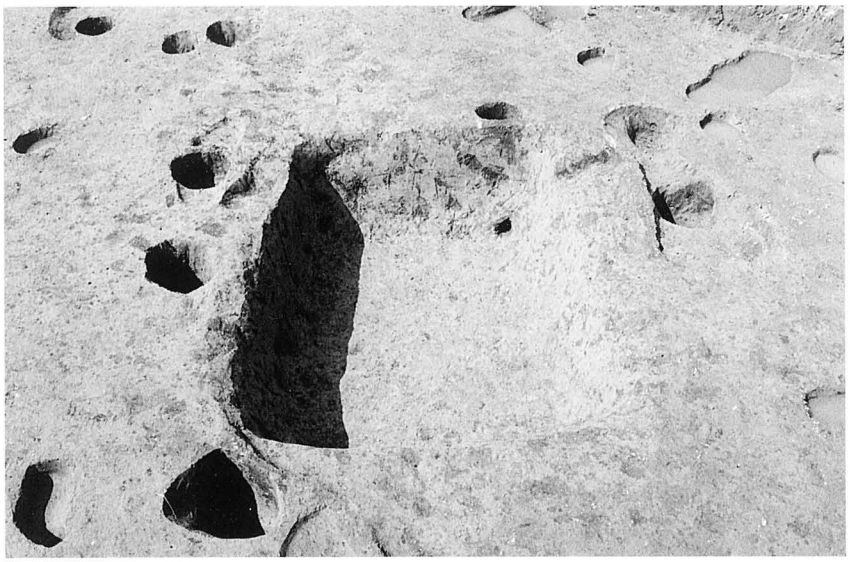
ＳＩ－05
（南より）

ＳＩ－07
（北より）



ＳＩ－06・ＳＫ20（手前）
（北より）

図版14



ＳＫ－18
（南より）

ＳＫ－21
（西より）

ＳＫ－22・23
（北西より）

ＳＫ－24
（北より）

ＳＫ－30
（東より）

ＳＫ－34
（東より）

図版16

ＳＫ－35
（南より）

ＳＤ－09
（西より）

３区・道状遺構
（北より）

ＳＩ－08・09
（東より）

ＳＫ－37
（南東より）

ＳＫ－45
（北西より）

図版18

ＳＤ－15
（北東より）

６区全景
（東より）

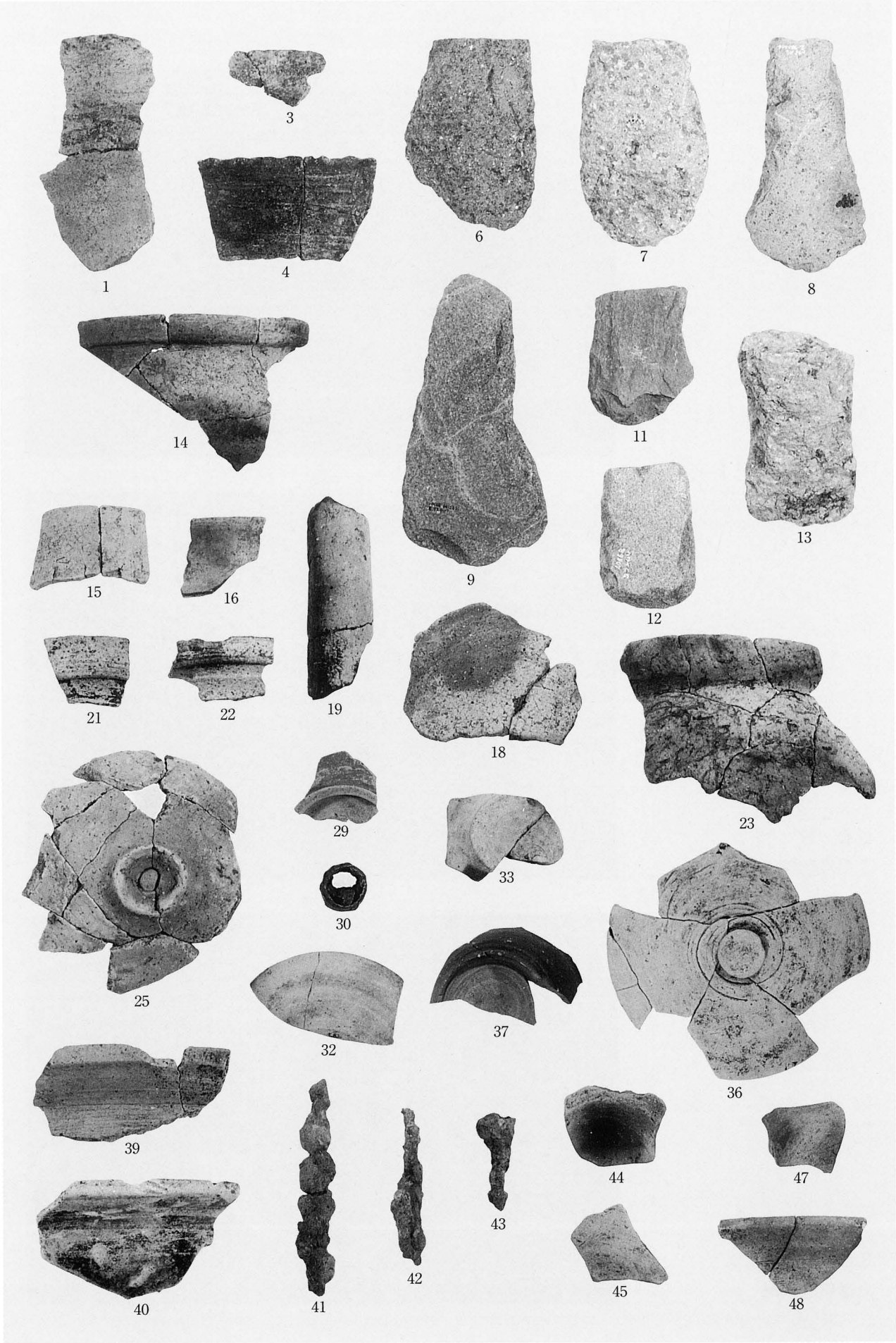
ＳＫ－49
（南東より）

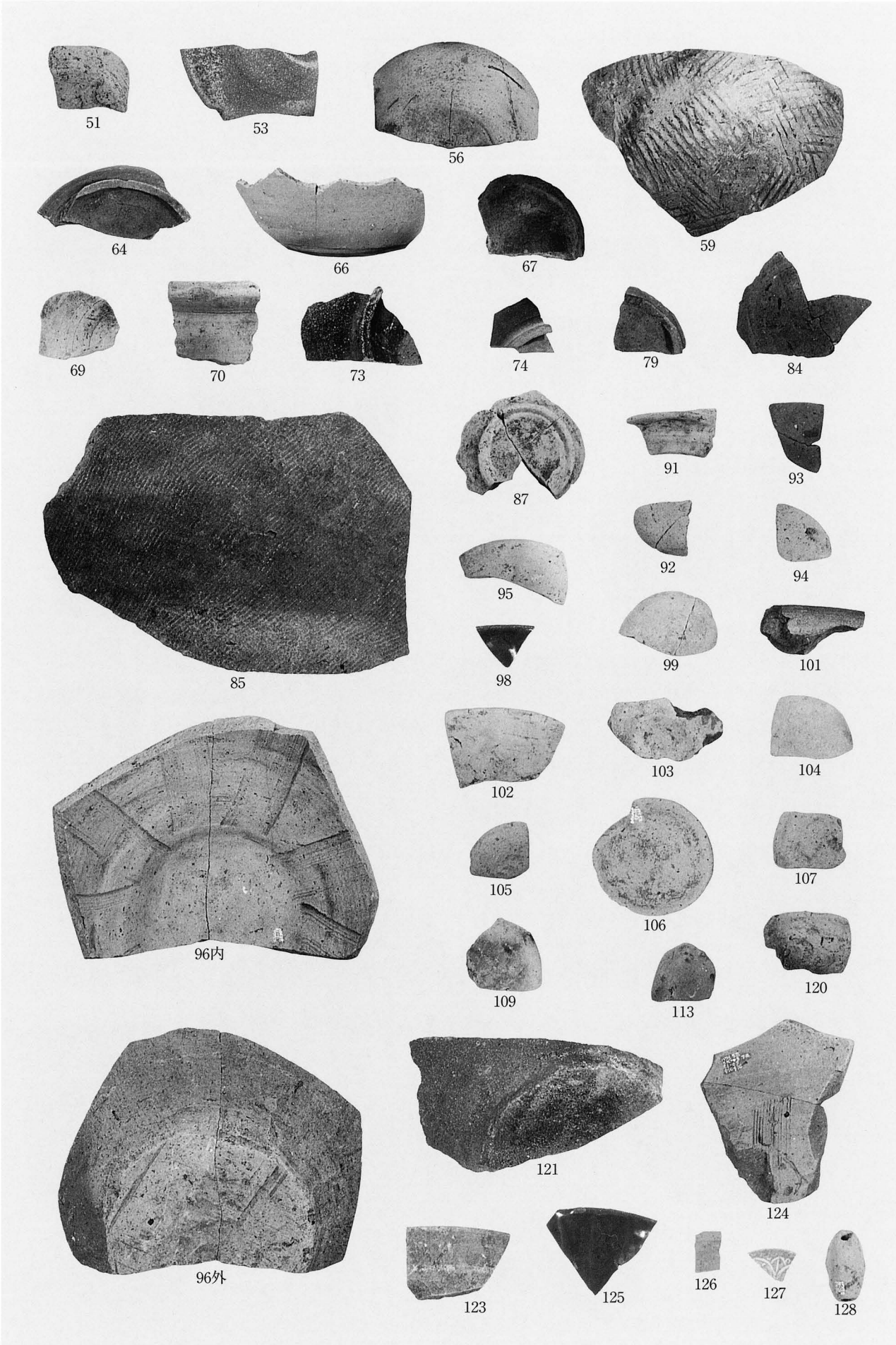
ＳＤ－17
（南東より）

ＳＤ－17
土層堆積状況

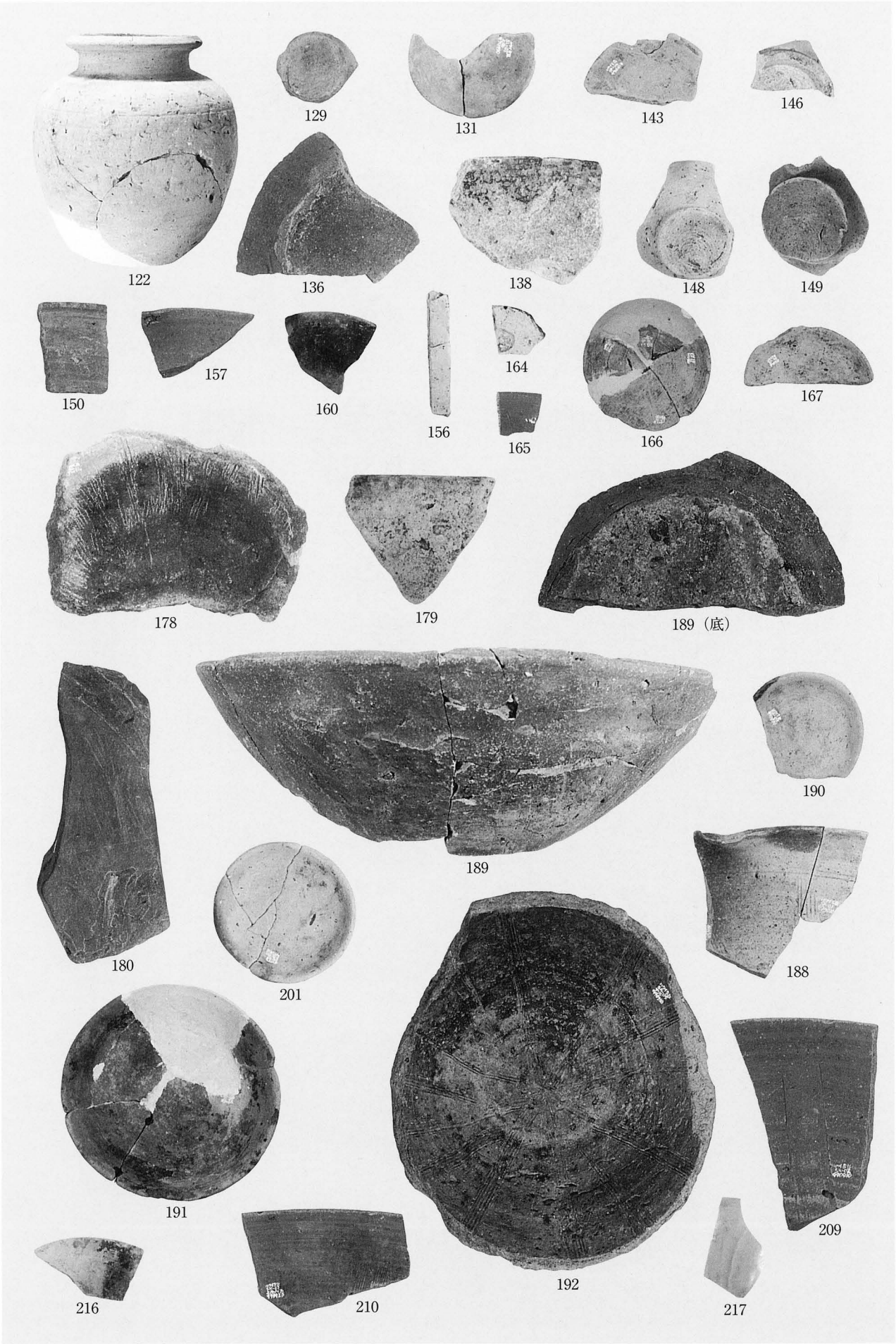
ＳＤ－17内側上面
土器出土状況

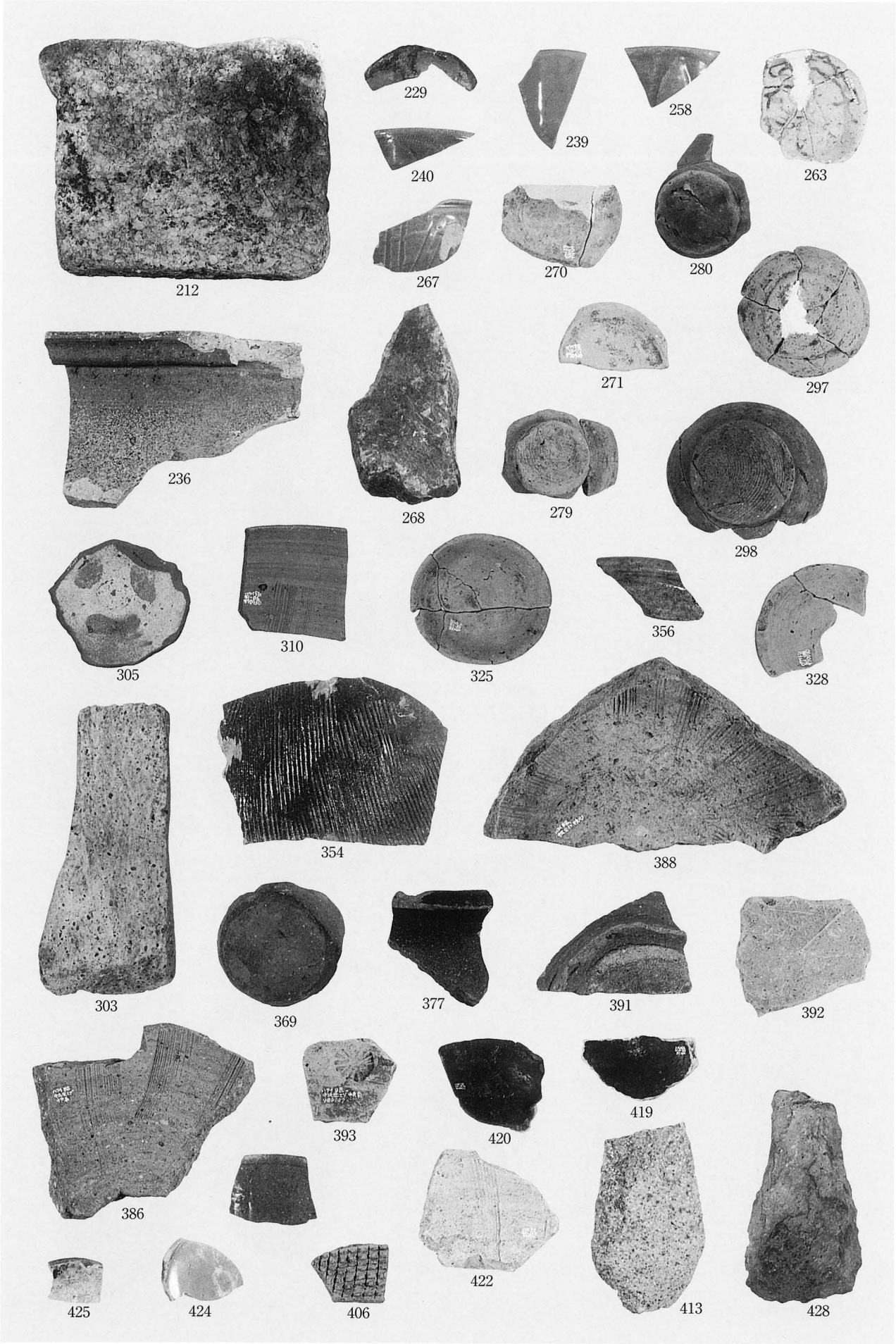
図版20


1
3
4
6
7
8
9
11
12
13
14
15
16
18
19
21
22
23
25
29
30
32
33
36
37
39
40
41
42
43
44
45
47
48

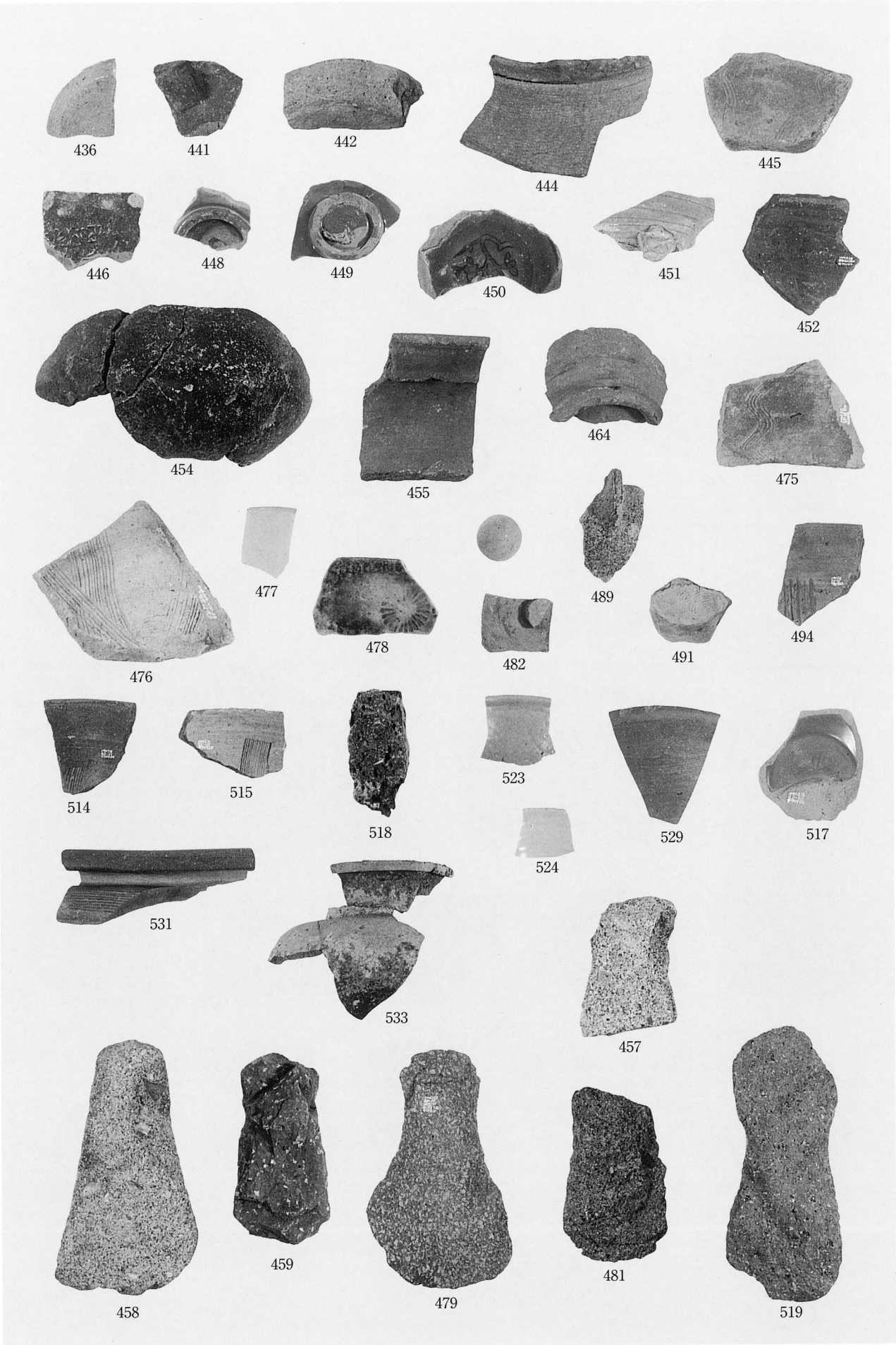

51
53
56
59
64
66
67
69
70
73
74
79
84
85
87
91
93
92
94
95
98
99
101
102
103
104
105
106
107
109
113
120
96内
96外
121
124
123
125
126
127
128

図版22


122
129
131
143
146
136
138
148
149
150
157
160
156
164
165
166
167
178
179
189（底）
180
189
190
201
188
191
192
209
216
210
217


212
229
239
258
263
240
267
270
280
297
236
268
271
279
298
305
310
325
356
328
303
354
388
369
377
391
392
386
393
420
419
422
413
428
425
424
406

図版24


436
441
442
444
445
446
448
449
450
451
452
454
455
464
475
476
477
478
482
489
491
494
514
515
518
523
524
529
517
531
533
457
458
459
479
481
519

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | おおぎがおかはわいごくいせき |
| 書名 | 扇が丘ハワイゴク遺跡 |
| 副書名 | 扇が丘・住吉土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 扇が丘・住吉土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | Ⅲ |
| 編著者名 | 横山貴広 |
| 編集機関 | 石川県石川郡野々市町教育委員会 |
| 所在地 | 〒921-8815　石川県石川郡野々市町本町5丁目4番1号 |
| 発行年月日 | 西暦2003年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>m² | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| おおぎがおか<br>扇が丘<br>ハワイゴク<br>遺跡 | いしかわけん<br>石川県<br>いしかわぐん<br>石川郡<br>ののいちまち<br>野々市町<br>おおぎがおか<br>扇が丘 | 17344 | 01122 | 36°<br>31′<br>18″ | 136°<br>37′<br>37″ | 19970509<br>～<br>19971021<br>19980507<br>～<br>19980810<br>20000511<br>～<br>20000620 | 4,700<br>1,783<br>260 | 土地区画<br>整理事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 扇が丘<br>ハワイゴク | 集落跡 | 縄文時代後期中葉 | ピット<br>旧河道跡 | 縄文土器<br>打製土掘具 | 溝により区画された12世紀から15世紀の集落跡を確認。中世初頭の開発領主層の居館を検出。 |
| | | 弥生時代後期後半 | 竪穴住居<br>ピット | 弥生土器 | |
| | | 奈良・平安時代 | 竪穴住居<br>掘立柱建物<br>土坑・ピット | 須恵器<br>土師器 | |
| | | 鎌倉・室町時代 | 掘立柱建物<br>柵列<br>竪穴状遺構<br>土坑・ピット<br>溝・道状遺構 | 土師器<br>中世陶磁器<br>石製品 | |

**扇が丘ハワイゴク遺跡**

発　　行　2003年３月31日（平成15年）
編集発行　野々市町教育委員会
〒921-8815
石川県石川郡野々市町本町５丁目４番１号
☎076-248-8545
印　　刷　株式会社 ショセキ